



# 京都観光・MICE振興計画2030

## 資料集

令和8(2026)年3月

「京都観光振興計画2025」における主な取組、現状・成果、課題	2
「京都観光振興計画2025」における取組の経過	3
柱毎の状況	4
「京都観光振興計画2025」指標・目標値の状況	10
参考1 主な取組	16
参考2 コロナ禍における取組	23
京都の観光・MICEの現状	25
観光・MICEの動向	26
社会動向	31
京都市の観光関連予算等	33
世界・国内の動向と今後の見通し	36
世界の観光動向	37
日本の観光動向	38
社会動向	41
持続可能な観光	47
国における観光政策	50
MICEの動向	54



## 「京都観光振興計画2025」における主な取組、現状・成果、課題

# 「京都観光振興計画2025」における取組の経過

区分/年度	R2		R3	R4	R5	R6	R7		
柱1. 市民生活と観光の調和・両立、豊かさの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都観光モラル策定</li> <li>・各種支援補助 (コロナ関連) (～R3)</li> <li>・観光事業者向け感染症対策サポートナビ運営</li> <li>・宿泊施設における原則駐在の義務付け</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光がもたらす効果の見える強化の開始</li> <li>・観光事業従事者へのワクチン職域接種実施</li> <li>・業界団体と共に、新しい京都観光に向けた共同宣言の実施</li> <li>・宿泊施設の構想段階での住民説明手続の義務付け</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>・観光課題対策の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都観光モラル宣言事業者・優良事業者表彰制度の開始</li> <li>・宿泊施設等と連携した京都経済の域内循環促進の開始</li> <li>・観光課題に関する国への緊急要望</li> <li>・認定通訳ガイド新規募集再開</li> <li>・祇園祭における高付加価値体験事業の開始(DMO)</li> <li>・「市民生活と観光の調和推進プロジェクトチーム」設置</li> <li>・観光特急バスの導入</li> <li>・市バス等の市民優先価格の検討開始</li> <li>・「民泊の規制強化の検討等」を発表</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・民泊の規制強化の検討等を発表</li> </ul>	
柱2. 京都観光の質・満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3密を避けた観光の促進 (～R4)</li> <li>・地元応援!食べよう泊まろうキャンペーン</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・KYOTO again!キャンペーン</li> <li>・平日の京都へ!おこしやすキャンペーン</li> <li>・宿泊施設に係るバリアフリー基準を充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外客向けプロモーション再開</li> <li>・京都にち・とまキャンペーン (日曜日等の宿泊喚起)</li> <li>・商店街等のキャッシュレス・DXチャレンジ支援の開始</li> <li>・業界への就職等につながる魅力発信開始</li> <li>・担い手確保に関する緊急支援の実施</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・万博アクションプランに掲げる周遊観光促進等の各誘客事業の実施</li> </ul>	
柱3. 観光産業の活性化、従事者の活躍促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種補助・キャンペーン等による事業者支援(～R4)</li> <li>・中小企業等のデジタル化支援の開始</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・外客向け緊急・災害時の案内強化(公式サイト等)</li> <li>・SDGs探究学習プログラム「Q都スタディトリップ」開始</li> <li>・「脱炭素先行地域」への選定</li> </ul>					
柱4. 安心・安全、危機対応力の向上、環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策ガイドライン推進宣言制度及び事業所ステッカー交付(～R5)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・外客向け緊急・災害時の案内強化(公式サイト等)</li> <li>・SDGs探究学習プログラム「Q都スタディトリップ」開始</li> <li>・「脱炭素先行地域」への選定</li> </ul>					
柱5. MICEの振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心安全なMICE助成</li> <li>・安心安全なMICE開催に向けたガイドラインの策定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・MICE主催者向けPCR検査支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サステナブルなMICE開催支援補助制度開始</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都の強みを活かしたMICE誘致の強化</li> </ul>	
主な出来事	コロナ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍(緊急事態宣言①、②)</li> <li>・GoToトラベルキャンペーン(国)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍(緊急事態宣言③ まん延防止等重点措置①～④)</li> <li>・府内版GoTo(国、府)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍</li> <li>・訪日客の段階的な受入緩和(国)</li> <li>・府内版GoTo、全国旅行支援(国、府)</li> <li>・五山送り火、時代祭 3年ぶりに本来の形で実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・水際対策終了、コロナ5類移行</li> <li>・中国、日本への団体旅行解禁</li> <li>・全国旅行支援(国、府)</li> <li>・葵祭、祇園祭 4年ぶりに本来の形で実施</li> </ul>	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック・パラリンピック</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁の京都移転</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国、首相指示の下、オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策パッケージ発表</li> <li>・京都市立芸術大学の京都駅前移転</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産「古都京都の文化財」登録30周年</li> <li>・訪日外客数過去最多を記録</li> <li>・大阪・関西万博</li> <li>・中国政府による日本への渡航自粛の呼びかけ</li> </ul>	
	評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Travel + Leisure世界第6位</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Travel + Leisure世界第5位</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際会議開催件数 国内第2位 (ICCA基準)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Travel + Leisure世界第3位</li> <li>・スイス観光賞受賞(アジア初)</li> <li>・国際会議開催件数 国内第2位 (ICCA基準)</li> </ul>	
動向関連データ/年	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
観光客数	5,352万人	2,159万人	2,102万人	4,361万人	5,028万人	5,606万人	京都観光総合調査		
日本人観光客数	4,466万人	-	-	-	4,319万人	4,518万人	京都観光総合調査		
外国人観光客数	886万人	-	-	-	709万人	過去最高 1,088万人	京都観光総合調査		
観光消費額	12,367億円	4,535億円	4,457億円	10,179億円	15,366億円	過去最高 19,075億円	京都観光総合調査		
国際会議開催件数	過去最高 383件	26件	4件	70件	172件	215件	JNTO 国際会議統計		

「京都観光・MICE振興計画2030」策定

宿泊税の税率の見直し

【主な取組】

- 観光に対する市民理解の促進を図るため、**観光がもたらす効果の見える化**に本格着手
- **コロナ禍後は、観光課題対策を強化**し、課題ごとに粘り強く対策を実施

【現状・成果】

- コロナ禍で「**京都市の発展に観光が重要な役割を果たしていると思う市民の割合**」が大きく上昇(①⑥)
- **観光課題対策の強化により、一定、市民生活への影響の抑制・未然防止に寄与**(②③)

【課題】

- **依然として多くの市民が混雑や観光客のマナー違反に迷惑**(①①～⑤)。地域ごとに様々な観光課題が顕在化(④)
- コロナ禍からの回復に伴い、**民泊に係る通報が増加傾向**(①⑦)
- 市民の宿泊税の使途の認知度は3割強に留まる(①⑧)

①市民の意識

出典) 1～6、8:「京都観光に関する市民意識調査」(R2から調査開始)、7:「京都市民泊ポータルサイト」  
 ※1:設問変更等に併し比較可能な年のみを記載、※2:R7は「迷惑している」と回答した市民の割合

区分※1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
1. 公共交通機関が混雑して迷惑した※2	-	-	58.3%	62.4%	67.0%	(63.8%)
2. 道路が渋滞して迷惑した※2	-	-	61.9%	61.1%	60.3%	(55.9%)
3. 一部観光地が混雑して迷惑した※2	-	-	60.4%	66.4%	71.4%	(70.6%)
4. 観光客のマナー違反によって迷惑した※2	-	-	38.5%	47.7%	55.0%	(56.3%)
5. 上記4項目のうちいずれか1項目以上に迷惑した※2	-	-	78.0%	77.3%	80.1%	(79.9%)
6. 京都市の発展に観光が重要な役割を果たしていると思う	64.7%	74.5%	72.9%	72.7%	70.6%	70.1%
7. 民泊通報・相談窓口の通報等受付件数 (年度集計、R7年度は、R8.1月末時点)	158件	91件	83件	199件	244件	278件
8. 宿泊税の使途の認知度	-	-	-	22.9%	-	33.0%

②分散化の現状

時期	・日帰りの日本人観光客の平準化が進んだことで <b>繁閑差は大きく縮小</b> (月別繁閑差: H15: 3.6倍→R6: 1.3倍)
時間	・朝・夜観光を経験した観光客は横這い傾向 【朝観光】日本人: 32.5%、外国人: 69.4% 【夜観光】日本人: 36.5%、外国人: 78.9% (いずれもR6)
場所	・直近10年では、日本人は清水・祇園や嵯峨・嵐山周辺等で減少傾向、外国人は元離宮二条城や伏見稲荷大社周辺等で増加傾向 ・大原、山科、高雄、西京、伏見、京北周辺など、 <b>混雑が比較的発生していないエリアへの訪問率は、低水準で横ばい傾向</b>

③混雑の現状

公共交通	・地下鉄をはじめとした鉄道を生かした移動経路の分散や、観光特急バスの新設、市バス・地下鉄の臨時増発等の取組を推進 ・京都駅等の鉄道駅と人気スポットを結ぶ市バス等において、 <b>一部の区間や時間帯に、観光客の利用が集中</b> ・大型手荷物を携行する観光客は約6割がタクシーを利用する傾向にあるが、依然としてバス車内への大型手荷物の持ち込みも見られる
京都駅	・サブゲートの利用促進等の取組を推進 ・ハイシーズンには多くの利用者が京都駅に集中。 <b>京都駅と観光地を結ぶ一部バス路線における車内混雑などにつながっている</b>
道路	・パークアンドライドの推進や、観光バスの路上滞留対策、清水坂観光駐車場の完全予約制等の取組を推進 ・H22に28.9%あった観光客のマイカー割合がR6には10.0%まで減少。一方で、 <b>一部の時期・時間・区間において通行車両の集中による渋滞や人の混雑が発生</b> ・宿泊施設や観光客向けの食事施設近辺の幹線道路における観光バスの路上滞留が見られる

④地域毎の主な課題

東山地域	・東大路通の渋滞(四条～五条間南行)、市バスの混雑 ・清水坂駐車場に向かう観光バス等による五条坂の混雑 ・五条通での観光バスの路上滞留
嵐山地域	・渡月橋や長辻通等、特定の場所への観光客の集中 ・飲食を伴い周遊する観光客が多く、ごみが生じやすい
祇園地域	・マナー問題(芸妓・舞妓への迷惑行為、車道にはみ出す等) ・昼夜を問わず多量のごみが発生
伏見稲荷周辺	・稲荷新道における広がった歩行、踏切での混雑、本町通(JR稲荷駅前、裏参道との交差点)の混雑 ・ごみのポイ捨てや踏切内での写真撮影等のマナー問題

【主な取組】

- 観光関連事業者・従事者等、観光客及び市民といった京都観光に関わる人々が、お互いを尊重しあえる関係を築けるよう、各者と共に大切にしていきたい内容を取りまとめた「**京都観光行動基準**」(京都観光モラル)を策定(令和2年11月策定)
- 「京都観光行動基準」(京都観光モラル)の普及・実践を促進するため、観光客向けのプロモーションや、事業者向けの優良事例の発信等を実施

【現状・成果】

- 自治活動への参加など、**地域との調和に積極的に取り組んでいる観光関連事業者の割合は5割前後**で推移(①)  
(「取り組んでいる」も含めると約7割)
- ごみを持ち帰る、敬意を払う・礼儀正しくするなど、**訪問地域を思いやる行動を取った観光客の割合は7、8割**で推移(②)
- **京都市が観光で評価されていることを誇りに感じる市民の割合は6割強**で推移(③)

【課題】

- 引き続き粘り強い取組が必要

①事業者の取組状況

区分	R3	R4	R5	R6	R7
地域との調和につながる活動に積極的に取り組んでいる事業者の割合	※1 45.8%	※1 56.7%	51.0%	49.0%	—※2

出典)「京都観光事業者実態調査」(R3から調査開始)  
 ※1 設問変更に伴い過年の数値を再集計したデータ  
 ※2 設問設計を大幅に変更したため、過年の数値との比較はできない

②観光客の意識

区分		R3	R4	R5	R6
訪問地域を思いやる行動をとった観光客の割合※	日本人	71.8%	66.7%	67.0%	67.6%
	外国人	—	—	80.2%	75.5%

出典)「京都観光総合調査」  
 ※ 日本人はR3調査開始、外国人はR5調査開始

③市民の意識

区分	R3	R4	R5	R6	R7
京都市が観光で評価されることを誇りに思う市民の割合	68.1%	67.4%	64.9%	65.8%	65.2%

出典)「京都観光に関する市民意識調査」(R2から調査開始)

# 柱毎の状況【柱2. 京都観光の質・満足度の向上】

## 【主な取組】

- コロナ禍では密を回避した観光を推進。コロナ禍後も、その取組を活かし、**時期・時間・場所の分散化につながる取組を推進**
- コロナ禍後は、高付加価値化や府市連携による広域周遊の促進など、**京都観光の質・満足度の向上を推進**

## 【現状・成果】

- **観光客の満足度が上昇**  
 [大変満足～やや満足 日本人 H27:88.9%→R6:94.6%、外国人 H27:98.1%→R6:97.2%]  
 [うち、大変満足 日本人 H27:21.3%→R6:25.9%、外国人 H27:44.6%→R6:49.5%] (①)
- 宿泊客を中心に、物価・為替の影響以上に一人当たりの**観光消費額単価が増加**(②)
- **訪日客の京都への訪問率は増加傾向**(②)。外国人観光客の宿泊割合も大きく伸長(①③)

## 【課題】

- **日本人観光客のリピーター率(京都訪問10回目以上)が減少傾向**(①④)
- **全国と同様に、長期トレンドでは日本人観光客数が減少基調**(②)  
 (R6値と直近10年のピーク時で国内旅行者数を比較すると、全国は▲16.6%であるのに対し、京都市は▲13.1%)

## ①観光動向

出典)「京都観光総合調査」  
 ※ コロナ禍のため調査未実施

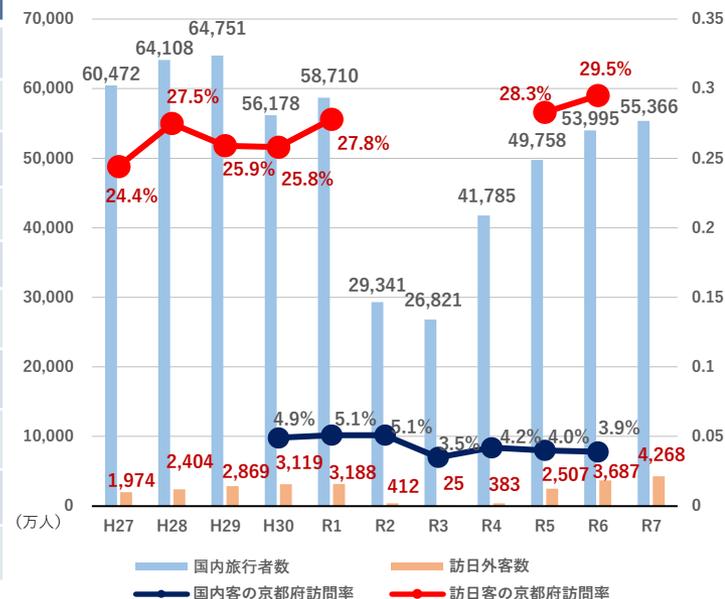
区分		R1	R2	R3	R4	R5	R6
1. 京都観光の満足度	日本人 (大変満足～やや満足)	91.3%	95.8%	95.1%	95.2%	93.9%	94.6%
	(大変満足)	22.6%	29.2%	26.1%	28.3%	25.0%	25.9%
	外国人 (大変満足～やや満足)	97.6%	—※	—※	—※	98.1%	97.2%
	(大変満足)	40.9%	—※	—※	—※	53.8%	49.5%
2. 観光消費額単価	日本人	20,267円	—※	—※	—※	23,809円	23,355円
	外国人	37,437円	—※	—※	—※	71,661円	78,346円
3. 観光客に占める宿泊者の割合	日本人	21.0%	—※	—※	—※	21.7%	17.9%
	外国人	42.9%	—※	—※	—※	75.6%	75.5%
4. リピーター率	日本人 (10回以上) H27:62.0% →	59.1%	47.0%	58.1%	56.1%	56.5%	53.0%
	外国人 (2回以上)	22.4%	—※	—※	—※	26.7%	24.1%

(参考1) 消費者物価指数  
 R1:100 → R7:111.9 (+11.9)

(参考2) 為替相場の推移  
 ドル円 R1:109.2 → R6:157.9 (+35.3)  
 ユーロ円 R1:122.6 → R6:164.0 (+41.4)

出典) 消費者物価指数:「消費者物価指数」(総務省) (R2を100とした場合の各年の総合指数)  
 ドル円:「時系列統計データ検索サイト」(日本銀行)、ユーロ円:「Euro foreign exchange reference rates」(European Central Bank)

## ②国内旅行者数・訪日外客数及び京都府訪問率の推移



出典) 以下の統計調査に基づき本市で作成  
 国内旅行者数及び国内客の京都府訪問率:「旅行・観光消費動向調査」(観光庁)  
 訪日外客数:「訪日外客統計」(JNTO)  
 訪日客の京都府訪問率:「インバウンド消費動向調査」(観光庁)  
 ※ あくまで全国と京都府との比較であることに留意

# 柱毎の状況【柱3. 観光産業の活性化、従事者の活躍促進】

## 【主な取組】

- コロナ禍では、事業者向けの補助事業や様々なキャンペーンを実施。コロナ禍を境に様々な業界で急速にデジタル化・DXが進む中、生産性向上や販路拡大等を目的に**観光関連事業者等向けのデジタル化・DX支援**にも着手
- 観光が急回復する中、担い手確保に関する緊急支援を実施。また、**担い手の確保・定着につながるよう、業界の魅力発信**を開始

## 【現状・成果】

- **6、7割の観光関連従事者が、京都の観光業界で働き続けたい、今の仕事にやりがいをもって取り組んでいる、京都観光が大好き**と感じている(①1~3)

## 【課題】

- **従事者の仕事の満足度が減少**(R4:65.9%→R7:62.5%)(①4)
- 従事者の仕事に対する意識と市民の観光業に対するイメージとの間にギャップが見られるなど、**観光関連業界の魅力が市民に十分に伝わっていない**(②)
- 市内の観光関連事業者のうち半数の事業者がデジタル化の推進に積極的に取り組んでいるが(③)、**観光関連産業は依然として全国的に労働生産性が低い**傾向(④)

### ①従事者の意識

出典)「京都観光従事者実態調査」(R3から調査開始)  
 ※1 いずれも7段階評価中7~5を集計  
 ※2 R7調査開始

区分※1	R3	R4	R5	R6	R7
1. 京都の観光業界で働き続けたい※2	—	—	—	—	64.4%
2. 今の仕事にやりがいをもって取り組んでいる※2	—	—	—	—	73.7%
3. 京都観光が大好き※2	—	—	—	—	69.3%
4. 観光事業従事者の仕事の満足度	49.5%	65.9%	66.5%	73.8%	62.5%

### ②観光関連産業に対する意識のギャップ

出典) 従事者:「京都観光従事者実態調査」  
 市民:「京都観光に関する市民意識調査」  
 ※ 7段階評価中7~5を集計(基データから再集計)

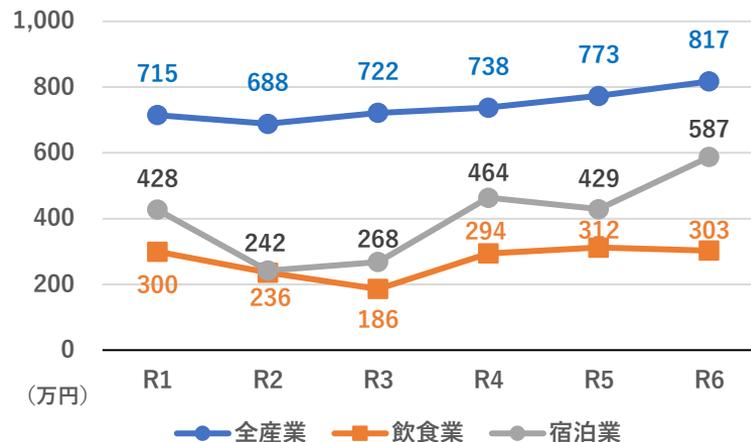
従事者の意識	R7	市民からのイメージ	R7
職場環境に満足※	77.4%	職場環境がよさそう	6.4%
いつでも気兼ねなく休暇取得できる・多少の調整で休暇取得できる	80.4%	休みを取りやすそうと思う	3.4%

### ③事業者の取組状況

出典)「京都観光事業者実態調査」(R3から調査開始)  
 ※1 設問変更に伴い過年の数値を再集計したデータ  
 ※2 設問設計を大幅に変更したため、過年の数値との比較はできない

区分	R3	R4	R5	R6	R7
デジタル化の推進に積極的に取り組んでいる事業者の割合	※1 59.9%	※1 61.3%	50.0%	44.4%	—※2

### ④労働生産(全国)



出典)「法人企業統計調査」(財務省)に基づき本市作成  
 ※ 本調査における「年次別調査」は、営利法人等を調査対象としており、本表は全ての企業規模(大企業及び中小企業)の数値  
 ※ 業種分類は、日本標準産業分類に準拠  
 ※ 労働生産性は、付加価値額÷期中平均従業員数にて算出(全産業は金融業、保険業を除く)

# 柱毎の状況【柱4. 安心・安全、危機対応力の向上、環境負荷低減】

## 【主な取組】

- 安心・安全対策では、**観光客の帰宅困難者対策**や、外国人観光客の回復に併せた**多言語による災害情報の発信強化**などを推進
- 危機対応力の向上では、観光関連事業者に対するオンラインによるBCP策定・活用研修などを実施
- 環境への配慮では、**事業者の更なる温室効果ガス排出量の削減に向けた制度の運用などにより、環境負荷低減を促進**

## 【現状・成果】

- 安心・安全では、「**治安**」に大変満足した外国人観光客の割合が大きく増加(①1)
- 危機対応力の向上では、BCPの策定に取り組んでいる事業者の割合が増加(②1)
- 環境への配慮では、**環境に配慮した行動をとった観光客の割合は8割前後**で推移(①2、3)。また、**約2割の事業者が積極的に環境負荷低減に取り組んでいる**(②2~4)(「可能な範囲で取り組んでいる」まで含めると、いずれの項目も8割強。)

## 【課題】

- 近年発生している自然災害等も踏まえ、引き続き粘り強い取組が必要

### ①観光客の意識

区分		R1	R2	R3	R4	R5	R6
1. 「治安」に大変満足した外国人観光客の割合		56.2%	—※1	—※1	—※1	68.0%	68.3%
2. 環境に配慮した行動をとった観光客の割合※2	日本人	—	—	89.0%	86.5%	84.7%	84.3%
	外国人	—	—	—	—	79.1%	78.3%
3. 環境に配慮した宿泊施設に泊まりたい観光客の割合※2	日本人	—	—	22.0%	23.2%	22.1%	22.2%
	外国人	—	—	—	—	44.2%	43.9%

出典)「京都観光総合調査」  
 ※1 コロナ禍のため調査未実施  
 ※2 日本人はR3調査開始、外国人はR5調査開始

### ②事業者の取組状況

区分	R3	R4	R5	R6	R7
1. BCPの策定に取り組んでいる事業者の割合	57.0%	62.5%	70.9%	66.9%	—※
2. 環境に配慮した製品を積極的に利用している事業者の割合	18.2%	19.0%	21.6%	24.7%	—※
3. プラスチックの排出量の削減に積極的に取り組んでいる事業者の割合	17.4%	18.3%	25.1%	19.3%	—※
4. フードロスの低減に積極的に取り組んでいる事業者の割合	22.5%	21.4%	28.8%	22.6%	—※

出典)「京都観光事業者実態調査」(R3から調査開始)  
 ※ 設問設計を大幅に変更したため、過年の数値との比較はできない

# 柱毎の状況【柱5. MICEの振興】

## 【主な取組】

- コロナ禍では、感染症予防・拡大防止対策への支援を実施
- コロナ禍後は、**サステナブルなMICE**や、歴史、伝統、文化、自然、芸術、学術、産業などの**京都が誇る魅力や強みを活かしたMICEの誘致強化**を推進

## 【現状・成果】

- **国際会議の開催件数は令和4年以降堅調に回復**(①)
- 「M&C ASIA」(アジア最大級のMICEメディア)の表彰プログラム「M&C Asia Stella Awards 2024」において、**国内都市で初めて「Best Incentive City(Asia)」を受賞**

## 【課題】

- 国際会議の開催件数について、京都を含む日本の多くの都市は**海外他都市と比較してコロナ禍後の回復が遅れている**状況(②)
- **MICEの認知度は低く、MICE開催による効果の可視化が十分でない**(③)

### ①国際会議開催件数

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6
国際会議開催件数	383件	26件	4件	70件	172件	215件

出典)「国際会議統計」(JNTO)

### ②海外他都市との比較

順位	都市名	R6 開催件数	R1比	【参考】R1	
				順位	開催件数
1位	ウィーン	154件	103.4%	6位	149件
2位	リスボン	153件	80.5%	2位	190件
3位	シンガポール	144件	97.3%	7位	148件
4位	バルセロナ	142件	91.0%	4位	156件
5位	プラハ	131件	94.9%	9位	138件
	(略)				
16位	東京	97件	74.1%	10位	131件
	(略)				
42位	京都	49件	73.1%	35位	67件

出典) ICCA統計

### ③MICEに対する市民の意識

認知度*	R7
1. MICEという言葉を知らなかった	88.2%
MICE開催が京都にもたらす効果*	
1. 京都の経済が活発になると思う	21.8%
2. 新しいビジネスや商品等が生まれるきっかけになると思う	23.2%
3. 多様な人々と交流する機会が増えると思う	24.3%
4. 市民の学びの機会が増えると思う	17.7%
5. 京都の学問のレベルがさらに高まると思う	23.1%
6. 京都の知名度や都市の評価・ブランドが上がると思う	25.9%

出典)「京都観光に関する市民意識調査」

※ R7調査開始

# 「京都観光振興計画2025」指標・目標値の状況①

## 柱1. 市民生活と観光の調和・両立、豊かさの向上

No	区分	指標	重点指標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考	出典
1	市民生活への影響	公共交通機関が混雑して迷惑した市民の割合	①	-	-	-	-	-	※	※	58.3%	62.4%	67.0%	(63.8%)	【目標値：H27以降の最低値】 ※ 設問変更に伴い比較可能な年のみを記載 ※ R7から「迷惑した」を「迷惑している」に設問を変更	京都観光に関する市民意識調査
2		一部観光地等が混雑して迷惑した市民の割合	②	-	-	-	-	-	※	※	60.4%	66.4%	71.4%	(70.6%)		
3		道路が渋滞して迷惑した市民の割合	③	-	-	-	-	-	※	※	61.9%	61.1%	60.3%	(55.9%)		
4		観光客のマナー違反によって迷惑した市民の割合	④	-	-	-	-	-	※	※	38.5%	47.7%	55.0%	(56.3%)		
5		宿泊施設が近隣にできたことに伴う良くない影響（騒音、ごみ、車両の出入り等）によって迷惑した市民の割合	⑤	-	-	-	-	-	※	※	16.9%	18.8%	22.1%	(31.0%)		
6		京都の発展に観光が重要な役割を果たしていると思う市民の割合	⑥	-	-	-	-	-	64.7%	74.5%	72.9%	72.7%	70.6%	70.1%	【目標値：H27以降の最高値】	
7		売上の増加や給与等への好影響につながっていると感じた市民の割合		-	-	-	-	-	※	※	※	20.2%	21.4%	(17.7%)	※ 設問変更に伴い比較可能な年のみを記載 ※ R7から「感じた」に設問を変更	
8		買物環境の向上につながっていると感じた市民の割合		-	-	-	-	-	※	※	※	19.0%	18.7%	(20.4%)		
9		まちに活気が出るなど、生活環境の向上につながっていると感じた市民の割合		-	-	-	-	-	※	※	※	17.6%	13.6%	(14.9%)		
10		交流が促進され、交友関係が広がっていると感じた市民の割合		-	-	-	-	-	※	※	※	9.7%	10.6%	(13.6%)		
11		公共交通機関の利便性の向上につながっていると感じた市民の割合		-	-	-	-	-	※	※	※	11.0%	9.5%	(13.9%)		
12		京都市が観光で評価されることを誇りに思う市民の割合		-	-	-	-	-	58.3%	68.1%	67.4%	64.9%	65.8%	65.2%	-	
13	時期・時間・場所の分散化	観光客の月別繁閑差		1.4倍	1.5倍	1.5倍	1.4倍	1.3倍	-	-	2.1倍	1.4倍	1.3倍	集計中	-	京都観光総合調査
14		朝観光をした観光客の割合（訪問時間帯：6～9時）（日本人）		-	-	-	13.8%	14.1%	19.1%	18.8%	16.0%	14.3%	15.5%	集計中	-	
15		夜観光をした観光客の割合（訪問時間帯：18時～深夜）（日本人）		-	-	-	18.1%	18.0%	19.1%	14.6%	14.4%	15.3%	14.8%	集計中	-	

黄色 現在の目標値（H27以降の最高値／最低値）

# 「京都観光振興計画2025」 指標・目標値の状況②

No	区分	指標	重点指標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考	出典
16	場所の分散化	「とっておきの京都」プロジェクト対象エリアを訪問した観光客の割合(日本人)	⑦	13.9%	11.8%	11.7%	12.8%	13.3%	18.5%	17.2%	14.5%	11.9%	12.1%	集計中	【目標値：R2以降の最高値】 ※ コロナ禍で特に状況が激変したため、暫定目標として設定	京都観光総合調査
17		伏見周辺を訪問した観光客の割合(日本人)		11.3%	15.3%	15.8%	15.0%	14.8%	19.8%	9.5%	12.3%	11.4%	13.7%	集計中	—	
18		山科周辺を訪問した観光客の割合(日本人)		2.7%	2.2%	3.3%	2.5%	2.2%	2.4%	1.5%	1.5%	1.1%	1.3%	集計中	—	
19		大原・八瀬周辺を訪問した観光客の割合(日本人)		4.3%	3.1%	3.2%	2.3%	2.1%	5.5%	5.7%	2.9%	2.4%	2.1%	集計中	—	
20		高雄周辺を訪問した観光客の割合(日本人)		3.3%	1.6%	1.3%	1.4%	1.3%	3.5%	5.6%	2.2%	1.3%	1.7%	集計中	—	
21		京北周辺を訪問した観光客の割合(日本人)		—	—	—	—	0.3%	0.6%	0.4%	0.3%	0.2%	0.4%	集計中	—	
22		大枝・大原野周辺を訪問した観光客の割合(日本人)		0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.5%	0.5%	0.3%	0.3%	0.3%	集計中	—	
23	観光による地域貢献	「地域との調和」につながる行動に積極的に取り組んでいる事業者の割合	⑧	—	—	—	—	—	—	45.8%	56.7%	51.0%	49.0%	—	【目標値：H27以降の最高値】 ※ 設問変更に伴い過去の数値を再集計し記載 ※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光事業者実態調査
24		観光消費額単価に占める「市内交通費」の額(日本人)		1,955円	2,002円	1,949円	2,008円	2,091円	—	—	—	2,463円	2,519円	集計中	—	京都観光総合調査
25		観光消費額単価に占める「市内交通費」の額(外国人)		—	3,024円	3,552円	4,394円	3,322円	—	—	—	7,081円	5,634円	集計中	—	京都観光に関する市民意識調査
—		公共交通機関の利便性の向上につながっていると感じた市民の割合(再掲)		—	—	—	—	—	※	※	※	11.0%	9.5%	(13.9%)	※ 設問変更に伴い比較可能な年のみを記載 ※ R7から「感じた」を「感じる」に設問を変更	京都観光に関する市民意識調査
26		観光消費額単価に占める「入場料・拝観料」の額(日本人)		1,102円	1,225円	1,413円	1,423円	1,450円	—	—	—	1,594円	1,795円	集計中	—	京都観光総合調査
27		観光消費額単価に占める「入場料・拝観料」の額(外国人)		—	1,473円	2,371円	2,476円	1,869円	—	—	—	3,797円	3,706円	集計中	—	
28		文化体験をした観光客の割合(日本人)		—	28.1%	37.9%	43.5%	42.9%	47.1%	38.1%	38.7%	27.3%	25.8%	集計中	—	
29	地域の町内会や祭事、イベント等に積極的に参画している事業者の割合		—	—	—	—	—	—	24.1%	32.7%	31.4%	28.7%	—	※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光事業者実態調査	
30	事業活動が京都の文化の維持・継承等に寄与してきたと思う事業者の割合	⑨	—	—	—	—	—	—	70.0%	81.3%	82.8%	82.0%	—	【目標値：H27以降の最高値】 ※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光に関する市民意識調査	
31	伝統文化等の継承につながる取組を行っている市民の割合		—	—	—	—	—	—	55.9%	52.2%	45.4%	45.1%	—	※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光に関する市民意識調査	

黄色 現在の目標値 (H27以降の最高値/最低値)

# 「京都観光振興計画2025」 指標・目標値の状況③

No	区分	指標	重点指標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考	出典
32	観光による地域貢献	飲食・買物時に京都産を選択した観光客の割合（日本人）		-	-	-	-	-	-	73.0%	73.7%	75.8%	76.5%	集計中	-	京都観光総合調査
33		地元産品・工芸品を利用した商品・サービスを積極的に提供している事業者の割合		-	-	-	-	-	-	30.2%	31.9%	31.0%	27.5%	-	※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光事業者実態調査
34	市民による	市民の市内観光の頻度（半年に1回以上）		-	-	-	-	-	42.8%	38.2%	36.6%	44.9%	44.3%	39.6%	-	京都観光に関する市民意識調査
35	市内観光	市民の市内観光時の満足度（やや満足以上）	⑩	-	-	-	-	-	-	64.3%	63.7%	58.8%	57.2%	50.9%	【目標値：H27以降の最高値】	

黄色 現在の目標値（H27以降の最高値／最低値）

## 柱2. 京都観光の質・満足度の向上

No	区分	指標	重点指標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考	出典
36	観光消費額単価	観光消費額単価（日本人）	⑪	17,073円	19,669円	18,696円	20,931円	20,267円	-	-	-	23,809円	23,355円	集計中	【目標値：H27以降の最高値】	京都観光総合調査
37		観光消費額単価（日本人・日帰り客）		8,364円	10,058円	10,383円	10,132円	11,054円	10,214円	10,898円	12,244円	12,650円	13,232円	集計中	-	
38		観光消費額単価（日本人・宿泊客）		44,707円	47,558円	41,891円	52,795円	54,970円	56,598円	57,175円	59,490円	63,986円	69,801円	集計中	-	
39		観光消費額単価（外国人）	⑫	-	31,860円	34,593円	46,294円	37,437円	-	-	-	71,661円	78,346円	集計中	【目標値：H27以降の最高値】	
40		観光消費額単価（外国人・日帰り客）		-	11,087円	16,165円	23,798円	19,766円	-	-	-	23,726円	19,831円	集計中	-	
41		観光消費額単価（外国人・宿泊客）		-	54,267円	56,709円	64,004円	60,991円	-	-	-	87,208円	97,338円	集計中	-	
42	文化観光	文化や文化財の維持・継承に貢献したいと思う観光客の割合（日本人）		-	-	-	-	-	-	40.5%	43.2%	37.3%	38.6%	集計中	-	京都観光総合調査
43		観光消費額に占める「入場料・拝観料」の額		626億円	677億円	830億円	835億円	813億円	-	-	-	958億円	1,214億円	集計中	-	
44	観光客の残念度	残念なことがあった観光客の割合（日本人）		47.4%	43.9%	46.0%	46.5%	44.7%	42.3%	40.9%	36.6%	43.0%	48.4%	集計中	-	京都観光総合調査
45		残念なことがあった観光客の割合（外国人）		17.4%	16.7%	15.6%	16.7%	16.3%	-	-	-	16.3%	19.4%	集計中	-	
46	観光客の満足度	大変満足した観光客の割合（日本人）		21.3%	22.6%	23.5%	23.4%	22.6%	29.2%	26.1%	28.3%	25.0%	25.9%	集計中	-	京都観光総合調査
47		大変満足した観光客の割合（外国人）		44.6%	41.1%	39.9%	43.4%	40.9%	-	-	-	53.8%	49.5%	集計中	-	

黄色 現在の目標値（H27以降の最高値／最低値）

# 「京都観光振興計画2025」指標・目標値の状況④

No	区分	指標	重点指標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考	出典	
48	観光客の感動度	感動したことがあった観光客の割合（日本人）		70.0%	70.7%	74.4%	73.2%	75.0%	83.6%	82.4%	80.0%	76.8%	77.2%	集計中	—	京都観光総合調査	
49		感動したことがあった観光客の割合（外国人）		59.4%	80.8%	80.2%	79.4%	78.0%	—	—	—	81.6%	77.4%	集計中	—		
50	おもてなしを感じた観光客	おもてなしを感じた観光客の割合（日本人）		42.7%	50.4%	51.4%	52.4%	52.9%	58.1%	53.6%	57.1%	45.4%	45.3%	集計中	—	京都観光総合調査	
51		おもてなしを感じた観光客の割合（外国人）		92.6%	89.0%	89.1%	90.0%	90.5%	—	—	—	88.4%	87.9%	集計中	—		
52	観光情報のデジタル化	事前情報源としてSNSや動画サイト等を利用した観光客の割合（日本人）		—	—	—	—	—	59.5%	61.4%	63.5%	61.6%	63.1%	集計中	—	京都観光総合調査	
53		到着後情報源としてSNSや動画サイト等を利用した観光客の割合（日本人）		—	—	—	—	—	58.0%	57.6%	62.9%	61.5%	63.7%	集計中	—		
54	リピーター率等	観光客のリピーター率（訪問回数10回以上）（日本人）	⑬	62.0%	61.2%	59.8%	61.6%	59.1%	47.0%	58.1%	56.1%	56.5%	53.0%	集計中	【目標値：H27以降の最高値】	京都観光総合調査	
55		観光客のリピーター率（訪問回数2回以上）（外国人）	⑭	21.9%	20.8%	21.5%	22.2%	22.4%	—	—	—	26.7%	24.1%	集計中			
56		京都訪問時に度々訪問する箇所がある観光客の割合（日本人）		—	—	—	—	—	—	77.1%	76.4%	74.0%	72.5%	集計中			—
57		友人等に京都観光をおすすめしたいと思う市民の割合		—	—	—	—	—	—	69.7%	68.9%	57.2%	55.0%	44.8%	—	京都観光に関する市民意識調査	
58	宿泊割合	観光客の宿泊割合	⑮	※	※	※	※	24.6%	—	—	22.2%	29.3%	29.1%	集計中	【目標値：H27以降の最高値】 ※ 統計手法の変更に伴い比較可能な年のみを記載	京都観光総合調査	
59		観光客の宿泊割合（日本人）		※	※	※	※	21.0%	—	—	—	21.7%	17.9%	集計中			
60		観光客の宿泊割合（外国人）		※	※	※	※	42.9%	—	—	—	75.6%	75.5%	集計中			
61	平均宿泊日数	観光客の平均宿泊日数	⑯	—	1.52泊	1.57泊	1.61泊	1.61泊	1.46泊	1.41泊	1.42泊	1.61泊	1.69泊	集計中	【目標値：H27以降の最高値】	京都観光総合調査	
62		観光客の平均宿泊日数（日本人）		—	1.38泊	1.43泊	1.40泊	1.38泊	1.39泊	1.40泊	1.38泊	1.30泊	1.16泊	集計中			—
63		観光客の平均宿泊日数（日本人）		—	1.98泊	2.04泊	2.14泊	2.18泊	2.18泊	2.27泊	2.19泊	2.15泊	2.21泊	集計中			—

黄色 現在の目標値（H27以降の最高値／最低値）

# 「京都観光振興計画2025」指標・目標値の状況⑤

## 柱3. 観光産業の活性化、従事者の活躍促進

No	区分	指標	重点指標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考	出典
64		観光関連事業者の正規雇用率		-	-	-	-	-	-	57.7%	59.4%	60.0%	56.6%	47.1%	-	京都観光事業者実態調査
65		観光関連事業従事者の仕事の満足度 (やや満足～大変満足)	⑰	-	-	-	-	-	-	※	65.9%	66.5%	73.8%	62.5%	【目標値：H27以降の最高値】 ※ 設問変更に伴い比較可能な年のみを記載	京都観光事業者実態調査
		観光客の月別繁閑差（再掲）		1.4倍	1.5倍	1.5倍	1.4倍	1.3倍	-	-	2.1倍	1.4倍	1.3倍	集計中	-	京都観光総合調査
66		主力商品・サービスの売価が上がった事業者の割合 (かなり上がった、上がった)		-	-	-	-	-	-	24.2%	59.1%	70.5%	69.6%	67.7%	-	京都観光事業者実態調査
67		従業員の能力開発に取り組んでいる事業者の割合 (可能な限り～積極的に取り組んでいる)	⑱	-	-	-	-	-	-	73.8%	73.7%	77.3%	84.2%	-	【目標値：H27以降の最高値】 ※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光事業者実態調査
		「地域との調和」につながる行動に積極的に 取り組んでいる事業者の割合（再掲）	⑳	-	-	-	-	-	-	45.8%	56.7%	51.0%	49.0%	-	【目標値：H27以降の最高値】 ※ 設問変更に伴い過去の数値を再集計し記載 ※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光事業者実態調査
		事業活動が京都の文化の維持・継承等に 寄与してきたと思う事業者の割合（再掲）	㉑	-	-	-	-	-	-	70.0%	81.3%	82.8%	82.0%	-	【目標値：H27以降の最高値】 ※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光事業者実態調査
68		デジタル技術の活用に積極的に取り組んでいる 事業者の割合	㉒	-	-	-	-	-	-	59.9%	61.3%	50.0%	44.4%	-	【目標値：H27以降の最高値】 ※ 設問変更に伴い過去の数値を再集計し記載 ※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光事業者実態調査

黄色 現在の目標値（H27以降の最高値／最低値）

# 「京都観光振興計画2025」指標・目標値の状況⑥

## 柱4. 安心・安全、危機対応力の向上、環境負荷低減

No	区分	指標	重点指標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考	出典
69		BCP（事業継続計画）の策定に取り組んでいる事業者の割合（可能な限り～積極的に取り組んでいる）	㉑	-	-	-	-	-	-	57.0%	62.5%	70.9%	66.9%	-	【目標値：H27以降の最高値】 ※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光事業者実態調査
70		防災・防火訓練を積極的に実施している事業者の割合		-	-	-	-	-	-	17.5%	24.4%	29.1%	32.1%	-	※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光事業者実態調査
71		公共交通機関（鉄道・バス）を利用して入浴した観光客の割合（日本人）	㉑	93.7%	90.7%	91.3%	91.4%	91.0%	86.9%	86.6%	85.9%	90.7%	89.3%	集計中	【目標値：H27以降の最高値】	京都観光総合調査
72	環境への配慮	環境に配慮した行動を取った観光客の割合（日本人）		-	-	-	-	-	-	89.0%	86.5%	84.7%	84.3%	集計中	-	京都観光総合調査
73		「景観・環境」に配慮した行動に積極的に取り組んでいる事業者の割合	㉒	-	-	-	-	-	-	56.1%	53.2%	50.5%	48.5%	-	【目標値：H27以降の最高値】 ※ 設問変更に伴い過去の数値を再集計し記載 ※ R7は設問設計を大幅に変更	京都観光事業者実態調査
74		環境に配慮した製品を積極的に利用している事業者の割合		-	-	-	-	-	-	18.2%	19.0%	21.6%	24.7%	-	※ R7は設問設計を大幅に変更	
75		プラスチック排出量の削減に積極的に取り組んでいる事業者の割合		-	-	-	-	-	-	17.4%	18.3%	25.1%	19.3%	-	※ R7は設問設計を大幅に変更	
76		フードロスの低減に積極的に取り組んでいる事業者の割合		-	-	-	-	-	-	22.5%	21.4%	28.8%	22.6%	-	※ R7は設問設計を大幅に変更	
77		電力や燃料消費量の抑制に積極的に取り組んでいる事業者の割合		-	-	-	-	-	-	20.5%	22.5%	22.6%	18.5%	-	※ R7は設問設計を大幅に変更	
78		環境に関する認証を積極的に取得している事業者の割合		-	-	-	-	-	-	13.8%	11.4%	10.7%	11.3%	-	※ R7は設問設計を大幅に変更	

黄色 現在の目標値（H27以降の最高値／最低値）

## 柱5. MICEの振興

No	区分	指標	重点指標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	備考	出典
79	国際会議開催件数	国際会議開催件数（ICCA基準）		45件	58件	46件	59件	67件	-	-	29件	41件	49件	-	-	ICCA国際会議統計
80		国際会議開催件数（JNTO基準）	㉓	218件	278件	306件	348件	383件	26件	4件	70件	172件	215件	-	【目標値：R2以降の最高値】 ※ コロナ禍で特に状況が激変したため、暫定目標として設定	JNTO国際会議統計
81		国際会議の海外参加者数（JNTO基準）	㉔	17,022人	26,602人	21,102人	32,449人	30,585人	562人	349人	7,747人	20,641人	22,131人	-	【目標値：R2以降の最高値】 ※ コロナ禍で特に状況が激変したため、暫定目標として設定	JNTO国際会議統計
82		国際会議の経済波及効果		-	-	-	-	235億円	-	-	-	-	198億円	-	-	京都市におけるMICE実態調査
83		国際会議参加者の延べ宿泊日数		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	【代替指標の設定】 国際会議参加者の延べ宿泊日数：R2年度以降に調査予定だったが、コロナ禍のため調査の目処が立たないため、当面、「国際会議の平均開催日数」で代替する。	-
		（代替指標） 国際会議の平均開催日数（JNTO基準）		-	-	-	-	3.0日	3.0日	4.7日	4.1日	3.5日	3.8日	-		JNTO国際会議統計

黄色 現在の目標値（H27以降の最高値／最低値）

1 コロナ禍からの力強い回復

(巻末に一括掲載)

2 観光課題対策の強化

産業観光局において執行体制を強化(R4、R6)。R5年度には観光課題に関する国への緊急要望を実施、R6年度には「市民生活と観光の調和推進プロジェクトチーム」を新設するなど、全庁を挙げて課題対策を推進。

1) 観光地の混雑対策の強化

ア 時期・時間・場所の3つの分散化

時期の分散：「京の夏の旅」「京の冬の旅」等による閑散期対策

時間の分散：朝夜観光、事前予約制のコンテンツ造成の支援及び情報発信

場所の分散：「とっておきの京都」プロジェクト、府市連携による周遊観光促進、主要観光スポット周辺へのエリア内分散

- ▶ 観光客の月別繁閑差：3.6倍(H15)→1.4倍(R5)
- ▶ 朝・夜観光特設ページPV：20万件(R2)→62万件(R5)
- ▶ 「とっておきの京都」エリアの訪問者数：+約20%(R5秋→R6秋、位置情報データ)



第59回「京の冬の旅」



リアルタイム映像の配信



交通規制（東大路通社会実験）

2) 道路の混雑対策

- ・ハイシーズンにおける交通規制の実施
- ・ハイシーズンにおける市営清水坂観光駐車場の観光バス完全予約制・家用車受入制限(R6)
- ・パークアンドライドの推進(約8千台分のP&R駐車場を確保)
- ・路上滞留する観光バスに対する現地啓発
- ・混雑マップ「京スマ」内で観光バス駐車場の満空情報の可視化を開始(R7)

- ▶ 東大路通南行の旅行速度の改善(R6秋)
- ▶ 市営清水坂観光駐車場を利用するバスの来場日・来場時間が平準化。五条坂の混雑が緩和(R6秋)
- ▶ R6秋のP&R駐車場利用実績：約3千件(R5比2.3倍)
- ▶ 幹線道路の観光バスの1日平均啓発件数の減少(御池通：R5比59%減(R6秋))

3) 市バスの混雑対策

ア 市バス等の「市民優先価格」の実現

- ・市バス等の「市民優先価格」の実現に向けた検討・協議(R6~)

イ 市バス輸送力の効率的な配分等

- ・観光特急バスの導入及び利用促進(R6.6月~)
  - 【旅マエや旅ナカにおけるPR、京都駅前バスのりば等における案内サイン増設、京都市バス「おもてなしコンシェルジュ」による添乗案内の実施、「観光特急バス」の停車停留所への案内員の配置】
- ・市バスのリアルタイム運行情報の発信
  - 【交通局ホームページにおける市バスの車内混雑度や走行位置等の発信(R7~)、国際標準(GTFS-RT)に準拠したリアルタイム運行情報の公開(オープンデータ化)を目指す(R10公開予定)】
- ・ハイシーズンにおける臨時便の増発
  - ▶ 観光特急バスの延べお客様数10万人突破(R6.10月)、1日当たり3千人に迫る御利用(R6.11月)、並行系統の混雑緩和に一定寄与
  - ▶ ハイシーズンは京都駅から清水寺・祇園方面に向かう市バスを3~4分間隔で運行(R6秋)
  - ▶ 京都駅D2のりばの待ち時間は概ね10分以内で、最大でも15分程(R6秋)

ウ 地下鉄等の鉄道を生かした移動経路の分散

- ・「バス1日券」の廃止(R6.3月利用停止)及び「地下鉄・バス1日券」の販売促進
- ・ハイシーズンにおける市バスから地下鉄への無料振替



観光特急バス

4) 手ぶら観光の推進

- ・手ぶら観光情報サイト「HANDS FREE KYOTO」における手ぶら観光情報の発信
- ・ハイシーズンにおける臨時の手荷物配送・預かりサービス窓口の設置(京都駅前)
- ・混雑マップ「京スマ」内でコインロッカーの位置や満空情報の可視化、手ぶら観光サービスの事前予約等のサービスの開始(R7)
  - ▶ R6秋の臨時手荷物窓口の実績：443個/日(R5比+8%)
  - ▶ 大型手荷物の市バスへの持ち込み率：2~4%(京都駅D2のりばにおける調査(R6.11~3月))
  - ▶ 「HANDS FREE KYOTO」登録事業者数：4事業者(R5)→122事業者(R7)



臨時手荷物預かり・配送窓口

5) 京都駅一極集中の緩和

- ・京都駅一極集中の緩和に向けた情報発信(R5~)
- ・ハイシーズンにおける期間限定案内所の開設、分散ルートへの誘導(京都駅前)(R5~)
- ・京都駅における案内誘導サインの充実(R7)
- ・京都駅新橋上駅舎・自由通路の整備(R13供用開始予定)
- ・京都駅発着の特急「はるか」を山科駅まで延伸(JR西)(R11供用開始予定)
- ・三条京阪駅周辺における拠点性向上(都市再生緊急整備地域への指定(R6))
- ▶ 期間限定案内所等において5千人に分散ルートへの誘導等を実施(R6秋)



京都駅新橋上駅舎・自由通路整備

# 参考1 主な取組【柱1. 市民生活と観光の調和・両立、豊かさの向上②】

> 施策に関連するデータ等  
 ・計画期間中(R3～7)に開始した取組には始期を記載  
 ・本頁はR6年度末時点の情報を表す

## 6) マナー啓発

### ア 観光マナーの周知

- ・マナー啓発媒体「MIND YOUR MANNERS」を活用し、旅マエから旅ナカにおいてマナーや日本の文化や生活習慣の発信(R3～)
- ・一部エリアへの警備員配置
- ・祇園町南側地区における観光マナー啓発キャンペーン(R6)
- ・事業者がマナーを周知するための支援(フレーズ集の作成)(R6～)



マナー啓発キャンペーン

> 京都市によるマナー啓発の取組を知っている市民の割合：17.1%(R3)→22.7%(R6)

### イ 散乱ごみ対策

- ・政令市最多の街頭ごみ容器の設置(約300基)や、寄付に基づくスマートごみ箱の設置(R4～)
- ・春・秋、GW、祇園祭における街頭ごみ容器の収集回数追加や巡視啓発
- ・地域団体等と連携した対策の強化(R6、7)



スマートごみ箱

> まちの清潔さに大変満足した外国人観光客の割合：59.7%(R1)→70.7%(R5)

## 7) 宿泊施設における地域調和

- ・民泊通報・相談窓口の設置
- ・民泊施設(届出住宅)における住居専用地域での営業を1/15～3/16に制限
- ・全ての旅館業施設に対し、原則、施設内での駐在を義務付け
- ・宿泊施設の構想段階での近隣住民等への説明手続きの義務付け(R3)

> 無許可営業疑いの民泊施設への指導により営業中止・撤退した件数：累計2,606件(調査・指導中28件)(R7.1月)

## 3 観光に対する市民の共感の輪の拡大

- ・観光がもたらす効果の見える化強化(R3～)
- ・「ジュニア京都検定テキストブック」の配布による文化・観光の学習機会の提供
- ・市民向けポータルサイト「LINK! LINK! LINK!」において、観光効果と併せて、事業者が主体的に提供する市民限定サービスや、市民向けキャンペーン等を発信(R6～)
- ・宿泊税の用途に関する情報発信の強化(R6～)
- ・「京都観光に関する市民意識調査」の実施

> 「LINK! LINK! LINK!」PV：108,051件(R6.12月～R7.2月中旬)

> 市民限定サービス提供事業所数：62件(R7.2月中旬)



観光効果の見える化等

## 4 観光による地域経済等への貢献の最大化

- ・京都の伝統産業等と宿泊施設を結ぶビジネスマッチング「コトノムスピプロジェクト」(R4～)
- ・多様なエリアにおける魅力発信を通じた地域振興
- ・京都レストランウインタースペシャル等の「食の京都」の推進

> 「コトノムスピプロジェクト」における成約実績：52件(R4、5)



「コトノムスピ・プロジェクト」商談会

## 5 観光による文化の継承と創造、美しい景観の保全

- ・非公開文化財の特別公開等、文化観光の振興による文化財の保存・活用への貢献
- ・四大行事への支援
- ・ライトアップ・プロジェクションマッピングによる誘客促進(二条城等)
- ・宿泊税を活用した文化政策、景観政策の推進



NAKED meets 二条城 2024 秋の豊穡祭

## 6 観光による多様な分野における課題への対応

- ・ウォーキングツアーやまち歩きイベント、京都一周トレイル<sup>R</sup>、自転車観光の促進など、健康や生きがいの増進につながる取組
- ・宿泊税を一部活用し、道路、駅等のインフラのバリアフリー化を促進

### ■京都観光モラルの普及・実践促進

#### 【観光客向けの取組】

- ・「京都観光モラル」の露出強化(SNS、サイネージ、宿泊施設における発信、旅先クイズ等)
- ・京都観光モラルに賛同する観光客を対象に、事業者が提供する優待等が利用できる「京都観光モラル宣言推進事業」(R6～)

> 特典協力事業者数：111事業者(R7.2月)

> 訪問地域を思いやる行動をとった観光客の割合：日本人67.0%、外国人80.2%(R5)



モラル宣言イベント

#### 【事業者向けの取組】

- ・業界団体と共に、新しい京都観光に向けた共同宣言の実施(R3.11月)
- ・京都観光モラル推進宣言事業者制度、優良事業者表彰制度(R4～)
- ・特設サイトによる優良事業の見える化・横展開(R4～)

> 宣言事業者数：累計339事業者(R5)、表彰事業者数：累計51事業者(R5)

> 地域調和につながる行動に積極的に取り組んでいる事業者の割合：49.0%(R6)

#### 【市民向けの取組】

- ・「観光に対する市民の共感の輪の拡大」において実践を促進

### ■宿泊税の見直し

- ・宿泊税の見直し(見直し案の発表(R6)、新税率の適用(R8.3月予定))

# 参考1 主な取組【柱2. 京都観光の質・満足度の向上①】

＞…施策に関連するデータ等  
・計画期間中(R3～7)に開始した取組には始期を記載  
・本頁はR6年度末時点の情報を表す

## 1 ウイズコロナ社会で安心して楽しめる観光の充実

(巻末に一括掲載)

## 2 コロナ禍からの力強い回復 (再掲)

## 3 観光による文化の継承と創造、美しい景観の保全 (再掲)

## 4 京都の「光」の磨き上げ

### 1) 時期・時間・場所の分散化につながる多様な魅力の発信

- ・市内の多様なエリアや、朝夜観光、事前予約制のコンテンツ造成の支援及び情報発信
- ・「京の夏の旅」「京の冬の旅」等による閑散期対策、「京都芸術花火」「京都レストランウィンタースペシャル」の開催支援
- ・「そうだ京都、行こう。」「三都スペシャルキャンペーン」など、鉄道事業者等と連携した誘客キャンペーン
- ・府市連携による「まるっと京都」周遊観光ツアーの造成(R6～)や、川をテーマとした新たな観光コンテンツの造成(R7～)



事前予約制の導入促進



京都レストランウィンタースペシャル2024

- 「とっておきの京都」ウェブサイトPV：47万件(R1)→190万件(R5)
- 朝夜観光コンテンツ造成実績：19件(R4)→29件(R6)
- 「まるっと京都」周遊観光ツアー販売人数：2千人(R6.9月～R7.1月)

### 2) 文化芸術、伝統産業などを活かした観光の推進

- ・非公開文化財の特別公開
- ・文化観光コンテンツ造成の支援及び情報発信
- ・モダン建築を市内各所で一斉公開する「京都モダン建築祭」(R4～)
- ・ライトアップ・プロジェクトマッピングによる誘客促進(二条城等)
- ・四大大行事への支援
- ・物産展「大京都展」PR支援



非公開文化財の特別公開

- 観光客の「入場料・拝観料」平均単価：日本人 1,450円(R1)→1,594円(R5) 外国人 1,869円(R1)→3,797円(R5)

### 3) 新たなエリアの賑わい創出

- ・洛西“SAIKO”プロジェクト(R5～)
- ・meetus山科-醍醐(山科・醍醐活性化)(R6～)
- ・京都駅西部・東南部・東部エリア活性化
- ・西陣地域活性化

## 5 環境・自然等をテーマとした観光の推進

- ・京都一周トレイル<sup>R</sup>、自転車観光等のアウトドアコンテンツの発信強化(R2～)
- ・京都の温泉の魅力発信
- ・岡崎さくら・わかば回廊十石舟めぐり、びわこ疏水船の運航
- ・農山村資源を活用したグリーンツーリズムの推進



京都西山ヒルクライム参拝2024 (とっておきの京都エリア)

- 京都一周トレイルマップ販売数：8,599件(R5)
- 自転車観光専用ホームページPV：44千件(R3)→115千件(R5)

## 6 映画・マンガ・アニメ等をテーマとした観光の推進

- ・メディア・映像制作会社等への撮影支援、映画等のロケ地情報の発信
- ・大規模マンガ・アニメイベント“京都国際マンガ・アニメフェア”「京まふ」



京まふ2024

- 京まふ来場者数：23千人(初開催(H24))→36千人(R6)

## 7 リピーター向けの取組の充実

- ・予約履歴データを活用した観光CRM (Customer Relationship Management) の実施(DMO)
- ・コンテンツ造成支援を通じた体験型メニューの充実
- ・京都市認定通訳ガイドの募集・育成(コロナ禍で新規募集停止・R5～再開)



京都市認定通訳ガイド2024認定式

- 京都市認定通訳ガイド登録者数：155名(R6.12月)

## 8 宿泊観光・長期滞在の促進

- ・OTAを活用した閑散期における旅館の魅力発信
- ・朝夜観光、食をテーマとした観光振興、多様なエリアでの魅力発信等による周遊観光促進等による、宿泊観光・長期滞在の促進



旅館の魅力発信事業

- 観光客の宿泊割合：日本人21.0%(R1)→21.7%(R5) 外国人42.9%(R1)→75.6%(R5)

# 参考1 主な取組【柱2. 京都観光の質・満足度の向上②】

▶ 施策に関連するデータ等  
・計画期間中(R3~7)に開始した取組には始期を記載  
・本頁はR6年度末時点の情報を表す

## 9 受入環境整備・おもてなし

### 1) ユニバーサルツーリズム

- ・「京都ユニバーサル観光ナビ」の開設・運営
- ・新たに建築等を行う宿泊施設について、全客室のバリアフリー基準及びバリアフリー情報の公表制度の新設(R3~)
- ・駅等の公共交通機関におけるバリアフリー化支援



駅等のバリアフリー化支援

### 2) 受入環境整備

- ・市バス・地下鉄におけるデジタル乗車券やクレジットカードによるタッチ決済の導入に着手(R7~)
- ・混雑対策を通じた快適な観光の促進
- ・チャットボットによる質問対応、ニーズに応じたプラン提案等を行う観光案内DX事業「京なびオンライン」の開始(R5~)
- ・観光案内標識、名所説明立札の整備、管理
- ・観光地等におけるトイレ洋式化等を促進する「観光トイレ」制度の運用
- ・観光事業者等のデジタル・DX化の支援
- ・観光事業者の外国語表記を支援するガイドラインの策定・利用勧奨(DMO)(R6~)
- ・食のニーズの多様化へ対応するための研修の開催



外国語表記ガイドライン

- ▶ 買物環境に大変満足した外国人観光客の割合：30.2%(R1)→39.3%(R5)
- ▶ キャッシュレス環境に大変満足した外国人観光客の割合：26.6%(R1)→37.9%(R5)

## 10 情報発信の強化

- ・京都観光公式サイトやSNSでの情報発信強化、海外向け公式サイトのリニューアル(R7予定)
- ・海外有力メディアや海外インフルエンサーの発信力を活かした情報発信(R6~)
- ・ファミトリップの再開(R5~)
- ・定番の観光スポット以外の魅力を発信する映像コンテンツの制作(R5)
- ・NY、LA、ロンドン、パリ、シドニー、台北、上海における海外情報発信・収集拠点の設置・運営(上海を追加(R6))
- ・民間ウェブサイトの良質な記事をまとめた特設サイト「Kyoto Official Media Partners」の開設(R5~)

- ▶ 公式サイトPV：【国内向け】約2,300万件(R5)  
【海外向け】約330万件(R5)
- ▶ 海外メディア取材支援広告換算額：約1.2億円相当(R5)



Bloomberg, CNN, AP通信、Travel + Leisure等において京都の観光マナーに関する記事が掲載

## 11 修学旅行・教育旅行対応の強化

- ・修学旅行生向けSDGs探究学習プログラム「Q都スタディトリップ」の運営(R4~)
- ・京都ならではの体験プランを提供する「アオハルギフト・京都」の実施(R5~)
- ・京都の大学生等が修学旅行生を引率する「京都B&S(ブラザー&シスター)プログラム」の実施

- ▶ Q都スタディトリップHP延べPV：35万件(R4~R7.1月)
- ▶ アオハルギフト・京都、延べ実施校数：51校(R5、6)

## 12 上質な観光サービス等の充実

- ・世界遺産をはじめとした文化財における高付加価値な観光コンテンツの造成支援(R6~)
- ・祇園祭等において高付加価値な体験メニューを提供する「GIONプロジェクト」(DMO)(R5~)
- ・北米、ヨーロッパ、アジア太平洋地域における高付加価値旅行者向けの商談会への出展(北米での商談会に初出展(R6))
- ・インバウンド向けの新たなコンテンツ開発に向けた伴走支援を行う「インバウンドイノベーション京都」の実施(R4~)

- ▶ 商談会出展件数：4件、商談件数：270件(R5)
- ▶ インバウンドイノベーション支援数：計18社(R4~6)

## 13 市民のおもてなしの向上・相互理解促進

- ・「京都観光おもてなしコンシェルジュ」、「京都国際観光おもてなしコンシェルジュ」制度の運用
- ▶ おもてなしコンシェルジュ任命者数：288名(R2)→305名(R5)



Q都スタディトリップ



祇園祭におけるプレミアム観覧席等の販売



海外商談会への出展

## ■万博を契機とした観光振興

- ・「大阪・関西万博きょうと推進委員会」における取組の協議、オール京都での取組を具体化するアクションプランの作成(R5、6)
- ・アクションプランに基づき、川をテーマにした観光コンテンツ造成や「京都レストランスペシャル」等を実施(R7)



## 1 コロナ禍からの回復に向けた事業者支援

(巻末に一括掲載)

## 2 観光関連人材の確保・育成・定着支援の強化

### 1) 観光関連産業に対する取組

#### ア 観光関連事業者・従事者向けの取組

- ・コロナ禍での能力開発を支援する「京都観光オンラインアカデミー」の開設(DMO)(R2~6)
- ・コロナ禍からの急回復を踏まえ、観光関連事業者に対する求人サイト等掲載の緊急支援(R5)
- ・業界のイメージアップにつながる情報を発信する「京都観光はたらくNavi」の開設、優良事例の横展開(R5~)
- ・事業者(担い手確保・生産性向上等)、従事者(スキルアップ等)向け研修の実施(R5~)
- ・観光関連従事者と学生との交流会(R6~)
- ・「京都観光事業者実態調査・従事者実態調査」による実態把握(R3~)

> 京都観光はたらくNavi PV：8万件(R5~R7.2月)

#### イ 京都市認定通訳ガイドの育成

- ・京都市認定通訳ガイドの募集・育成(コロナ禍で新規募集停止・R5~再開)

> 京都市認定通訳ガイド登録者数：155名(R6.12月)

### 2) 市内産業全体に対する取組

- ・人材交流の促進により、次世代リーダーの育成やミドル層の活性化等を促す「地域企業「担い手交流」実践プログラム」の実施
- ・「地域企業インターンシップ促進プロジェクト」の実施(R5~)
- ・その他、行政による雇用施策の推進

> 地域企業「担い手交流」実践プログラム  
在籍型出向マッチング件数：累計60件(R6.12月)

> 地域企業インターンシップ促進プロジェクト  
参加企業数：延べ116社(R6.12月)



京都観光オンラインアカデミー



京都観光はたらくNavi

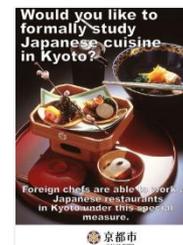


担い手交流実践プログラム

## 3 観光関連ビジネスの活性化

### 1) 観光関連産業に対する取組

- ・宿泊施設・商業施設等が施設整備等の際に金利負担軽減を受けられる「総合特区支援利子補給金制度」の利用勧奨(特区制度)
  - ・外国人料理人の受入れを勧奨、日本料理を海外に普及・発信できる人材育成の促進(特区制度)
  - ・事業者同士のネットワークづくりを促す交流イベント「京都インバウンドカフェ」の開催(R4~)
  - ・京都の伝統産業等と宿泊施設を結ぶビジネスマッチング「コトノムスピプロジェクト」(R4~)
  - ・OTAを活用した閑散期における旅館の魅力発信
  - ・多様なエリアにおける魅力発信による、市内各地域の経済や雇用の活性化
- > 利子補給金制度 延べ利用実績：123件、利子補給金対象融資総額：237億円(H25~R5)
- > 京都インバウンドカフェ 開催実績(R4~6)：計14回開催、延べ参加者数377名



特区制度を活かした外国人料理人の受入れ



京都インバウンドカフェ

### 2) 市内産業全体に対する取組

- ・中小企業のデジタル化やDXを支援する「中小企業デジタル化・DX推進事業」の実施(R2~)
  - ・商店街等におけるキャッシュレス化・デジタル化の取組を支援する「商店街キャッシュレス化・DXチャレンジ」の実施(R4~6)
  - ・大阪・関西万博を契機に、ビジネス交流やネットワーク構築を図るため、海外企業等による市内企業の視察やスタートアップとの交流等を行うビジネスツアー「Tech Tour Kyoto」の実施(R6~)
  - ・その他、行政による産業振興政策の推進
- > 商店街キャッシュレス化・DXチャレンジ：累計39件支援(R4~R7.1月)



中小企業デジタル化・DX推進事業(ホテルでのクラウドシステム導入例)

**1 ウイズコロナ社会における安心・安全な観光の推進**  
(巻末に一括掲載)

**2 感染症・災害・国際危機等への危機管理体制の強化**

- ・京都駅周辺のターミナル対策、観光地対策、各事業所対策を柱とした「帰宅困難者対策」の推進
- ・「京都市防災ポータルサイト」「京都市帰宅支援サイト」の多言語化
- ・京都観光公式サイトにおける災害情報の発信強化、観光情報・防災情報を案内するステッカーの作成・市内の観光案内標識への貼付等、多言語による災害情報の発信強化(R4)
- ・文化財の関係者と地域住民が協力し、文化財を火災から守る「文化財市民レスキュー」制度
- ・その他、行政による防災危機管理体制の徹底

> 緊急避難広場：50件、一時滞在施設：124件、避難誘導団体：22件(R7.1月)

**3 特定市場に偏らない誘客の多角化**

- ・発災後に速やかに観光が回復するよう、京都ファン・リピーター獲得に向けたプロモーションの実施
- ・特定市場に偏らない誘客を進めるため、京都観光公式サイト、海外商談会、海外情報発信・収集拠点(7拠点)等を通じた幅広い市場への訴求

> 京都市は全国と比較して欧米豪(北米、ヨーロッパ、オセアニア)の割合が高く、アジア圏の割合が低い

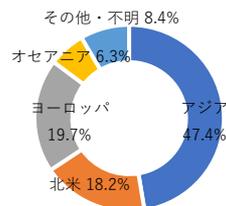
**4 観光事業者のリスク対応力強化の支援**

- ・オンラインによるBCP策定・活用研修(DMO)(R2~)
- ・京都市公式ホームページ(京都市情報館)での事業者向け補助メニューの一元発信
- ・京都観光モラルにおいて、災害時への備えの勧奨

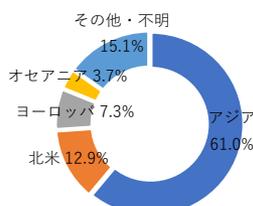
> BCP策定に取り組んでいる事業者の割合：66.9%(R6)



帰宅困難者ガイドマップ



京都市  
(延べ宿泊者ベース)  
京都観光総合調査(R5)



全国  
(延べ宿泊者ベース)  
観光庁発表資料から作成(R5)



BCP策定・活用研修(DMO)

**5 市民・観光客双方の安心・安全の確保**

- ・犯罪・事故防止、路上喫煙・密引き行為の禁止及び巡視、防犯カメラの設置促進
- ・京都観光公式サイトにおける多言語での医療機関情報の提供
- ・音声による119番通報が困難な方に対する「NET119」や、119番通報等における多言語通訳の実施
- ・小規模宿泊施設を対象とした「消防検査済表示制度」
- ・住宅・建築物の耐震化の促進

> 「治安」に大変満足した外国人観光客の割合：56.2%(R1)→68.0%(R5)



路上喫煙防止啓発ポスター

**6 環境に配慮した観光の推進**

- ・京都一周トレイル<sup>R</sup>、自転車観光等、環境負荷の少ない観光の推進
- ・サステナブルなMICE開催支援補助制度の創設(R5~)
- ・修学旅行生向けSDGs探究学習プログラム「Q都スタディトリップ」の開発・提供(R4~)
- ・アメニティグッズの持参等を促す「京都エコ修学旅行」の勧奨
- ・宿泊事業者に対して「アメニティ提供等の抑制」を、宿泊客に対して「宿泊事業者の取組に協力する」旨を努力義務化・勧奨
- ・食品ロス削減を目指す「食品ロスゼロプロジェクト」
- ・祇園祭におけるリユース食器活用等ごみ減量の取組の促進・支援
- ・国が定める「脱炭素先行地域」の選定を受け(R4)、文化遺産等の脱炭素転換を支援(R5~)
- ・大規模排出事業者に対して温室効果ガスの排出量削減を義務付け
- ・自動車に依存しない「歩くまち京都」の推進
- ・京都観光モラルにおいて、環境に配慮した観光・事業活動を勧奨

> 京都一周トレイル<sup>R</sup>が第18回エコツーリズム大賞受賞(環境省)(R5)

> 市内事業者のCo2排出量(家庭部門除く)：501万t(H27)→378万t(R4)

> 同、エネルギー消費量(家庭部門除く)：56,313TJ(H27)→50,499TJ(R4)



京都一周トレイル<sup>R</sup>京北コース



脱炭素先行地域への選定

# 参考1 主な取組【柱5. MICEの振興】

＞ 施策に関連するデータ等  
・計画期間中(R3～7)に開始した取組には始期を記載  
・本頁はR6年度末時点の情報を表す

## 1 安心・安全なMICEの徹底、開催スタイルの変容への対応 (巻末に一括掲載)

## 2 MICE京都ブランドの一層の磨き上げと競争力強化

- ・MICE開催経費の一部を助成する「京都市MICE開催支援助成金制度」「大規模国際コンベンション開催支援助成金」や、国際会議誘致活動経費の一部を助成する「大規模国際コンベンション誘致支援助成金」の運用
- ・伝統産業製品を活用した記念品や、舞や茶道、鏡開き等の京都らしい演出に係る費用を補助する「京都らしいMICE開催支援補助制度」の運用
- ・京都らしい特別な体験を提案する「エクスカージョンガイド」の作成・活用
- ・MICE事業者のSDGsへの理解促進や先進事例の創出を図るための「サステナブルなMICE開催支援補助制度」の創設(R5～)
- ・海外商談会への出展や海外MICEメディアと連携した商談会の開催(R5～)
- ・SDGsの観点を踏まえた、MICE開催都市としての京都の魅力を訴求するPR動画の作成、活用(R5)
- ・京都の強みを活かしたMICE誘致の強化(「京都らしいMICE開催支援補助制度」における「ユニークベニュー活用」に係る経費補助の新設、「京都市MICE開催支援助成金制度」における京都市内での開催実績があるMICEに対する助成額の加算、「京都らしいMICE開催支援補助制度」「京都市MICE開催支援助成金」「大規模国際コンベンション誘致支援助成金」の採択件数の拡充)(R7)
- ・今後のより効果的な施策立案につなげるためのMICE実態調査の実施(R7)



「京都らしいMICE開催支援補助制度」を活用し、会場内に京都らしさを演出



海外商談会への出展



「M&C Asia Stella Awards 2024」授賞式

＞ 「M&C ASIA」(アジア最大級のMICEメディア)が主催する表彰プログラム「M&C Asia Stella Awards 2024」において「Best Incentive City (Asia)」を日本の都市で初受賞(R6)  
※ ユニークベニューの取組、報奨・研修旅行等の開催実績、コンベンションビューローのスタッフのスキルの高さ等が高く評価

## 3 MICEによる地域貢献

- ・「京都らしいMICE開催支援補助制度」による伝統産業製品の活用促進
- ・文化の継承にも資するユニークベニューの活用促進
- ・「サステナブルなMICE開催支援補助制度」による市民公開講座、市民参加型イベントの開催促進(R5～)
- ・大阪・関西万博を契機に、ビジネス交流やネットワーク構築を図るため、海外企業等による市内企業の視察やスタートアップとの交流等を行うビジネスツアー「Tech Tour Kyoto」の実施(R6～)
- ・MICE参加者等から寄附金を募り、伝統文化、祭事、芸能、伝統工芸の継承・保全等の活動を支援する「京都MICE基金」の運用(R3)



ユニークベニューの活用

＞ 助成制度を活用して開催された市民公開講座への参加者数：2,000名以上(R5)



国際会議における市民参加型イベント

## 4 MICE誘致・開催に向けた担い手の育成と環境整備

- ・「サステナブルなMICE開催支援補助制度」による学会運営への学生の参加等の支援(R5～)
- ・国連主催の「インターネット・ガバナンス・フォーラム(IGF)」をはじめとする象徴的会議の誘致・開催支援
- ・国内MICE主催団体等への積極的な訪問活動
- ・首都圏における営業活動等のネットワークの構築
- ・京都国際会館のホール拡張に向けた国への要望
- ・MICE関連事業者等による情報共有及び意見交換を行う京都市MICE会議、実務者会議の開催



様々な国際会議を開催

＞ 助成制度を活用して国際会議に参加した学生数：700名以上(R5)  
＞ 京都国際会館ニューホール拡張が決定(2,000㎡から4,000㎡に拡張(現行2,000㎡で1,600人収容))(R9予定)

## 参考2 コロナ禍における取組①

赤：緊急事態宣言等の期間中の主な出来事や、水際対策の強化等に関する主な出来事  
 青：GoToトラベル等の国・府における観光振興の取組や、水際対策の緩和等に関する主な出来事  
 ※ 各種補助事業は観光政策に限り記載

### 令和元年度

- 1/30 ・京都市(京都府)でコロナ1例目を確認
- 2/1 ・政府 段階的な入国制限強化
- 3/3 ・第54回「京の冬の旅」キャンペーンの一部中止を発表
- 3/18 ・観光業界向けオンライン研修の配信を開始(後の京都観光オンラインアカデミー)(DMO)
  - ・DMO会員向け「新型コロナウイルス対策緊急支援助成金」の創設(DMO)

### 令和2年度

- 4/6 ・「京都市観光事業者等緊急支援補助金」の創設
- 4/16 ・政府 緊急事態宣言(京都府1回目)
- 5/15 ・葵祭 路頭の儀及び齋王行列祿の儀等の中止
- 5/21 ・政府 緊急事態宣言 解除
- 6/9 ・事業者の感染症対策への支援を議論する庁内プロジェクトチーム(アドバイザーチーム)の設置
- 6/10 ・「修学旅行専用電話相談窓口」の開始
- 6/16 ・京都観光公式サイトに、事前予約制コンテンツの特集ページの開設
- 6/19 ・政府 府県をまたぐ移動の自粛要請解除(観光は府県をまたぐものを含めて徐々に再開)
  - ・「地元応援！京都で食べよう、泊まろうキャンペーン」の開始
  - 7/ 祇園祭 神輿渡御、山鉦建て及び山鉦巡行等の中止
  - 7/15 「新型コロナウイルス感染症対策宣言」(ガイドライン)の取りまとめ
    - ・「安心・安全なMICE開催支援補助金」の創設
  - 7/21 「新しい修学旅行『京都スタイル』」(修学旅行ガイドライン)の策定・発信
  - 7/22 ・政府 GoToトラベル事業開始(東京発着除く)
  - 7/30 「ガイドライン推進宣言事業所ステッカー」の交付を開始
  - 8/ 朝・夜観光、事前予約制の体験型観光コンテンツ造成強化の開始
  - 8/ 修学旅行専用24時間感染相談電話の開設等、修学旅行生に関する受入環境の整備の強化
    - ・第45回「京の夏の旅」キャンペーンの実施(規模縮小)(~9月)
  - 8/5 「アドバイザーチームによる事業者の感染症対策サポートナビ」の開設
  - 8/6 京都観光公式サイトに、特設ページ「withコロナ時代の京都観光ガイド」の開設
  - 8/16 五山送り火 点火箇所を大幅に縮小して実施
  - 8/19 「新しい生活スタイル対応のための感染症対策補助金」の創設



地元応援！京都で食べよう、泊まろうキャンペーン



ガイドライン推進宣言事業所ステッカー



京都まちけつと

- 9/30 ・コロナ禍の観光マナーを「京都まちけつと」として発信
- 10/1 ・政府 GoToトラベル事業 東京発着予約解禁
- 10/16 「ウィズコロナ社会におけるMICE京都モデル」(MICE開催ガイドライン)の策定・発信
- 10/22 ・時代祭 行列巡行等の中止
- 10/28 ・京都一周トレイルRのプロモーション強化
- 11/19 ・観光快適度(混雑予測)を「京都観光快適度マップ」としてリニューアル・発信強化
- 11/25 ・「換気・加湿等対策補助金」の創設
- 12/8 ・自転車観光のプロモーション強化
- 12/28 ・政府 GoToトラベル事業全国一斉停止
- 1/13 ・政府 緊急事態宣言(京都府2回目)
- 2/28 ・政府 緊急事態宣言 解除
  - 3/ 第55回「京の冬の旅」キャンペーンの実施(規模縮小)(~4月)
  - 3/7 ・コロナ禍における日本初の大規模国際会議「第14回国連犯罪防止刑事司法会議(京都コンGRESS)」開催



トレイル・サイクリング等アウトドアコンテンツの発信強化

### 令和3年度

- 4/1 ・「修学旅行生緊急帰宅支援助成金」の創設
- 4/12 ・政府 まん延防止等重点措置(京都府1回目)
- 4/23 「京都観光快適度マップ」においてライブカメラ映像の配信を開始
- 4/25 ・政府 緊急事態宣言(京都府3回目)
- 5/15 ・葵祭 路頭の儀及び齋王行列祿の儀等の中止
- 6/21 ・政府 緊急事態宣言 解除
  - ・まん延防止等重点措置(京都府2回目)
- 6/16 ・DMO・KCVB会員向け「新型コロナウイルスワクチン職域接種実施に対する支援助成金」の創設
  - 7/ 第46回「京の夏の旅」キャンペーンの実施(規模縮小)(~8月)
    - ・祇園祭 神輿渡御、山鉦巡行等の中止(一部の山鉦は文化継承の観点から山鉦建てを実施)
- 7/11 ・政府 まん延防止等重点措置 解除
- 8/2 ・政府 まん延防止等重点措置(京都府3回目)
- 8/16 ・五山送り火 点火箇所を大幅に縮小して実施
- 8/20 ・政府 緊急事態宣言(京都府4回目)
- 8/30 ・DMO・KCVB会員向けのコロナワクチン職域接種の実施(第1回目)
- 9/30 ・政府 緊急事態宣言 解除
  - ・「MICE主催者向けPCR検査等支援補助金」の創設



コロナ禍・日本初の大規模国際会議「京都コンGRESS」

## 参考2 コロナ禍における取組②

赤：緊急事態宣言等の期間中の主な出来事や、水際対策の強化等に関する主な出来事  
 青：GoToトラベル等の国・府における観光振興の取組や、水際対策の緩和等に関する主な出来事  
 ※ 各種補助事業は観光政策に限り記載

- 10/5 ・DMO・KCVB会員向けのコロナワクチン職域接種の実施(第2回目)
- 10/18 ・周辺部への分散観光、ウェルビーイング・ツーリズムを促進する実証事業「『aRound162』プロジェクト」の実施(DMO)
- 10/22 ・京都府 府内版GoTo「きょうと魅力再発見旅プロジェクト」開始
  - ・時代祭 行列巡行等の中止
- 11/1 ・「KYOTO again!」キャンペーンの実施(～12月)
  - 1/ ・第56回「京の冬の旅」キャンペーンの実施(PR縮小)(～3月)
  - 1/17 ・「平日の京都へ！おこしやすキャンペーン」の実施(～2/28)
- 1/26 ・京都府 府内版GoTo「きょうと魅力再発見旅プロジェクト」の新規予約の一時停止
- 1/27 ・政府 まん延防止等重点措置(京都府4回目)
- 3/21 ・政府 まん延防止等重点措置 解除
- 3/22 ・京都府 府内版GoTo「きょうと魅力再発見旅プロジェクト」再開



aRound162プロジェクト



KYOTO again!キャンペーン



平日の京都へ！おこしやすキャンペーン



京都にち・とま キャンペーン

### 令和4年度

- 5/15 ・葵祭 路頭の儀及び齋王代列祓の儀等の中止
- 6/10 ・政府 観光目的の入国についてパッケージ旅行から条件付きで再開
  - ・京都観光公式サイトにおいて、外国人向けの感染症対策特設ページの開設、マナー啓発発信再開
- 7/ ・第47回「京の夏の旅」キャンペーンの実施(3年ぶりに通常の形で催行)(～9月)
  - ・祇園祭 巡行等を可能な限り本来の形で実施
- 8/16 ・五山送り火 3年ぶりに本来の形で実施
- 8/21 ・日曜日等の宿泊を喚起する「京都にち・とまキャンペーン」の実施(～10月)
- 9/7 ・政府 添乗員を伴わないパッケージツアーについても外国人観光客の受入れを認め、対象を全ての国・地域に拡大
- 10/ ・外国人観光客向けのプロモーション強化の再開
- 10/11 ・政府 入国者数上限の撤廃 訪日客の個人旅行の解禁、短期滞在向けの査証(ビザ)取得免除措置再開
  - ・京都府 府内版GoTo「きょうと魅力再発見旅プロジェクト」を全国に拡大(全国旅行支援)(～12月)
- 10/22 ・時代祭 3年ぶりに本来の形で実施

- 1/ ・第57回「京の冬の旅」キャンペーンの実施(4年ぶりに通常の形で催行)(～3月)
- 1/10 ・京都府 全国旅行支援「きょうと魅力再発見旅プロジェクト」再開(～6月末)

### 令和5年度

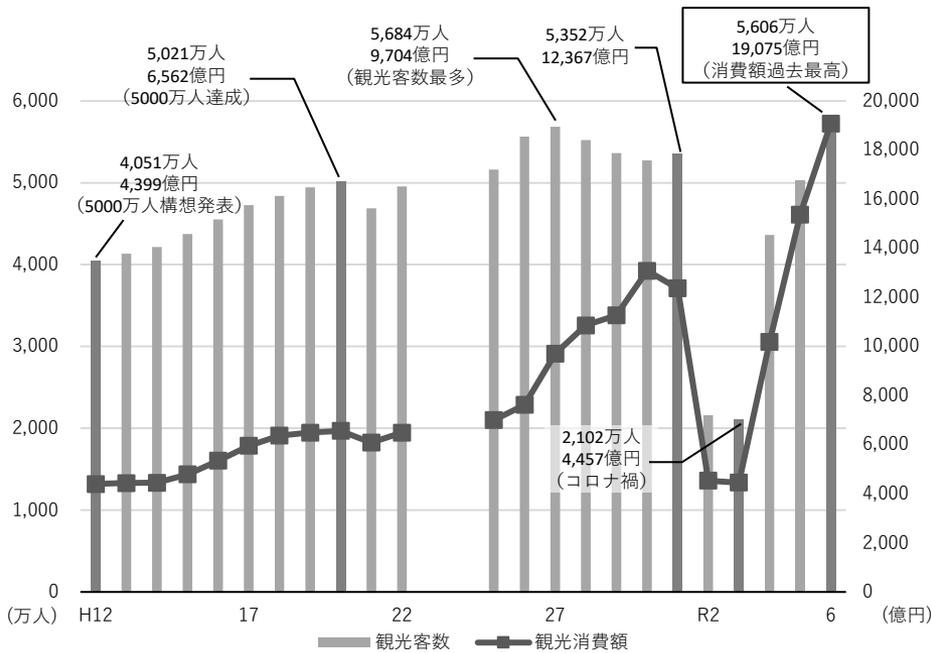
- 4/29 ・政府 水際対策終了
- 5/8 ・政府 新型コロナの5類移行
- 5/16 ・葵祭 雨天順延の後、4年ぶりに本来の形で実施
- 7/ ・祇園祭 4年ぶりに本来の形で実施
- 8/10 ・中国政府 日本への中国人団体旅行の解禁
- 12/1 ・京都府 全国旅行支援「きょうと魅力再発見旅プロジェクト」再開(～12月末)
- 1/9 ・京都府 全国旅行支援「きょうと魅力再発見旅プロジェクト」再開(～1月末)



## 京都の観光・MICEの現状

# 観光・MICEの動向【観光客数・観光消費額①】

## 観光客数、観光消費額の推移



※ H23,24は調査手法の変更により観光客数及び観光消費額を推計していない。  
観光客のR2,3及び観光消費額のR2~4はコロナ禍の影響により国基準による推計を行っており、表記は京都市独自の推計値。  
観光消費額の推移のうち点線箇所は、調査手法の変更などにより単純比較できない箇所を表す。

## 観光客数における日本人／外国人の内訳

年	観光客数	うち日本人	うち外国人
H27	5,684万人	5,202万人 (92%)	482万人 (8%)
H28	5,522万人	4,861万人 (88%)	661万人 (12%)
H29	5,362万人	4,619万人 (86%)	743万人 (14%)
H30	5,275万人	4,470万人 (85%)	805万人 (15%)
R1	5,352万人	4,466万人 (83%)	886万人 (17%)
R2	2,159万人	—	—
R3	2,102万人	—	—
R4	4,361万人	—	—
R5	5,028万人	4,319万人 (86%)	709万人 (14%)
R6	5,606万人	4,518万人 (81%)	1,088万人 (19%)

括弧) 全体の観光客数に占める割合。  
※ R2,3年はコロナ禍の影響により国基準による推計を行っており、表記は京都市独自の推計値。  
H26以前及びR2~4年は、観光客数の日本人／外国人の別を推計していない。  
外国人観光客数は、「訪日外客数」(JNTO)に「訪日外国人の京都府訪問率」(観光庁)を乗じて算出した参考値

## 観光客数内訳

区分	R6 総数	日本人	外国人
日帰り	3,976万人 (4,035万人)	3,709万人 (3,529万人)	267万人 (506万人)
宿泊	1,630万人 (1,317万人)	809万人 (937万人)	821万人 (380万人)
合計	5,606万人 (5,352万人)	4,518万人 (4,466万人)	1,088万人 (886万人)

括弧) R1の値  
※ 外国人観光客数は、「訪日外客数」(JNTO)に「訪日外国人の京都府訪問率」(観光庁)を乗じて算出した参考値

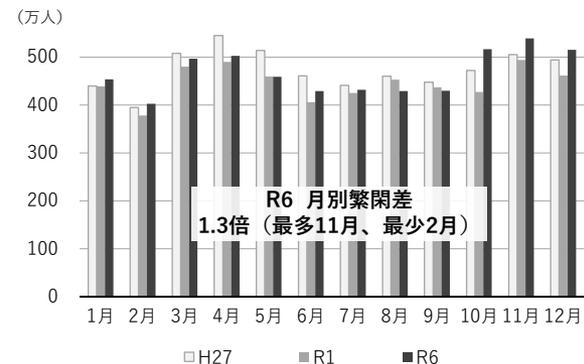
## 観光消費額単価

区分	R6	R1
日本人 日帰り	13,232円 (+20%)	11,054円
宿泊	69,801円 (+27%)	54,970円
全体	23,355円 (+15%)	20,267円
外国人 日帰り	19,831円 (±0%)	19,766円
宿泊	97,338円 (+60%)	60,991円
全体	78,346円 (+109%)	37,437円

括弧) R1からの伸び率

(再掲) 消費者物価指数  
為替相場の推移  
ドル円 R1:100 → R7:111.9 (+11.9)  
ユーロ円 R1:109.2 → R6:157.9 (+35.3)  
ユーロ円 R1:122.6 → R6:164.0 (+41.4)

## 観光客の月別繁閑差



## 宿泊客数の内訳

区分	R6	R5	R1
実人数	1,629万8千人	1,474万5千人	1,316万6千人
延べ人数	2,754万7千人	2,375万1千人	2,125万3千人

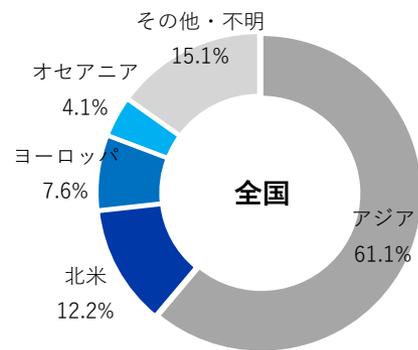
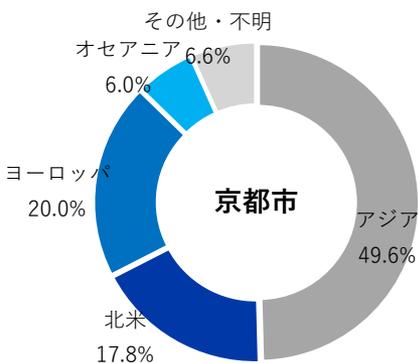
### うち日本人宿泊客数

区分	R6	R5	R1
実人数	808万6千人	938万8千人	936万7千人
延べ人数	940万4千人	1,222万7千人	1,295万9千人

### うち外国人宿泊客数

区分	R6	R5	R1
実人数	821万2千人	535万7千人	379万9千人
延べ人数	1,814万3千人	1,152万4千人	829万4千人

## 外国人観光客の国・エリア別の傾向 (R6 延べ宿泊者)



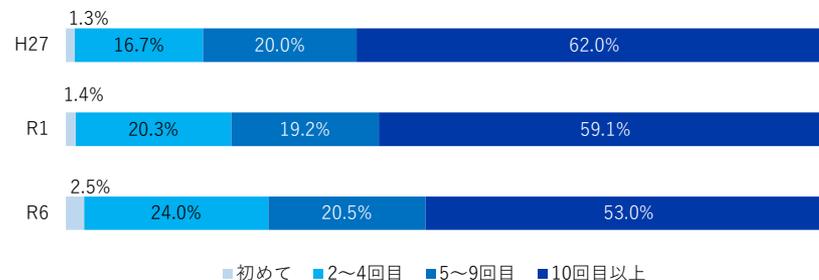
京都市 国・地域上位5位	構成割合
中国	21.3%
アメリカ	15.3%
台湾	10.1%
韓国	6.3%
オーストラリア	5.4%

全国 国・地域上位5位	構成割合
中国	18.2%
台湾	13.3%
韓国	13.0%
アメリカ	10.5%
香港	5.6%

出典) 全国: 「宿泊旅行統計調査」 (観光庁)

## リピーター率

### 日本人観光客

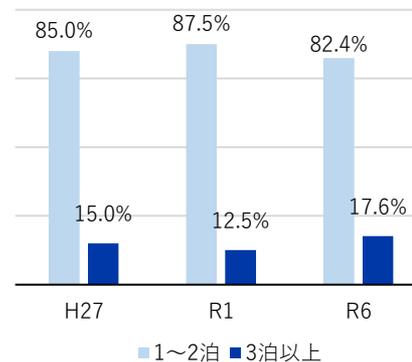


### 外国人観光客

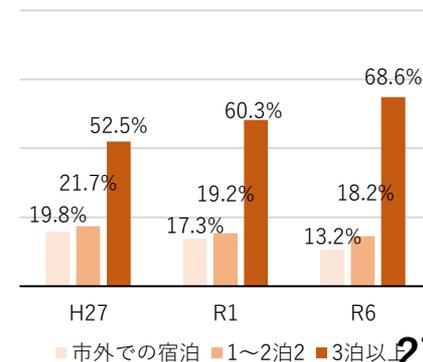


## 宿泊日数

### 日本人観光客

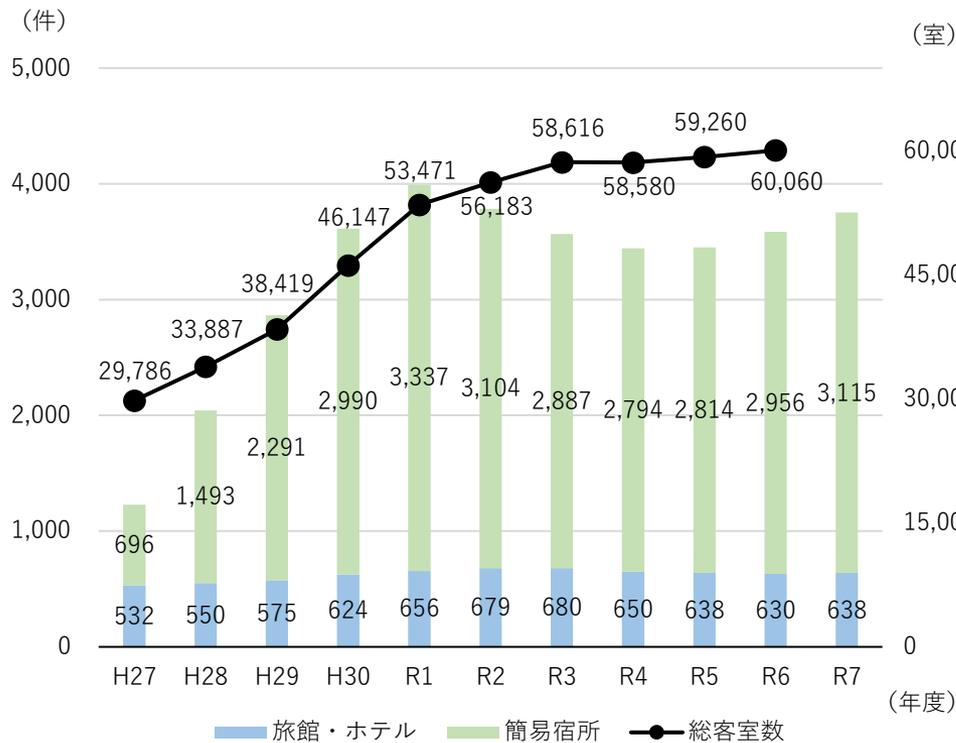


### 外国人観光客

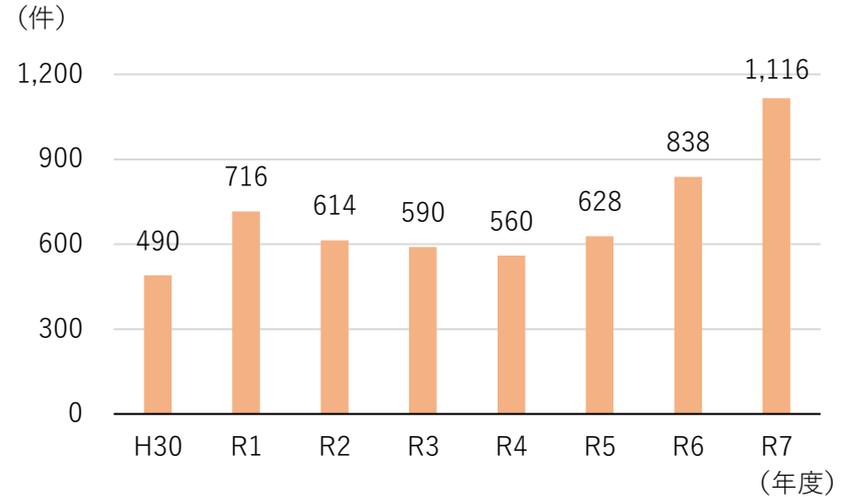


# 観光・MICEの動向【宿泊施設①】

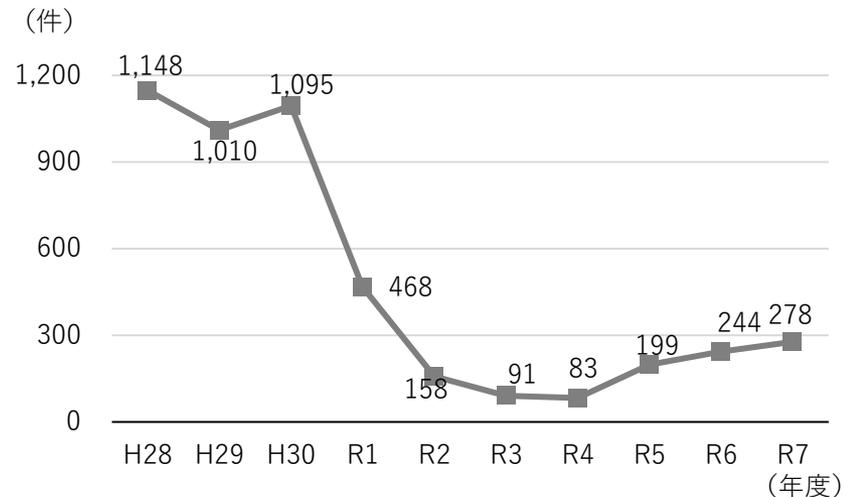
## 旅館業許可施設数・総客室数の推移（旅館・ホテル、簡易宿所）



## 住宅宿泊事業届出住宅数の推移

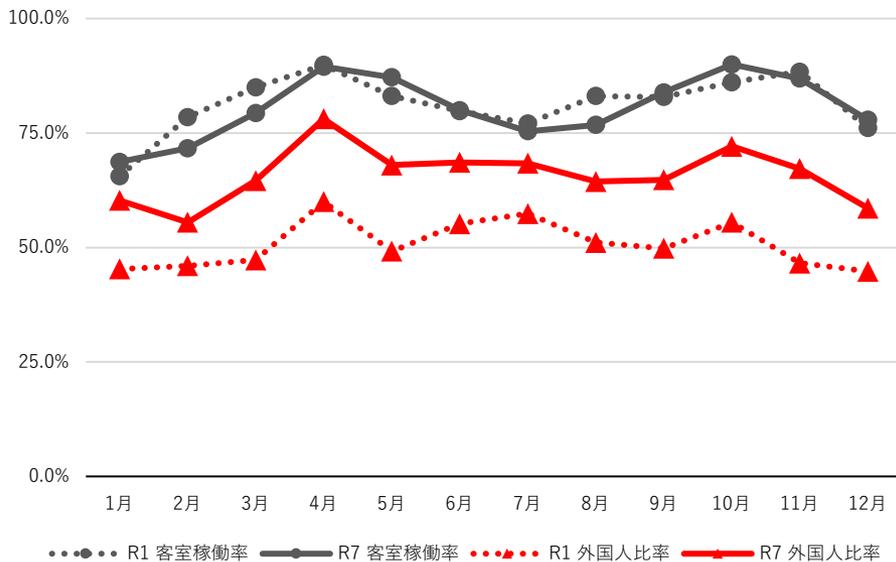


## 民泊通報・相談窓口の通報等受付件数



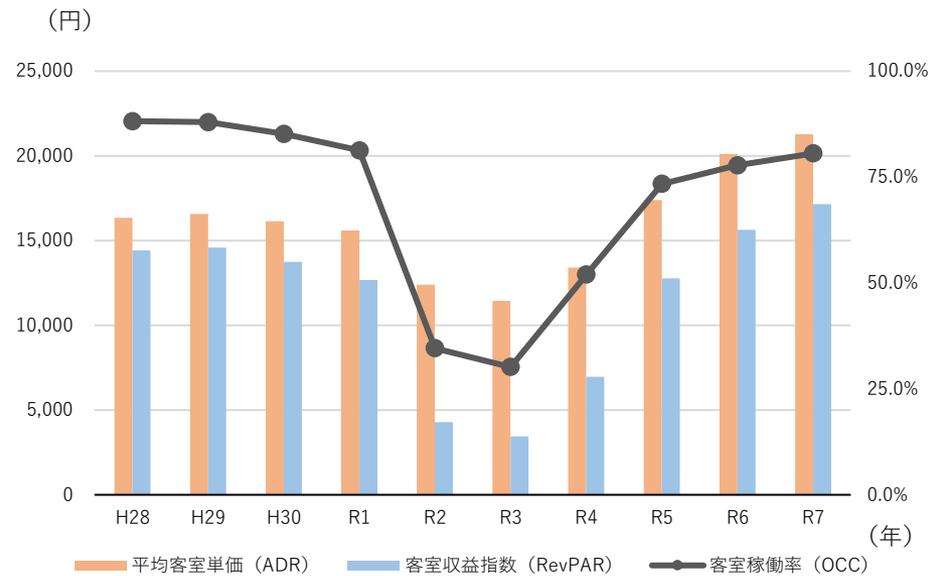
出典 「京都市民泊ポータルサイト」 (R7年度の値はR8.1月末時点)  
<https://minpakuportal.city.kyoto.lg.jp/>

## 市内主要ホテルの客室稼働率及び外国人比率



区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
R7 客室稼働率	68.7%	71.7%	79.4%	89.5%	87.2%	80.0%	75.4%	76.8%	83.9%	90.0%	86.9%	77.9%
R1 客室稼働率	65.6%	78.5%	85.0%	89.9%	83.1%	79.8%	77.1%	83.1%	82.9%	86.1%	88.4%	76.1%
R7 外国人比率	60.3%	55.5%	64.6%	78.1%	68.0%	68.6%	68.4%	64.4%	64.8%	72.1%	67.2%	58.6%
R1 外国人比率	45.3%	46.0%	47.3%	60.0%	49.2%	55.2%	57.4%	51.1%	49.8%	55.5%	46.6%	44.8%

## 市内主要ホテルの平均客室単価等の推移



区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
平均客室単価(円)(ADR)	16,348	16,583	16,144	15,610	12,408	11,455	13,406	17,403	20,117	21,286
客室収益指数(円)(RevPAR)	14,419	14,593	13,755	12,691	4,293	3,459	6,971	12,774	15,651	17,156
客室稼働率 (OCC)	88.2%	88.0%	85.2%	81.3%	34.6%	30.2%	52.0%	73.4%	77.8%	80.6%

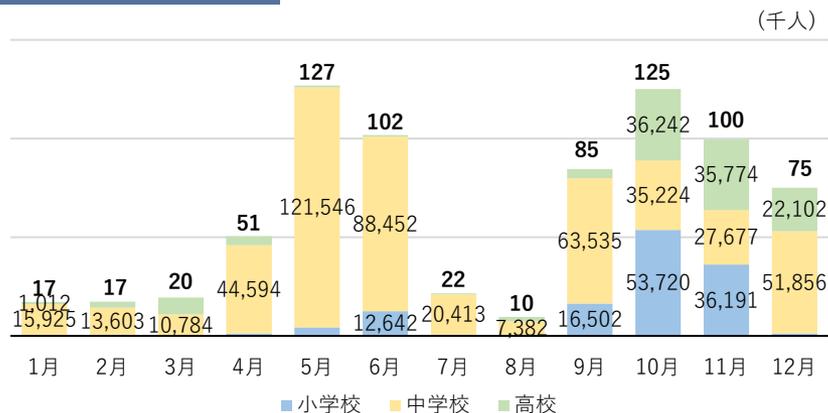
# 観光・MICEの動向【修学旅行、MICE】

出典) 京都観光総合調査

## 修学旅行生数

区分	R6	R5	R1
実人数	75万0千人	81万1千人	70万4千人
延べ人数	117万8千人	131万7千人	121万4千人

## 月別修学旅行生数 (R6)



## 出発地別修学旅行生割合 (R6)

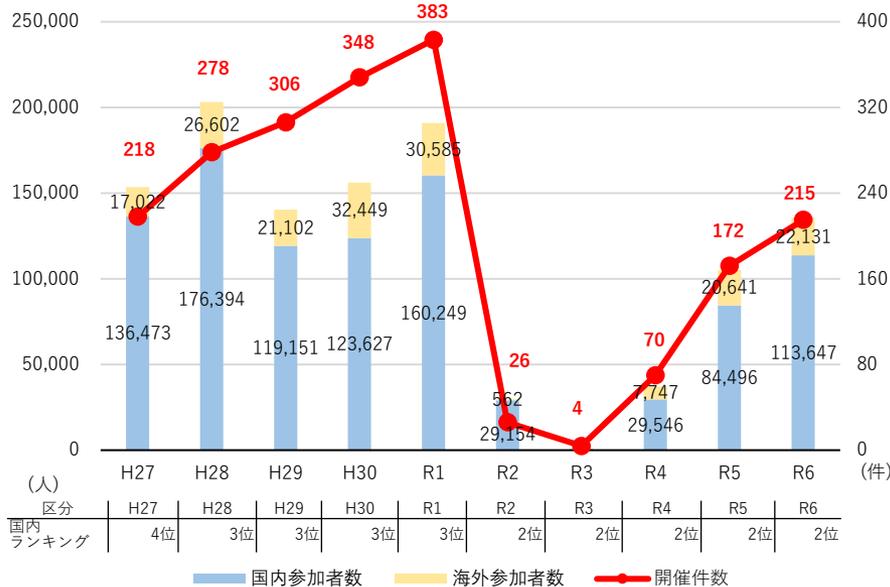
区分	小学校	中学校	高校
北海道	0.0%	0.2%	15.5%
東北	0.0%	0.6%	30.3%
関東	2.0%	64.4%	37.9%
中部	74.3%	11.8%	8.1%
近畿	11.7%	0.4%	1.3%
中国	6.7%	3.4%	0.8%
四国	5.0%	1.8%	0.6%
九州・沖縄	0.3%	17.4%	5.5%

## 全国の修学旅行生数に占める京都シェア

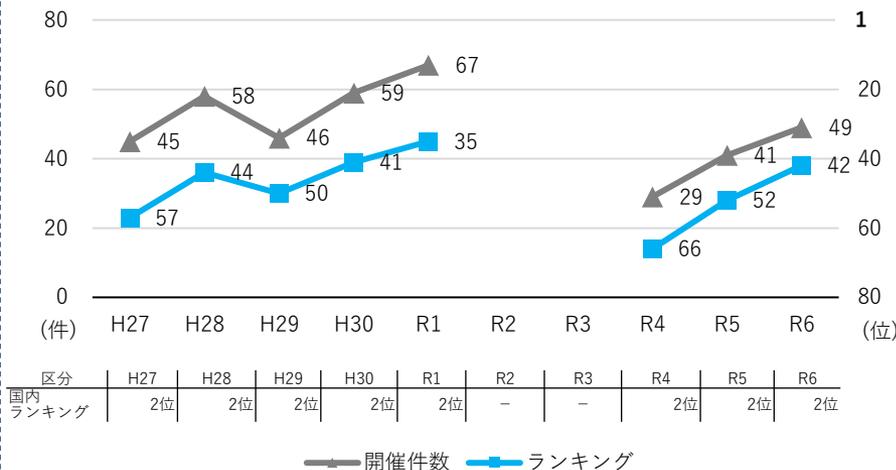
R1:22.1%、R5:26.5%、R6:24.6%

※ 京都市の修学旅行生数と、全国の小学6年生、中学2年生、高校2年生の児童・生徒数(文部科学省)との比較

## 国際会議の開催件数、参加者数の推移 (JNTO基準)



## 国際会議の開催件数、世界ランキング (ICCA基準)



## MICE開催に伴う経済波及効果

### 【主催者による消費例】

会議施設利用、舞台施工、音響等機材、運輸、宿泊、人材派遣、印刷、飲食・レセプション、エクスカージョン、記念品 等

### 【参加者による消費例】

宿泊、観光、飲食、土産 等

### 【参加者消費額の比較】

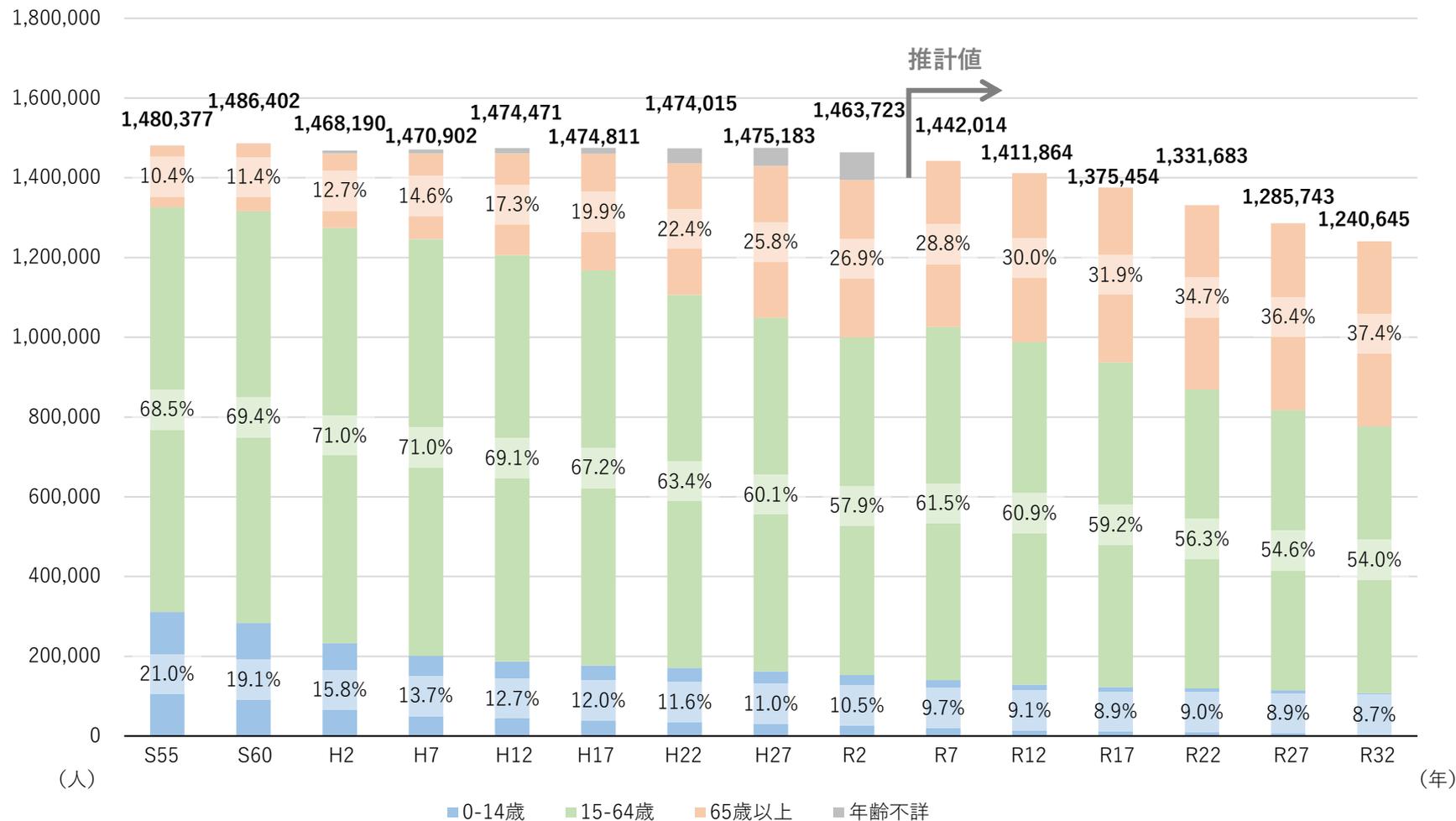
区分	外国人 (A)	日本人 (B)	①と②との比較
MICE参加者 (①)	333,010円	84,300円	約4.0倍
MICE参加者以外の観光客 (②)	78,346円	23,355円	約3.4倍
①と②との比較	約4.3倍	約3.6倍	—

### 【MICEの経済効果（令和6年）】

215件の国際会議により、約198億円の経済波及効果（1件当たり平均9,200万円）

# 社会動向【京都市の人口推移及び将来推計】

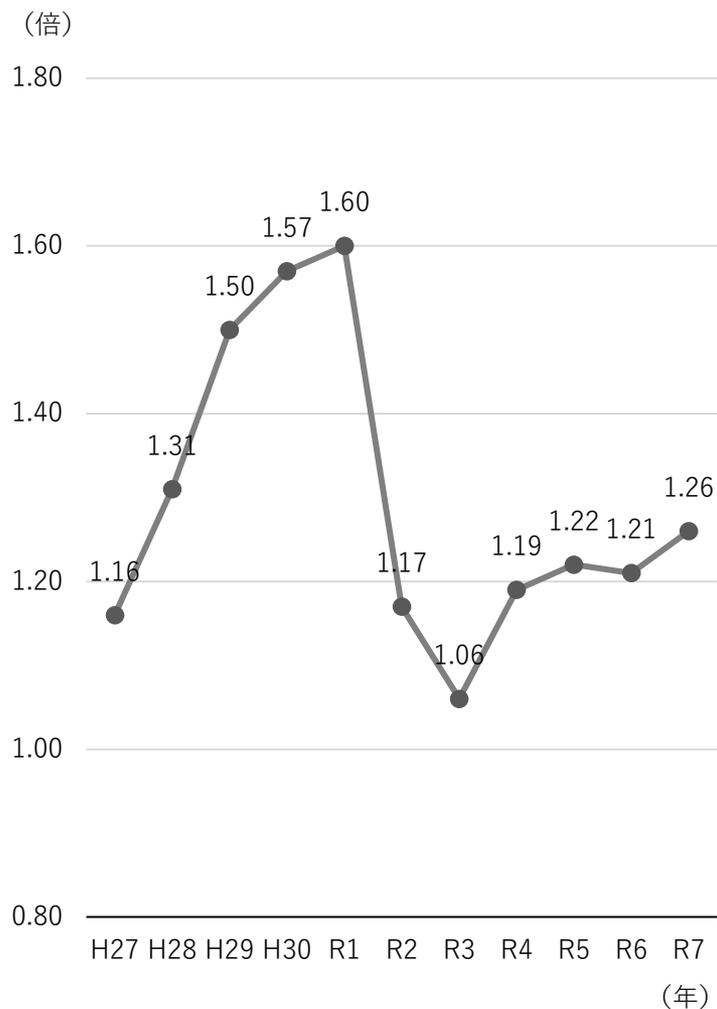
## 京都市の人口推移及び将来推計



出典 R2まで「国勢調査」（総務省統計局）、R7以降「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所、R5）（R5以降の人口推計は出生中位（死亡中位）推計による）  
総数には年齢不詳を含む。

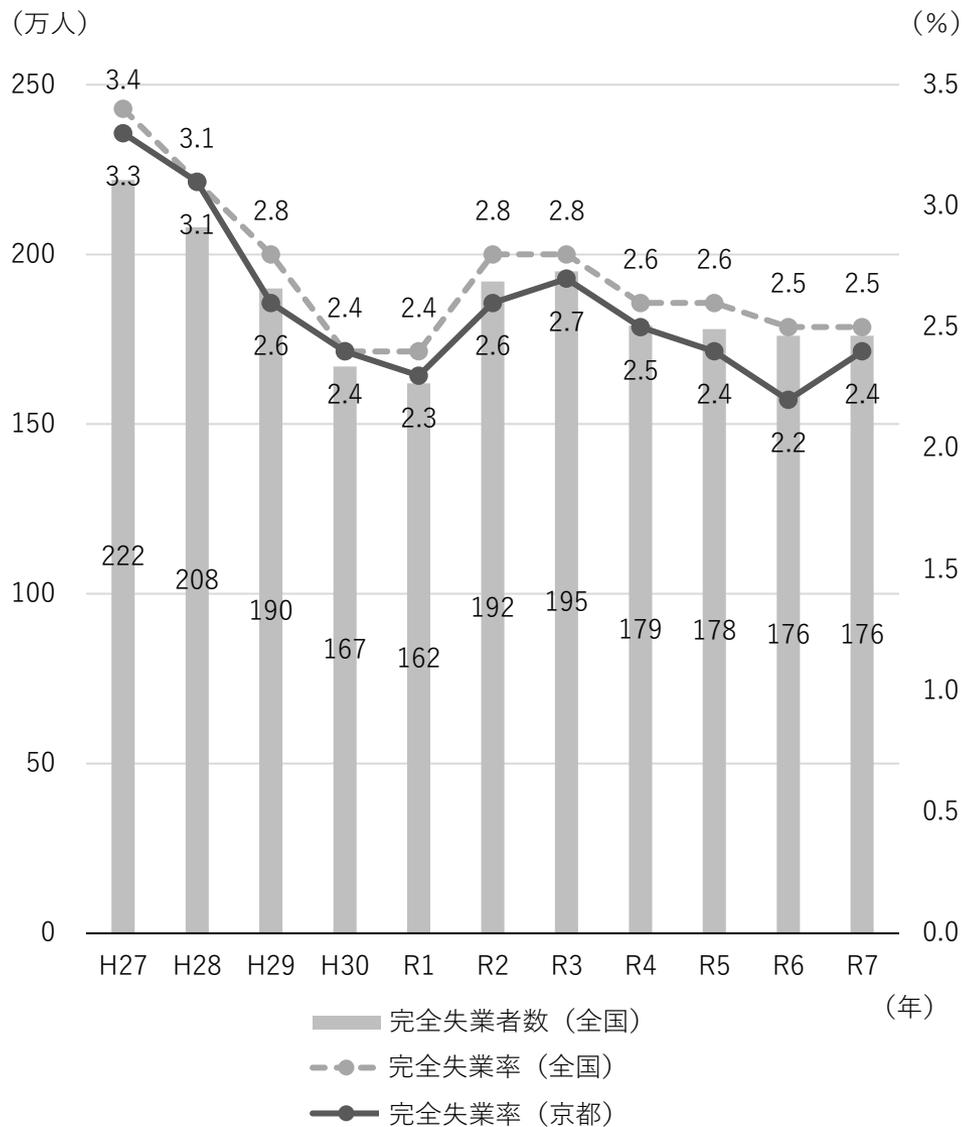
<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2025/index.html>  
<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/t-page.asp>

## 京都府の有効求人倍率の推移



出典)「京都府の雇用失業情勢」(京都労働局職業安定部)  
[https://jsite.mhlw.go.jp/kyoto-roudoukyoku/jirei\\_toukei/kyujin\\_kyushoku/toukei/koyoshitugyo.html](https://jsite.mhlw.go.jp/kyoto-roudoukyoku/jirei_toukei/kyujin_kyushoku/toukei/koyoshitugyo.html)

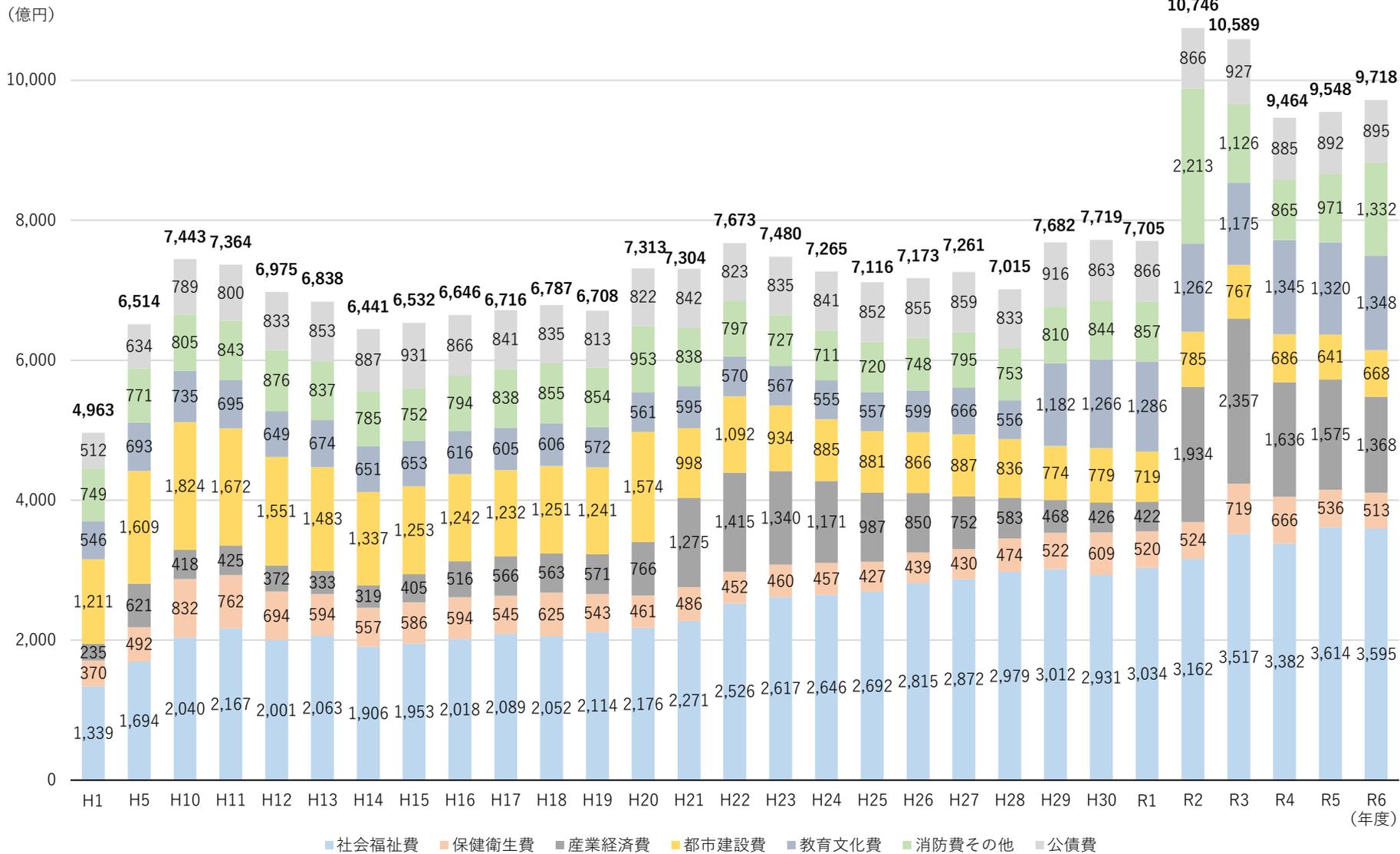
## 京都府の完全失業率



出典)「京都府の雇用失業情勢」(京都労働局職業安定部)  
[https://jsite.mhlw.go.jp/kyoto-roudoukyoku/jirei\\_toukei/kyujin\\_kyushoku/toukei/koyoshitugyo.html](https://jsite.mhlw.go.jp/kyoto-roudoukyoku/jirei_toukei/kyujin_kyushoku/toukei/koyoshitugyo.html)

# 京都市の観光関連予算等【京都市の一般会計における行政目的別歳出決算額の推移】

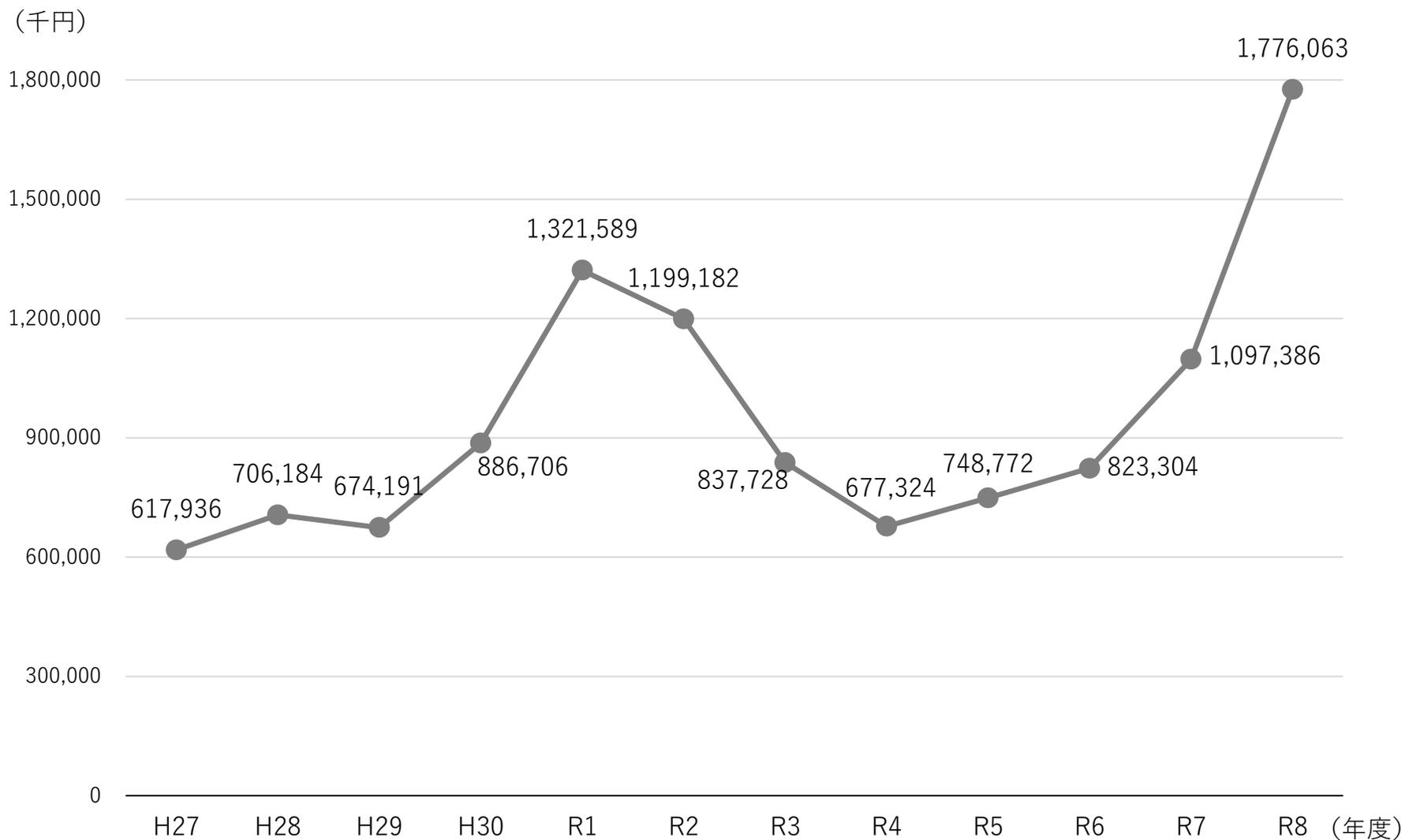
## 京都市の一般会計における行政目的別歳出決算額の推移



出典「本市財政の推移」(京都市)  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/cmsfiles/contents/0000282/282278/yosankessansui.pdf>

# 京都市の観光関連予算等【観光関連予算額の推移】

## 京都市の観光関連予算額の推移



※ いずれも当初予算額（R6年度予算は、当初予算及び第二次編成予算の合計）

# 京都市の観光関連予算等【宿泊税】

## 宿泊税の使途

国際文化観光都市としての魅力を高め、及び観光の振興を図る施策に要する費用に充てる（京都市宿泊税条例第1条（抄））

## 宿泊税を活用した取組方針

### 方針1：多様で奥深い魅力を活かした「観光」の推進

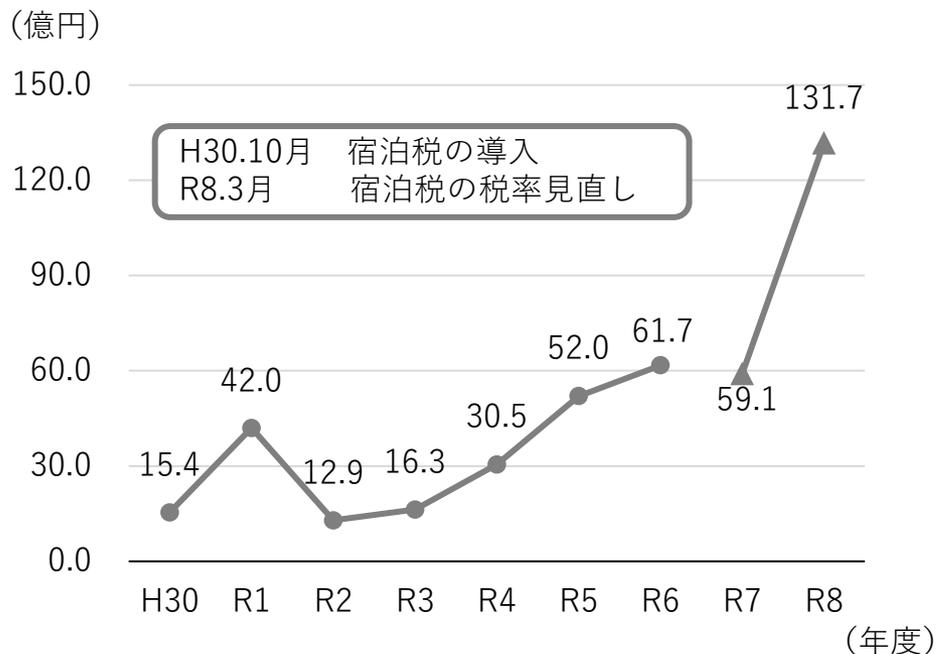
- 施策1：観光を通じた京都の魅力を継承・発展
- 施策2：文化の力を活かした価値創造
- 施策3：品格ある景観創造

### 方針2：市民生活と観光の調和・両立の更なる推進

- 施策4：観光課題対策の着実な実施
- 施策5：市民・観光客双方の利便性向上や安心安全につながる都市基盤整備

出典 「宿泊税の見直し(案)について」(R7.1.14市長記者会見資料(抄))

## 宿泊税収入の推移



※ 決算額ベース。ただし、R7、8年度は当初予算額

## 宿泊税の税率の見直し

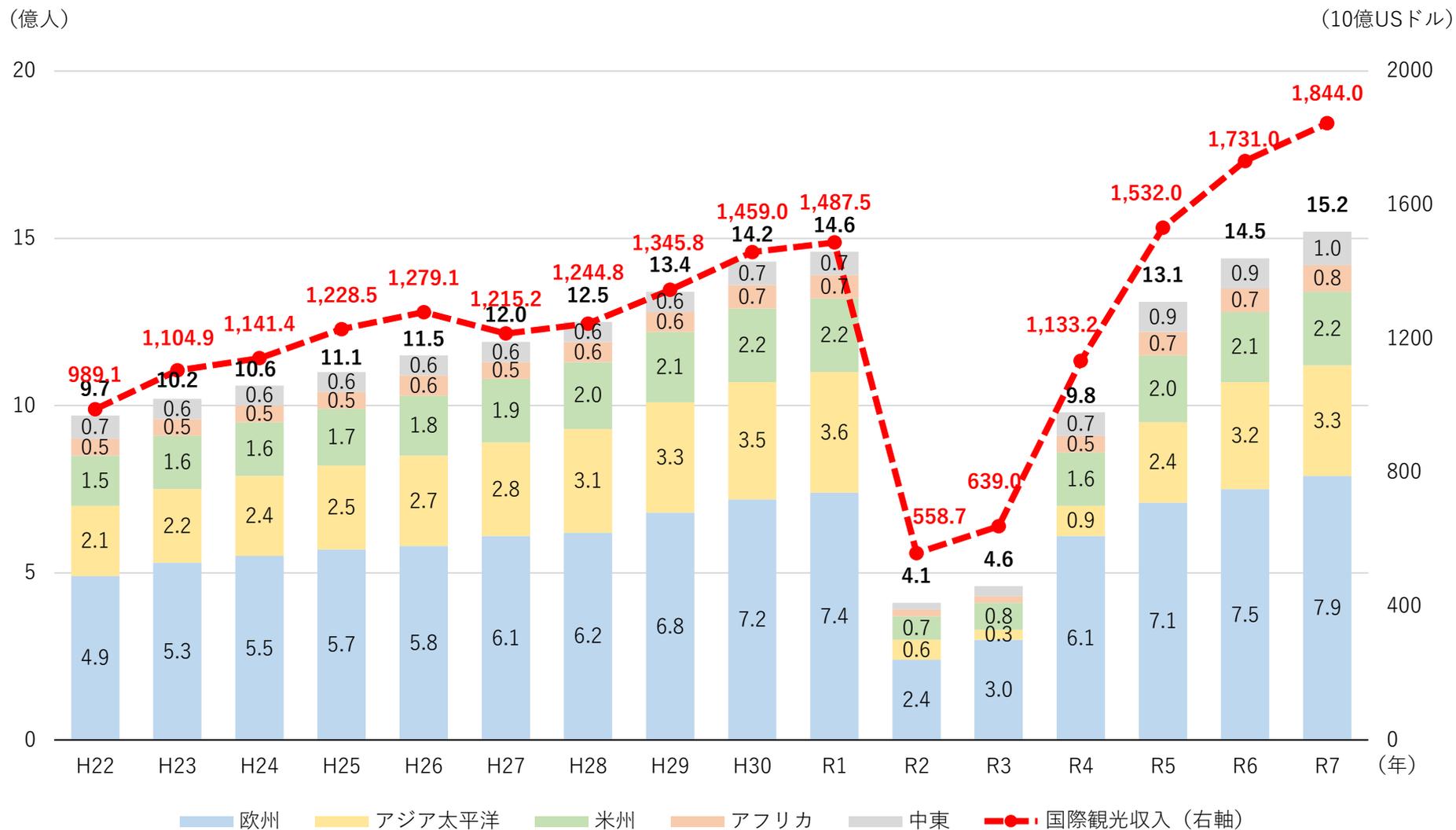
宿泊料金 (1人1泊につき)	税率	
	R8.2月まで	R8.3月以降
6,000円未満	200円	200円
6,000円以上 20,000円未満		400円
20,000円以上 50,000円未満	500円	1,000円
50,000円以上 100,000円未満	1,000円	4,000円
100,000円以上		10,000円



## 世界・国内の動向と今後の見通し

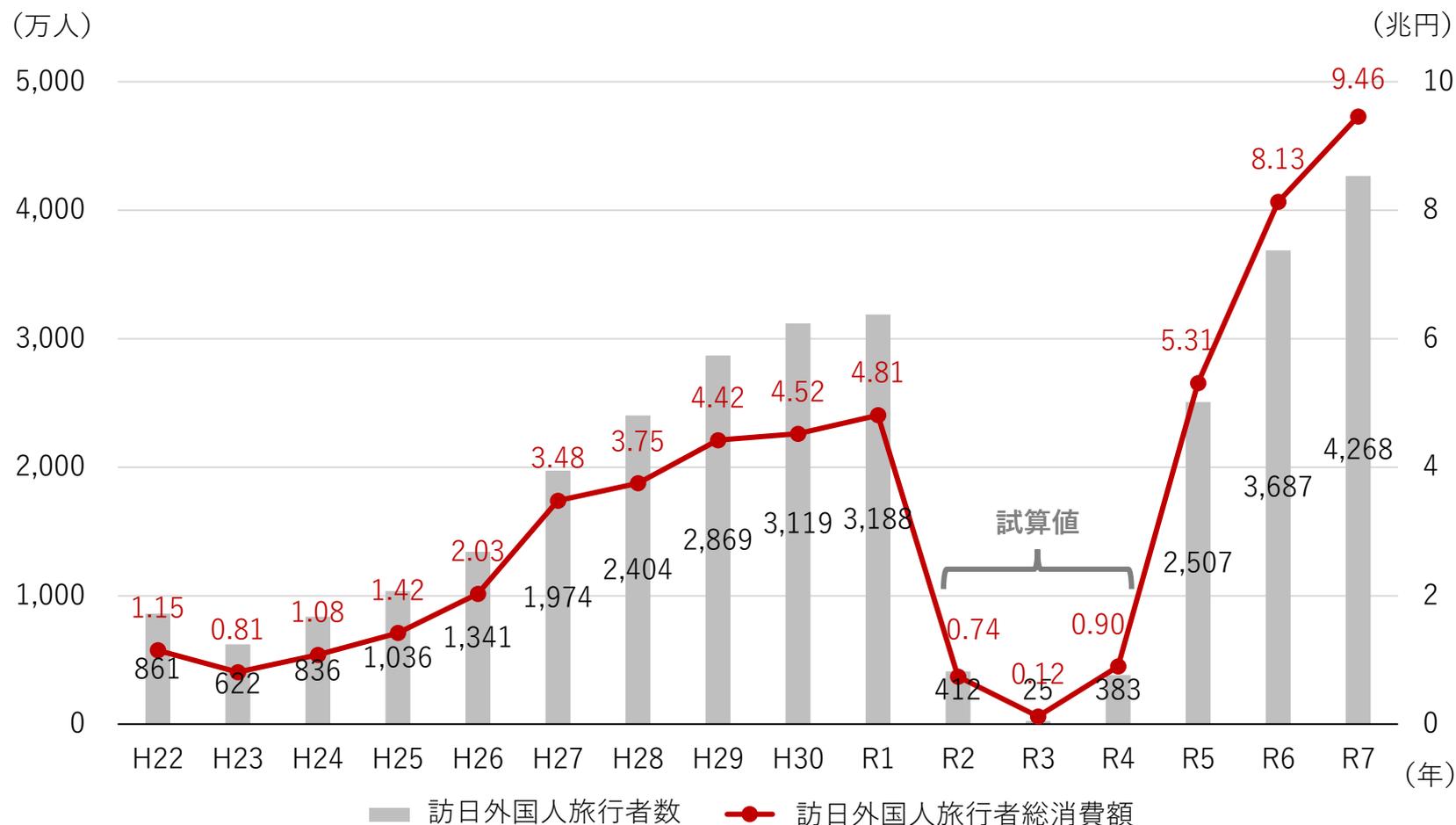
# 世界の観光動向【国際観光客到着数（大陸別）及び国際観光収入の推移】

## 国際観光客到着数（大陸別）及び国際観光収入の推移



# 日本の観光動向【訪日外客数と消費額の推移】

## 訪日外客数と消費額の推移



出典 「訪日外客統計」(日本政府観光局(JNTO))、「インバウンド消費動向調査」(旧 訪日外国人消費動向調査)(観光庁)

[https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei\\_hakusyo/gaikokujinshohidoko.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/gaikokujinshohidoko.html)

<https://www.jnto.go.jp/statistics/data/visitors-statistics/>

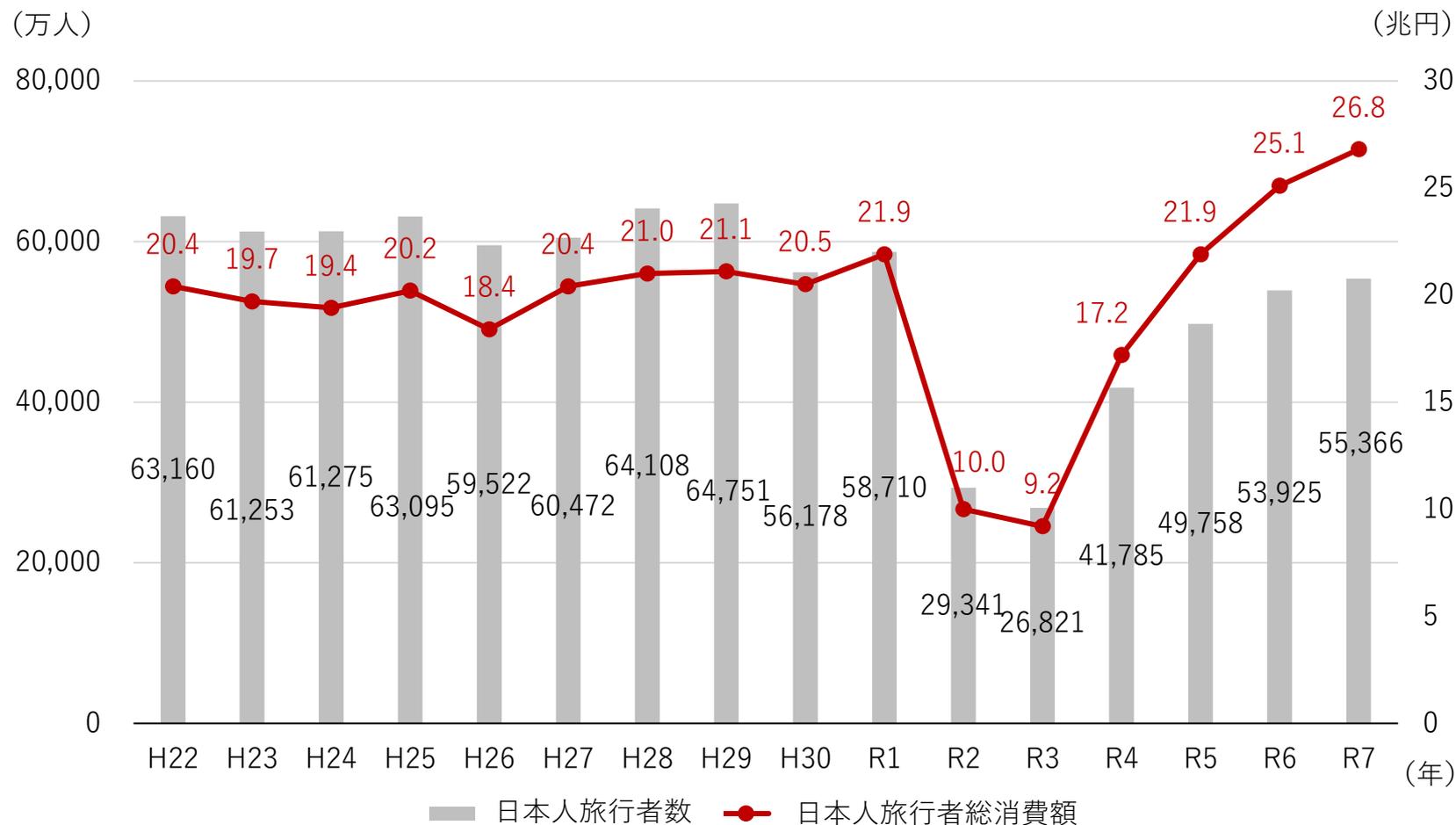
※ H29までは空港を利用する旅客を中心に調査を行っていたが、短期滞在の傾向があるクルーズ客の急増を踏まえ、H30からクルーズ客を対象とした調査も行い調査結果に反映。

H30以降とH29以前の数値との比較には留意が必要。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、R2~4年の値は試算値のため、他の年との比較には留意が必要。

# 日本の観光動向【国内旅行者数と消費額の推移】

## 国内旅行者数と消費額の推移

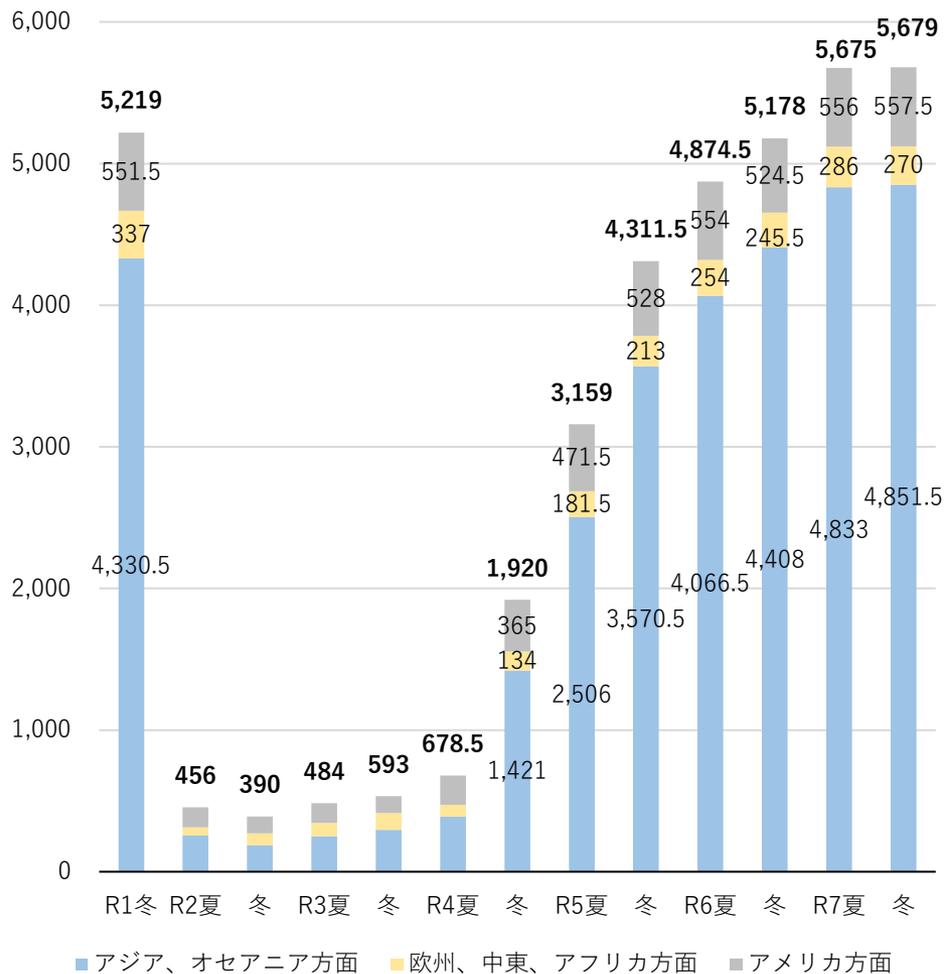


出典 「旅行・観光消費動向調査」(観光庁)  
[https://www.mlit.go.jp/kankoch/tokei\\_hakusyo/shohidoko.html](https://www.mlit.go.jp/kankoch/tokei_hakusyo/shohidoko.html)

# 日本の観光動向【国際旅客定期便数の推移】

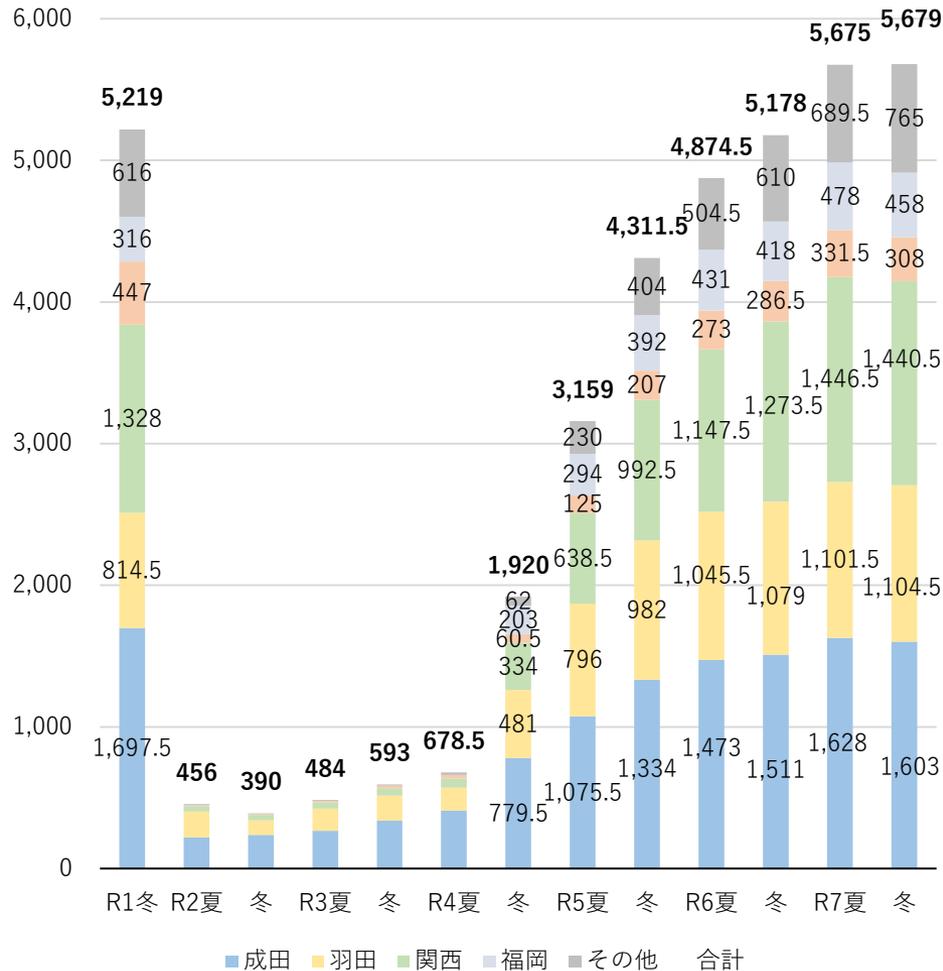
## 方面別の国際旅客定期便の便数の推移

(便/週)



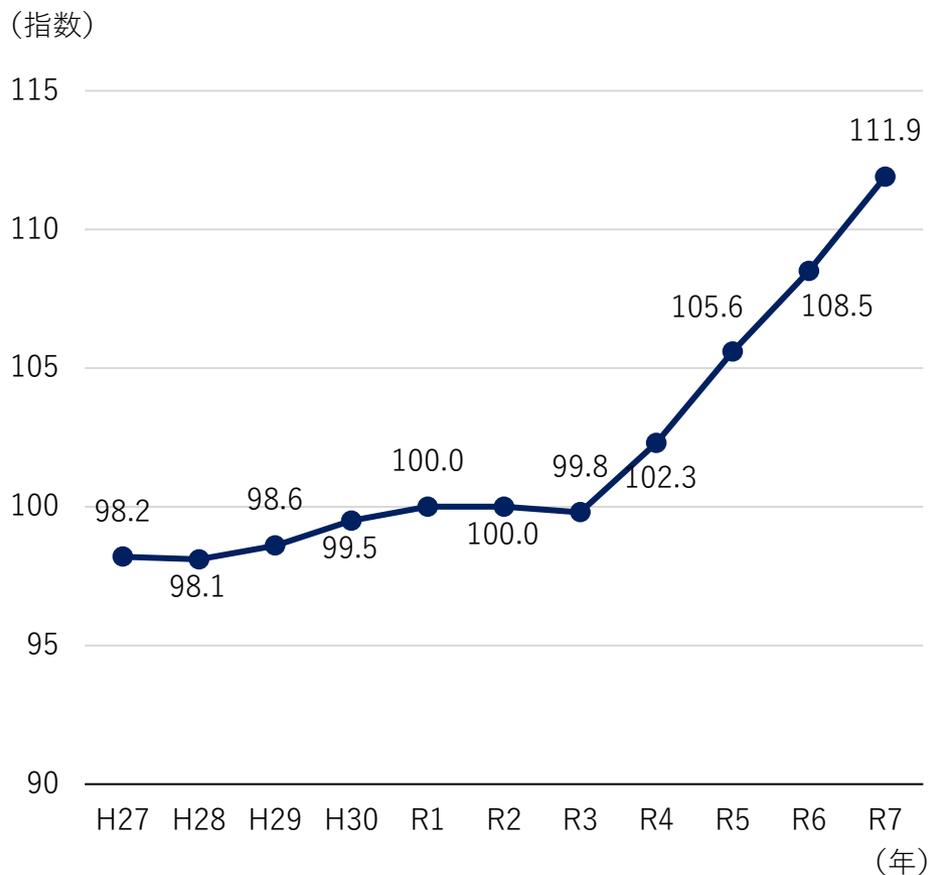
## 空港別の国際旅客定期便の便数の推移

(便/週)



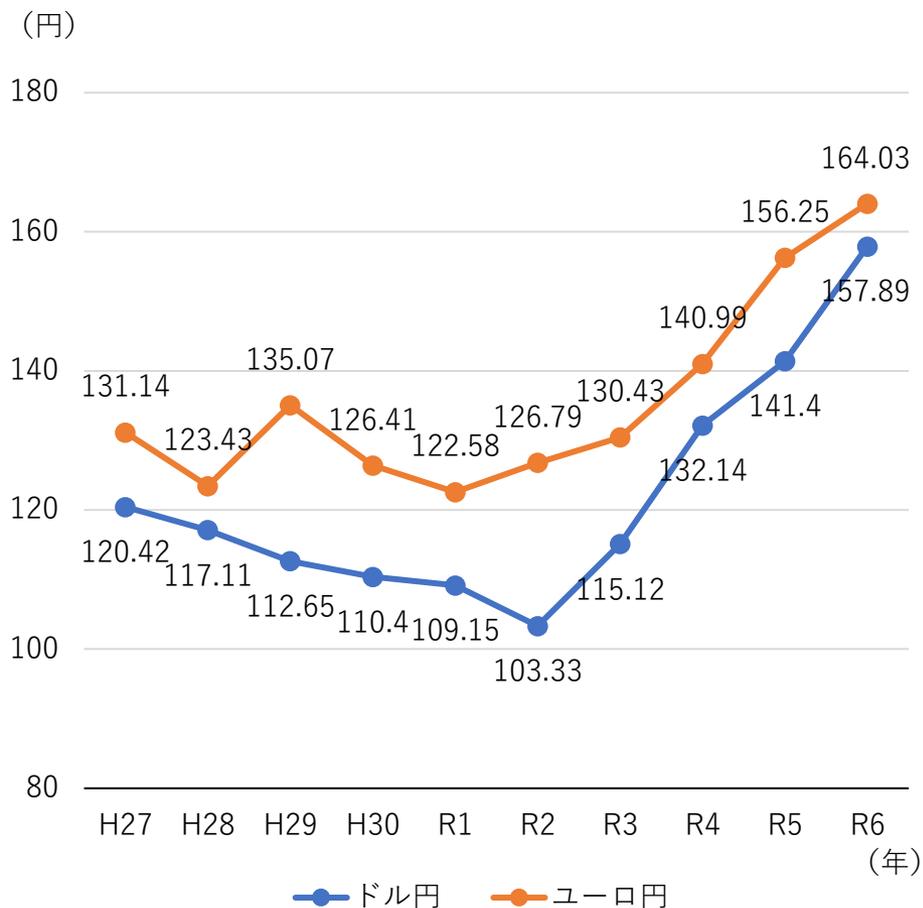
出典) 「2025年冬期スケジュール 国際線定期便の概要」(国土交通省)  
<https://www.mlit.go.jp/koku/content/001967589.pdf>

## 消費者物価指数の推移



出典 「消費者物価指数」(総務省) (R2を100とした場合の各年の総合指数)  
<https://www.stat.go.jp/data/cpi/index.html>

## 為替相場の推移

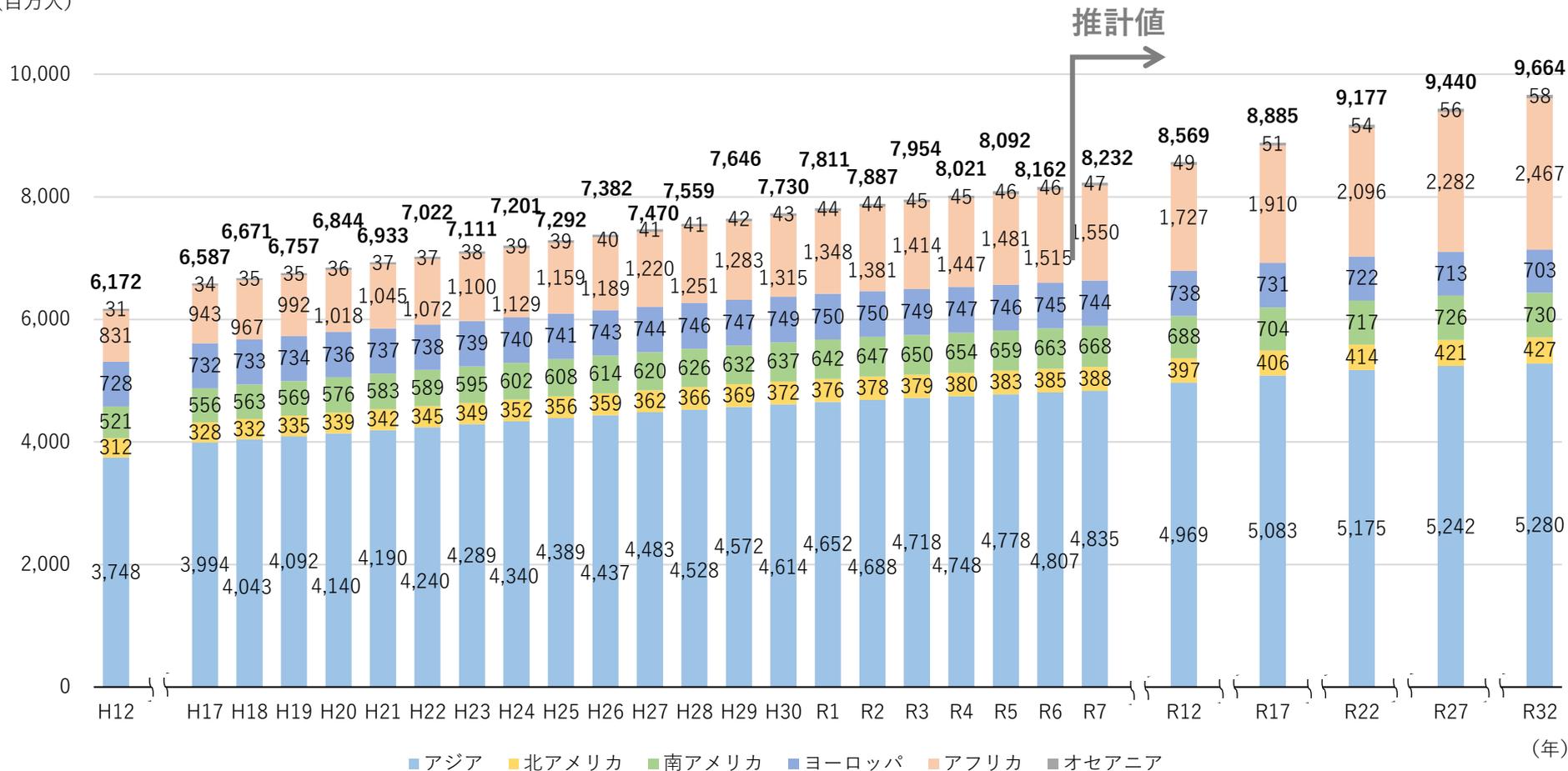


出典 ドル円「時系列統計データ検索サイト」(日本銀行)  
 ユーロ円「Euro foreign exchange reference rates」(European Central Bank)  
<https://www.stat-search.boj.or.jp/>  
[https://www.ecb.europa.eu/stats/policy\\_and\\_exchange\\_rates/euro\\_reference\\_exchange\\_rates/html/eurofxref-graph-jpy.en.html](https://www.ecb.europa.eu/stats/policy_and_exchange_rates/euro_reference_exchange_rates/html/eurofxref-graph-jpy.en.html)  
 ※ 各年年末時点。  
 ドル円は、日本時間17時時点のインターバンクレート。  
 ユーロ円は、中央ヨーロッパ標準時14時15分時点のユーロドルレートを日本時間17時時点のドル円レートで裁定。

# 社会動向【世界の人口推移及び将来推計】

## 世界の人口推移及び将来推計

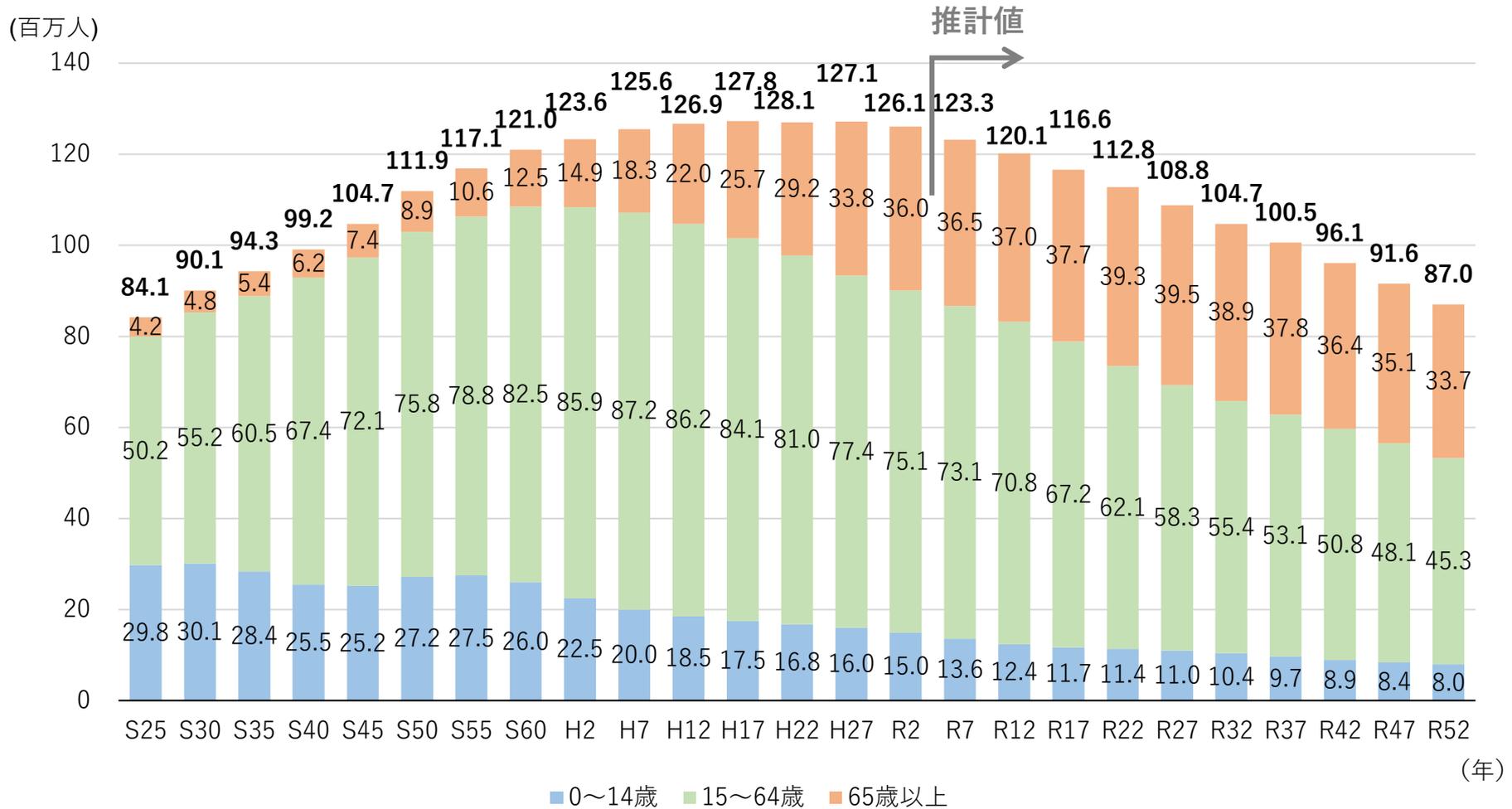
(百万人)



出典) 「世界の統計2026」(総務省統計局)  
<https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html>  
 ※ 各年7月1日現在の推計人口及び将来推計人口(中位推計値)

# 社会動向【日本の人口推移及び将来推計】

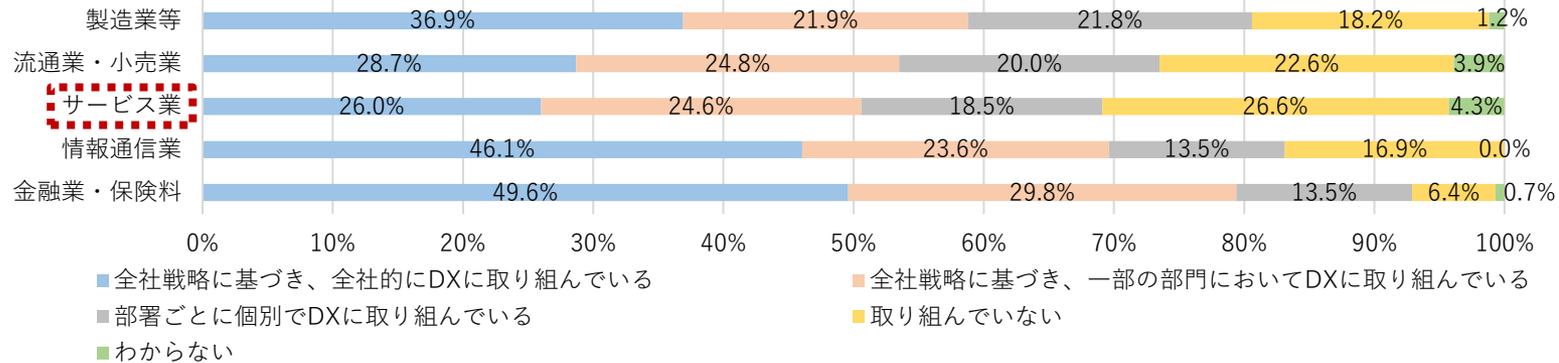
## 日本の人口推移及び将来推計



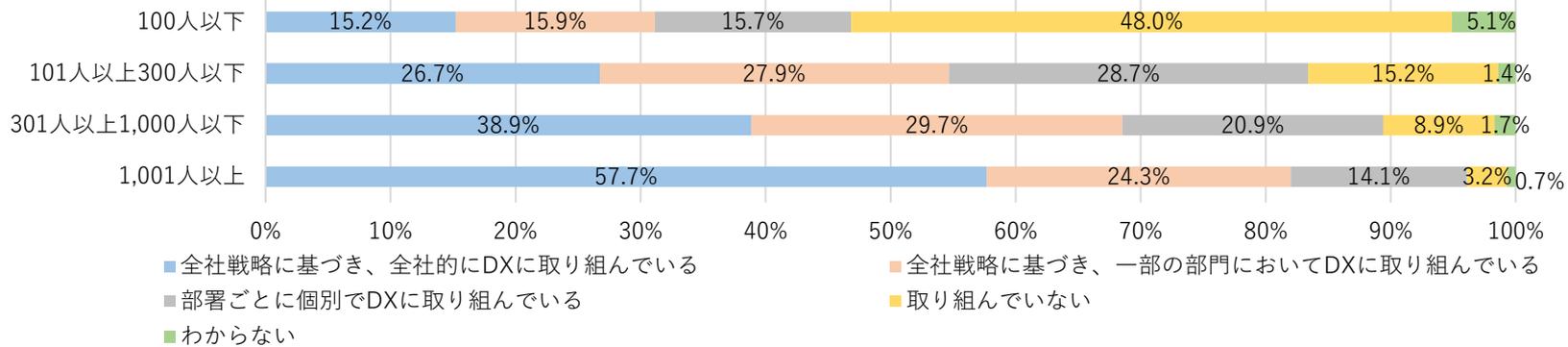
出典 R2まで「国勢調査」（総務省統計局）、R7以降「日本の将来推計人口(令和5年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）  
<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2025/index.html>  
[https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp\\_zenkoku2023.asp](https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2023/pp_zenkoku2023.asp)  
 ※R7以降の人口推計は出生中位(死亡中位)推計による

# 社会動向【DXの動向】

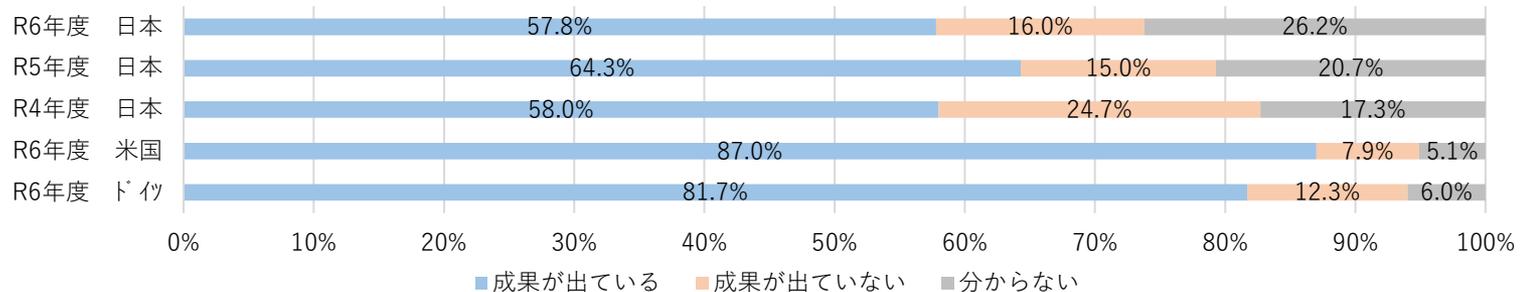
## 国内のDXの取組状況（R7 業種別）



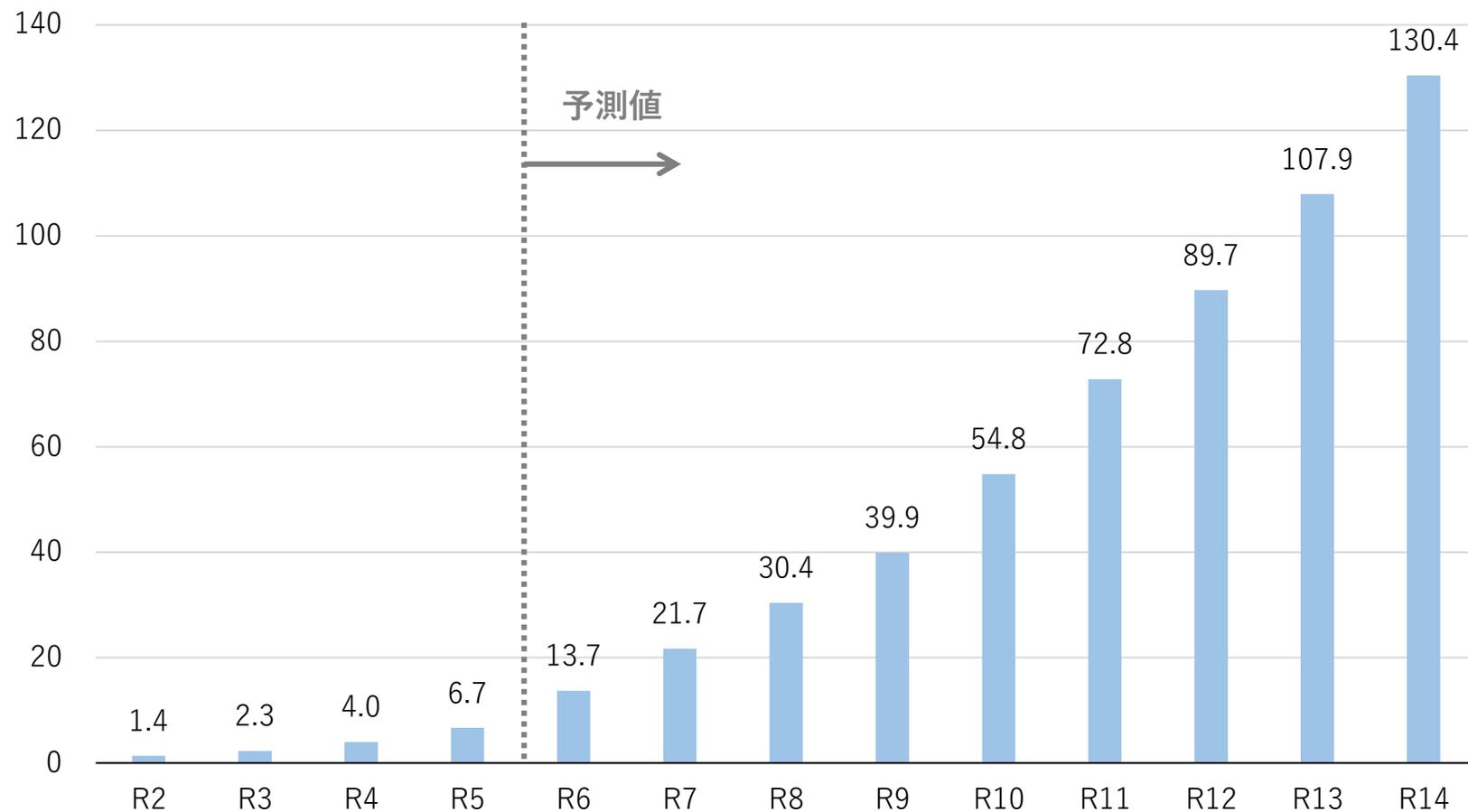
## 国内のDXの取組状況（R7 従業員規模別）



## DXの成果状況（経年変化及び米国、ドイツとの比較）



## 世界の生成AI市場規模予測



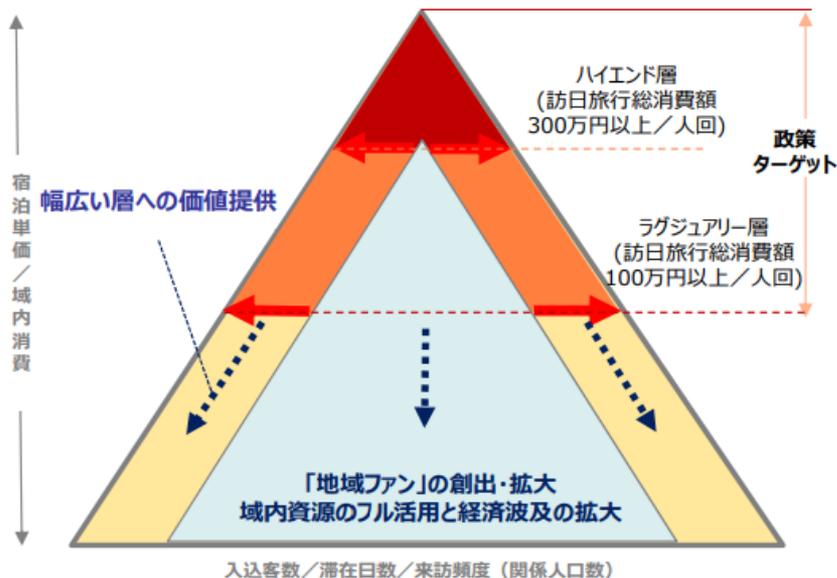
出典)「令和6年版 情報通信白書」(総務省) (Statista (Bloomberg))  
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/html/nd219100.html>

# 社会動向【高付加価値旅行者の動向】

- Knight Frankの「THE WEARTH REPORT」によると、保有資産100万 US\$ 以上の人数は世界全体で約5,295万人（R3）。  
 【主要エリア】北米40.2%、欧州29.0%、アジア22.8%  
 【主要国】米国38.1%、中国13.6%、ドイツ5.6%、フランス4.8%、日本4.7%、英国4.6%
- 高付加価値旅行者（着地消費100万円以上の旅行者）は、単に一旅行当たりの消費額が大きいのみならず、一般的に知的好奇心や探究心が強く、旅行による様々な体験を通じて地域の伝統・文化、自然等に触れることで、自身の知識を深め、インスピレーションを得られることを重視する傾向。
- 高付加価値旅行者は、訪日旅行者数全体の約1%（約32万人）、消費額は約14%（約6,700億円）を占める（R4）。
- 世界の高付加価値旅行者の旅行先において、R1の日本の順位は高くない（欧米豪5箇国の高付加価値旅行者の海外旅行消費額に占める日本の順位：米13位、英36位、独23位、仏23位、豪11位）。

出典）「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けたアクションプラン」（観光庁）  
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001860218.pdf>

## 国における高付加価値旅行者誘致の目指す姿



出典）「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けたアクションプラン」（観光庁）  
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001860218.pdf>

## 高付加価値旅行者の志向

### クラシックラグジュアリー

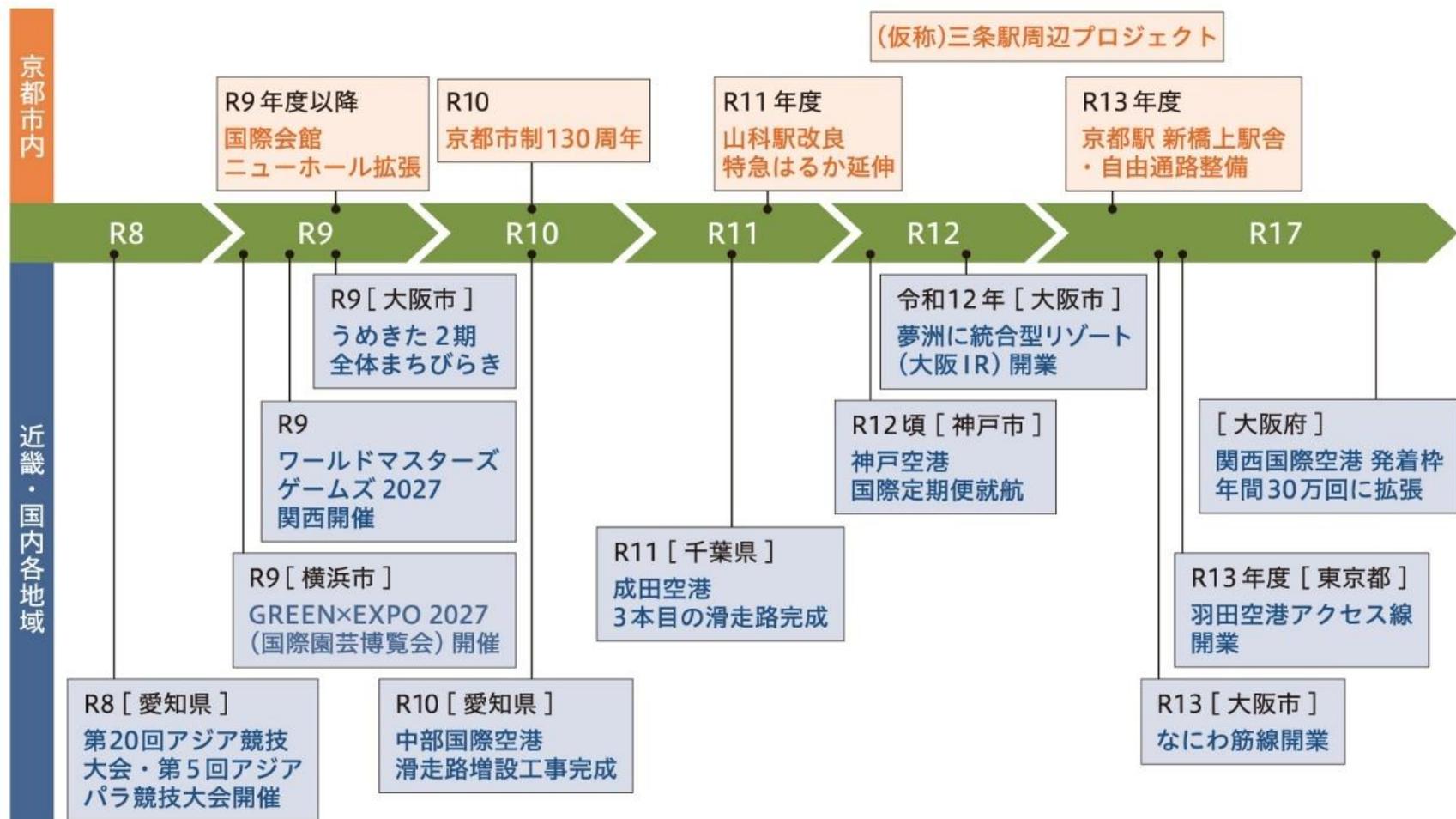
- ・ 50～60代が多い傾向
- ・ 富や権力を重視する価値観
- ・ 目新しいものより慣れ親しんだものを好む
- ・ 旅行に求めるもの：高い快適性、サービスの質の高さ、ステータスシンボル

### モダンラグジュアリー

- ・ 20～30代が多い傾向
- ・ 文化や独自性を重視する価値観
- ・ 新しい体験にも積極的に挑戦する
- ・ 旅行に求めるもの：本物の体験、エコツーリズム、サステナビリティ

出典）「高付加価値なインバウンド観光地づくりガイドブック」（観光庁）  
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001882431.pdf>

## 国内の今後の主要イベント・事業等



- H27.9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択。
- SDGs (Sustainable Development Goals) は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包括性のある社会の実現のため、環境、経済、社会に関して取り組むべき17の目標と169のターゲットを定めた、全人類共通のグローバル目標。
- R1.9月の国連SDGサミットにて、R12まではSDGs達成に向けた取組みを拡大・加速するための「行動の10年」と定められた。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### 実施に当たっての指針（重点事項）

- ① 持続可能な経済・社会システムの構築
- ② 「誰一人取り残さない」包摂社会の実現
- ③ 地球規模の主要課題への取組強化
- ④ 国際社会との連携・協働
- ⑤ 平和の持続と持続可能な開発の一体的推進

出典 「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」（外務省）  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/kaitei\\_2023\\_jp.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/kaitei_2023_jp.pdf)

## 日本版 持続可能な観光ガイドライン (Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations)

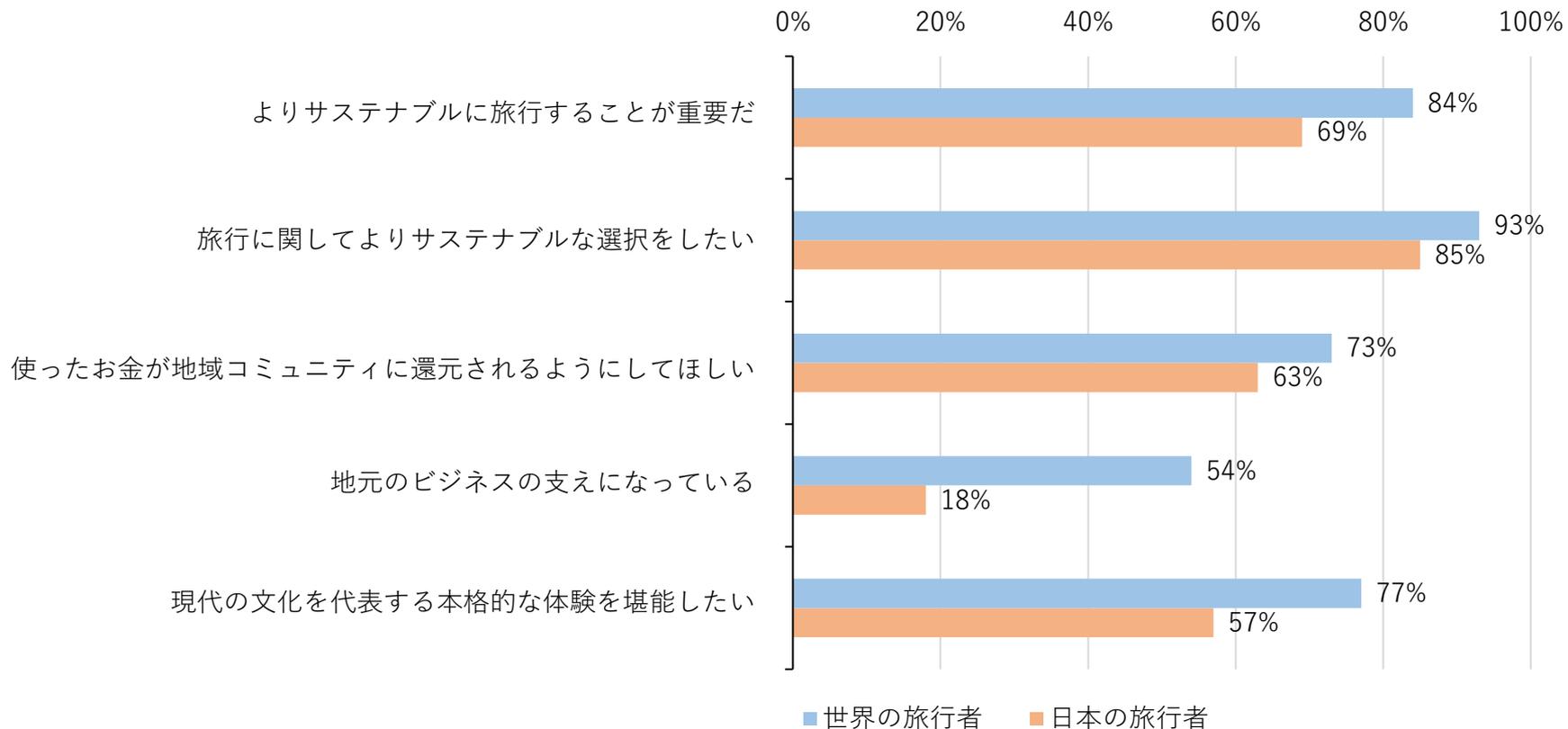
- ✓ 「グローバル・サステイナブル・ツーリズム協議会」（GSTC）が、旅行、観光分野の産業や行政機関によるSDGs達成のための国際基準（GSTC-D: Global Sustainable Tourism Criteria for Destinations）を開発（H25発表、R2改定）。国連において「観光地が最低限守るべき項目」として位置づけられる。
- ✓ 「日本版持続可能な観光ガイドライン」（JSTS-D: Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations）は、観光庁において、日本の特性を各項目に反映した上でGSTC-Dに準拠する形で開発されたもの（R2発表）。  
 持続可能な観光の推進に資するべく、各地方自治体や観光地域づくり法人（DMO）等が多面的な現状把握の結果に基づき、持続可能な観光地マネジメントを行うための観光指標。
- ✓ 同ガイドラインは、SDGsの17の目標に対応するように開発されており、取組そのものがSDGs達成への貢献にもつながる。



京都市は、JSTS-Dに  
 基づき取り組んでいます

出典 「日本版持続可能な観光ガイドライン」（観光庁）  
[https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku\\_seido/kihonkeikaku/jizoku\\_kankochi/jizokukano\\_taisei/torikumi/jsts-d.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku/jizoku_kankochi/jizokukano_taisei/torikumi/jsts-d.html)

## サステナブルな旅行に対する意識



出典) 「2025年版「サステナブル&トラベル」に関する調査」(ブッキング・ドットコム)

<https://news.booking.com/ja/%E3%83%96%E3%83%83%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0-%E3%83%BB%E3%83%89%E3%83%83%E3%83%88%E3%82%B3%E3%83%A0-%E3%80%81-2025%E5%B9%B4%E7%89%88-%E3%80%8C%E3%82%B5%E3%82%B9%E3%83%86%E3%83%8A%E3%83%96%E3%83%AB-%2526%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%99%E3%83%AB-%E3%80%8D%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E7%B5%90%E6%9E%9C%E3%82%92%E7%99%BA%E8%A1%A8/>

# 持続可能な観光【気候変動】

## 【気候変動の定義（気候変動に関する国際連合枠組条約）】

- 地球の大気組成を変化させる人間活動に直接又は間接に起因する気候の変化であって、比較可能な期間において観測される気候の自然な変動に対して追加的に生ずるもの

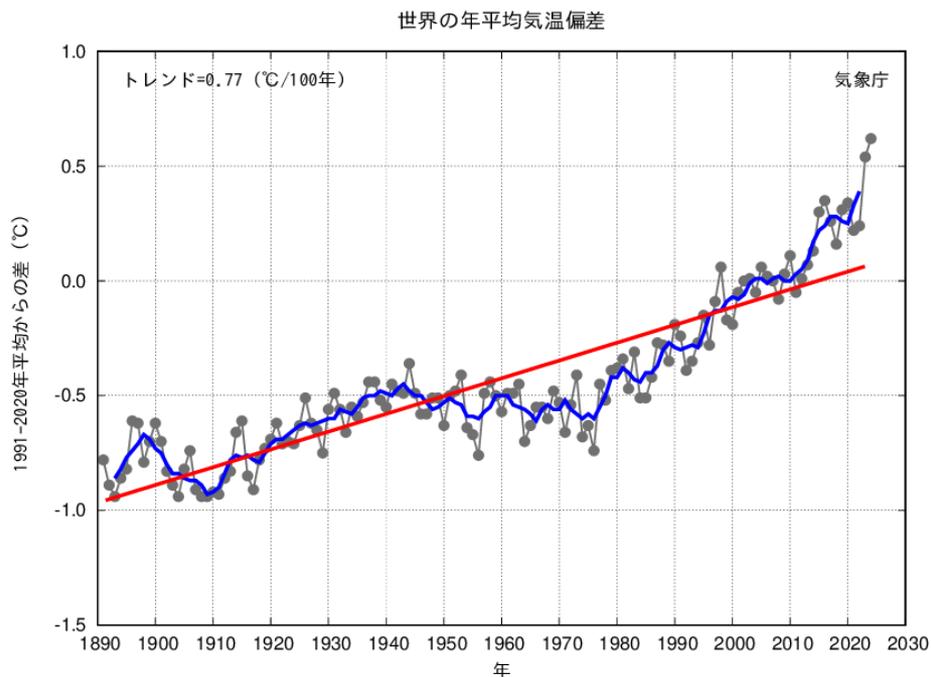
## 【世界共通の長期目標（パリ協定）】

- 世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2°Cより十分低く保つとともに、1.5°Cに抑える努力を追求すること

## 【温室効果ガス削減目標（日本）】

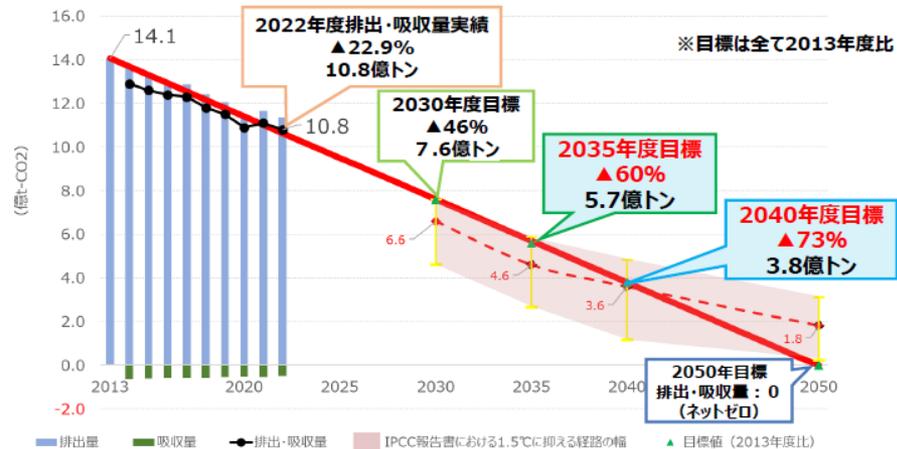
- R12年度までに46%削減（H25年度比）

### 世界の年平均気温偏差の経年変化



出典 「世界の年平均気温」 (気象庁)  
[https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an\\_wld.html](https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_wld.html)

### 日本が掲げるCO<sub>2</sub>の削減目標



出典 「地球温暖化対策計画の概要」 (内閣官房・環境省・経済産業省)  
<https://www.env.go.jp/content/000291668.pdf>

# 第5次観光立国推進基本計画の柱立ての方向性

## 第4次観光立国推進基本計画

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光の質の向上、</li> <li>観光産業の収益力・生産性の向上、</li> <li>交流人口・関係人口の拡大</li> </ul> により、コロナ前より進んだ形で観光が復活
キーワード	持続可能な観光
	消費額拡大
	地方誘客促進
施策の柱	<b>持続可能な観光地域づくり戦略</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光地・観光産業の再生・高付加価値化</li> <li>観光DX、観光人材の育成確保</li> <li>持続可能な観光地域づくりのための体制整備 等</li> </ul>
	<b>インバウンド回復戦略</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ整備、受入環境整備</li> <li>高付加価値なインバウンドの誘致</li> <li>アウトバウンド、国際相互交流の促進</li> </ul>
	<b>国内交流拡大戦略</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内需要喚起</li> <li>ワーケーション、第2のふるさとづくり</li> <li>国内旅行需要の平準化</li> </ul>

## 第5次観光立国推進基本計画（案）

目指す姿（案）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民と観光客双方の満足度の向上</li> <li>交流人口・関係人口の拡大、国際相互理解の促進</li> <li>「働いてよし」の観光産業の実現 により、日本の魅力・活力を次世代にも持続的に継承・発展させる観光</li> </ul>
施策の方向性（案）	観光の持続的な発展
	消費額拡大
	地方誘客促進
	観光と交通・まちづくりとの連携強化
	新技術の活用・本格展開
施策の柱（案）	<b>インバウンドの受入れと住民生活の質の確保との両立</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>局所的・地域的に生じている混雑・マナー違反等への効果的な対策</li> <li>地方誘客を進めるための広域的な体制の整備</li> <li>消費拡大に効果の高い観光コンテンツの充実</li> <li>地方部への交通ネットワークの機能強化 等</li> </ul>
	<b>国内交流・アウトバウンド拡大</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ラーケーション※の促進等による休暇の分散・旅行需要の平準化</li> <li>関係人口の創出や二地域居住の促進</li> <li>国内・海外旅行の需要喚起に向けた機運醸成 等</li> </ul>
	<b>観光地・観光産業の強靱化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能性を高めるためのインバウンド市場・観光コンテンツの多様化</li> <li>観光DX、省力化投資等による生産性向上</li> <li>健全な競争環境の整備</li> <li>ユニバーサルツーリズムなど多様なニーズへの対応 等</li> </ul>

※「ラーニング(learning)」「学習」と「バケーション(vacation)」「休暇」を組み合わせた造語。  
愛知県等の一部の地方公共団体では、子どもが平日に校外学習を行うことで学校を欠席扱いしないことにより休暇の分散化を進めている。

# 新たな基本計画における観光立国の推進に関する目標（案）

新たな基本計画の目標（案）	【2030年】 ＜青字：2024年実績値＞ ＜赤字：2025年実績（速報）値＞	【2030年】 ＜参考＞観光ビジョン <sup>*1</sup> の目標	【2025年まで】 ＜参考＞現行計画の目標
<b>&lt;インバウンドの受入れと住民生活の質の確保との両立&gt;</b>			
<b>1.観光客の受入れと住民生活の質の確保との両立に取り組む地域数【新】</b>	<b>100地域</b> ＜26地域＞＜47地域（確定値）＞	-	-
<b>2.訪日外国人旅行者数</b>	<b>6,000万人</b> ＜3,687万人＞＜4,268万人（推計値）＞	6,000万人	2019年水準超え
<b>3.訪日外国人旅行者に占めるリピーター数【再設定】<sup>*2</sup></b>	<b>4,000万人</b> ＜2,422万人＞＜2,761万人（速報値）＞	（見直し） --- 3,600万人	-
<b>4.訪日外国人旅行消費額</b>	<b>15兆円</b> ＜8.1兆円＞＜9.5兆円（速報値）＞	15兆円	5兆円（早期に）
<b>5.訪日外国人旅行消費額単価</b>	<b>25万円</b> ＜22.7万円＞＜22.9万円（速報値）＞	（見直し）	20万円
<b>6.訪日外国人旅行者の地方部<sup>*3</sup>における延べ宿泊者数【再設定】<sup>*2</sup></b>	<b>1.3億人泊</b> ＜5,086万人泊＞	1.3億人泊	-
<b>7.国際会議の開催件数</b>	<b>アジア最上位、世界5位以内</b> ＜アジア最大開催国、世界7位＞	（見直し）	アジア最大開催国（30%以上）
<b>&lt;国内交流・アウトバウンドの拡大&gt;</b>			
<b>8.国内旅行消費額</b>	<b>30兆円</b> ＜25.2兆円＞	（見直し） --- 22兆円	22兆円
<b>9.日本人の地方部<sup>*3</sup>延べ宿泊者数</b>	<b>3.2億人泊</b> ＜3.1億人泊＞		3.2億人泊
<b>10.日本人の海外旅行者数</b>	<b>過去最高値(2,008万人)超え</b> ＜1,301万人＞＜1,473万人（推計値）＞	（見直し）	2019年水準超え
<b>&lt;観光地・観光産業の強靱化&gt;</b>			
<b>11.宿泊業が創出した付加価値額【新】<sup>*4</sup></b>	<b>6.8兆円</b> ＜4.3兆円（2024年度）＞	-	-

\*1:「明日の日本を支える観光ビジョン」（平成28年3月30日明日の日本を支える観光ビジョン構想会議にて決定）

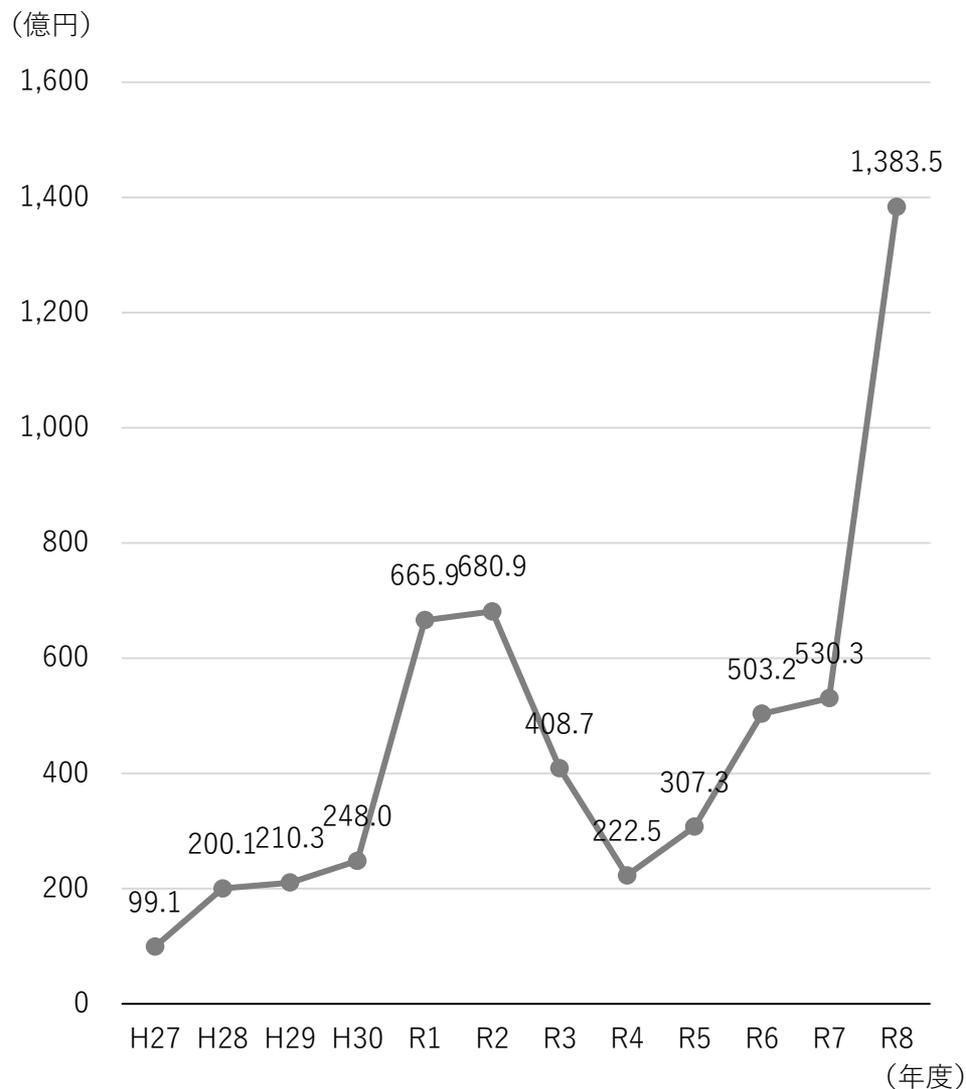
\*2:第3次計画（平成29年3月28日閣議決定）以来の再設定

\*3:基本計画及び観光ビジョンの目標の「地方部」は三大都市圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県）以外の地域をいう。

\*4:付加価値額＝営業純益（営業利益<sup>\*5</sup>－支払利息等）＋人件費（役員給与・役員賞与・従業員給与・従業員賞与・福利厚生費）＋支払利息等＋動産・不動産賃借料＋租税公課

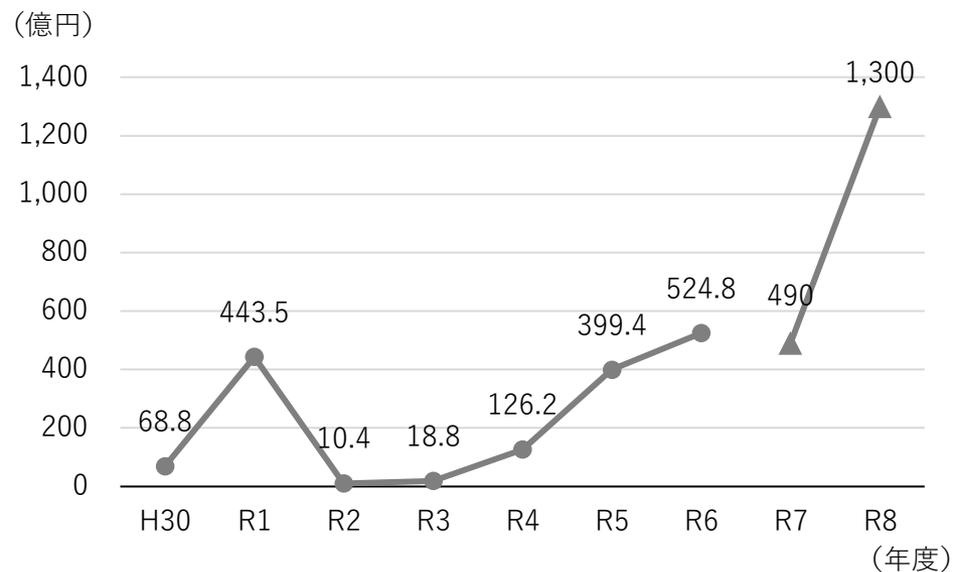
<sup>\*5</sup>営業利益＝売上高－売上原価－販売費及び一般管理費

## 観光庁予算額の推移



出典) 各年の観光庁予算決定概要(観光庁)  
[https://www.mlit.go.jp/kankocho/yosan\\_zeisei/yosan/index.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/yosan_zeisei/yosan/index.html)

## 国際観光旅客税収入の推移



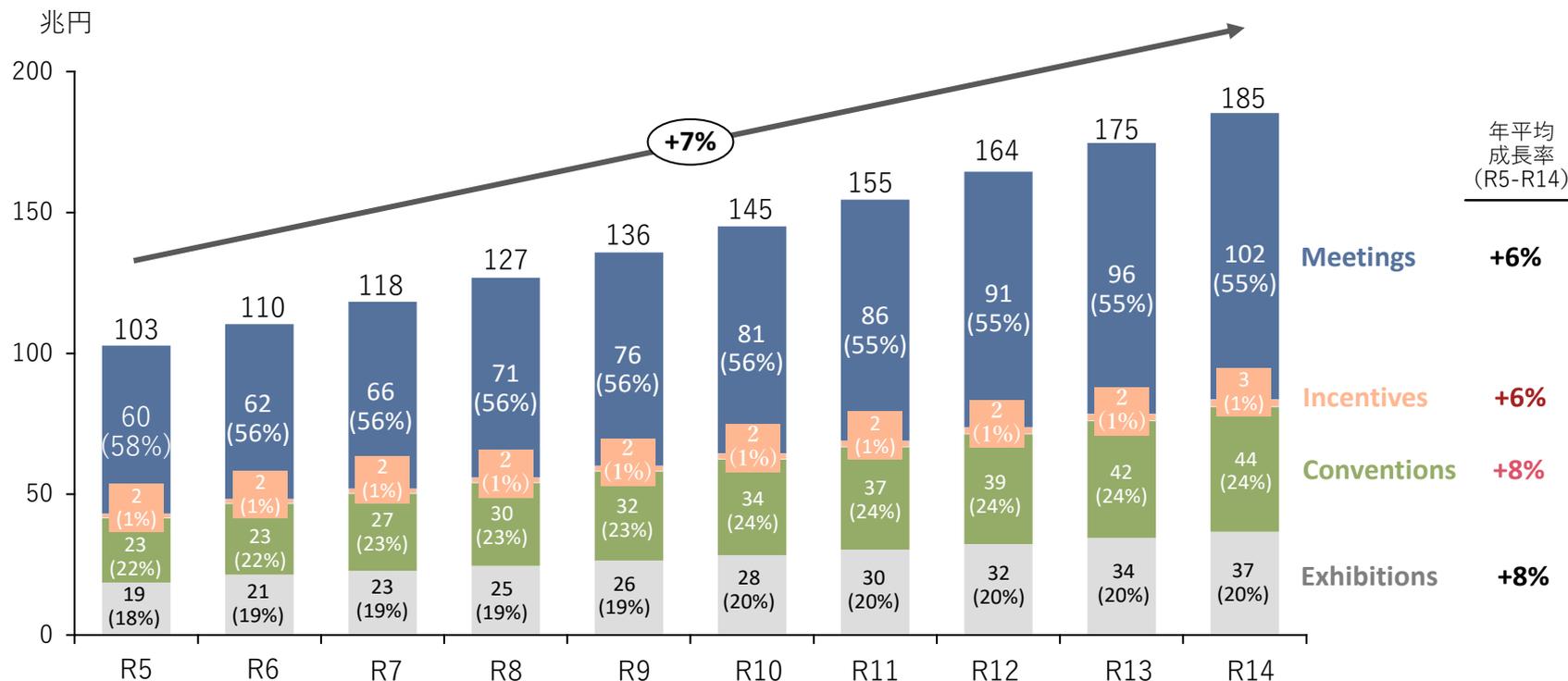
出典) 各年の「租税及び印紙収入決算額調一覧」及び各年の予算政府案(財務省)  
[https://www.mof.go.jp/tax\\_policy/reference/account/data.htm](https://www.mof.go.jp/tax_policy/reference/account/data.htm)  
[https://www.mof.go.jp/policy/budget/budger\\_workflow/budget/index.html](https://www.mof.go.jp/policy/budget/budger_workflow/budget/index.html)  
 ※ 決算額ベース。ただし、R7、8年度は当初予算額

## 国際観光旅客税の概要

税率	出国1回につき1,000円
納税義務者	船舶又は航空機により出国する旅客
適用時期	R1. 1月以後の出国に適用
使途の基本方針	① ストレスフリーで快適に旅行できる環境の整備 ② 我が国の多様な魅力に関する情報の入手の容易化 ③ 地域固有の文化、自然等を活用した観光資源の整備等による地域での体験滞在の満足度向上

# MICEの動向【世界のMICE市場規模①】

MICE全体のグローバルな市場規模の推移予測※1 (兆円※2、%)



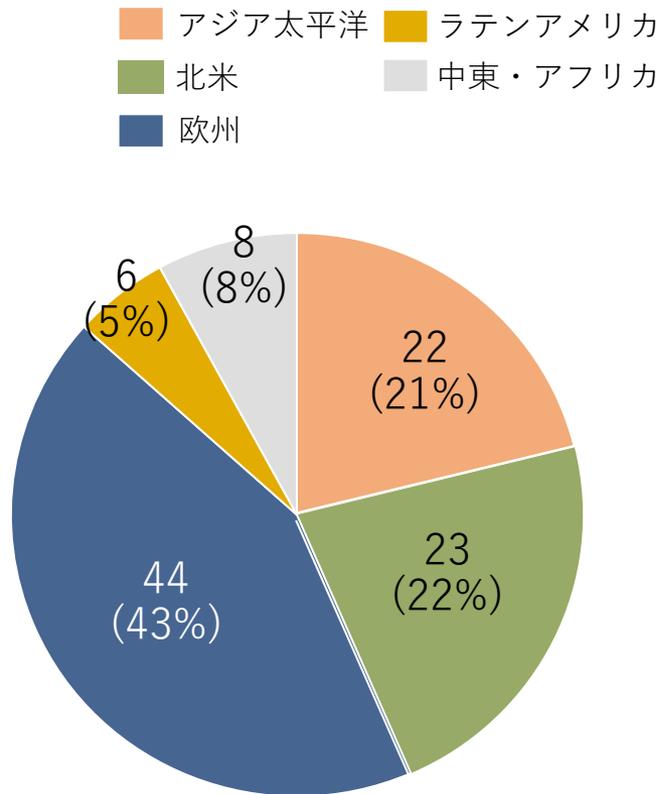
## 市場規模算出方法概要

- 下記の【1】、【2】の算出方法の結果をもとに、【3】エキスパートとの確認をもとに最終的な市場規模推移を算出
- 【1】 **主要企業の売上分析**: 主要企業(Aviareps AG, BCD Group, Beyond Summits Ltd., Capita Plc, IMC International, ITL World Company, and Questex等)のセグメント別売上をもとに算出
  - 【2】 **旅行者数データ分析**: 地域別の旅行者数データに、アンケートで獲得したMICE参加率、一人当たり消費額等をかけて算出
  - 【3】 **業界エキスパートへのインタビュー**: 上記【1】、【2】の結果を踏まえた市場結果に違和感がないかインタビューにて確認

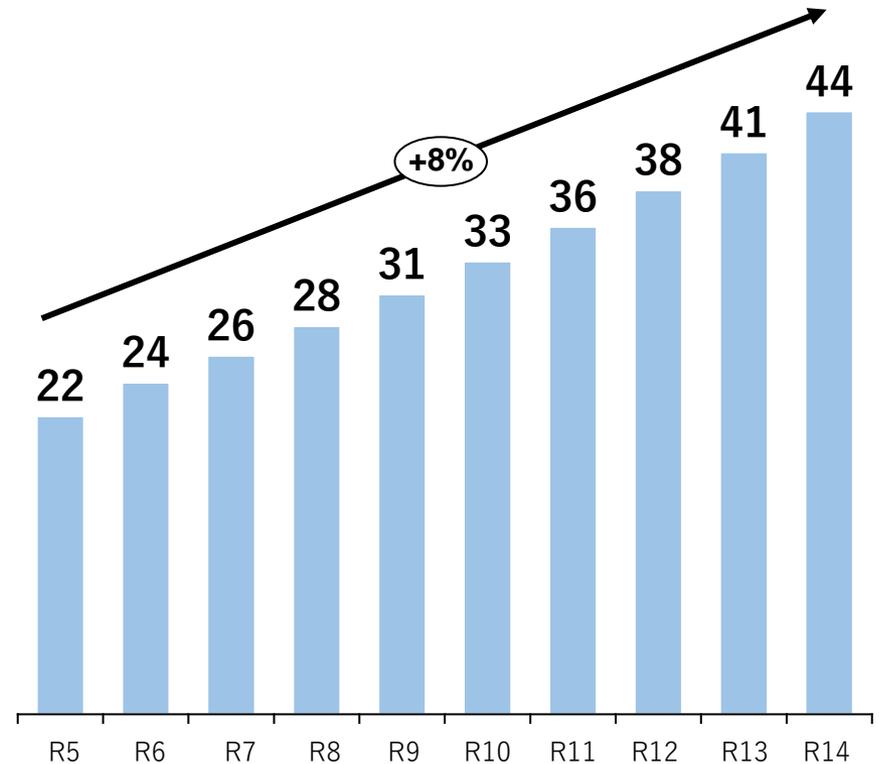
※1 アイルランドに本社を持つ従業員が1,700名所属し、世界銀行、外務・英連邦・開発省、ケンブリッジ大学等にもサービス提供実績を持つResearch and markets社が発行のレポートを参照  
 ※2 令和4年から令和6年の1月31日時点のTTM (三菱UFJリサーチ&コンサルティング)の平均値(131.15円)を用いて円換算  
 出典) Global MICE Industry Market Report and Forecast 2024-2032 (Research and Markets)

## アジア太平洋地域のMICE市場規模

### 地域別MICEマーケットシェア (兆円※、令和5年)



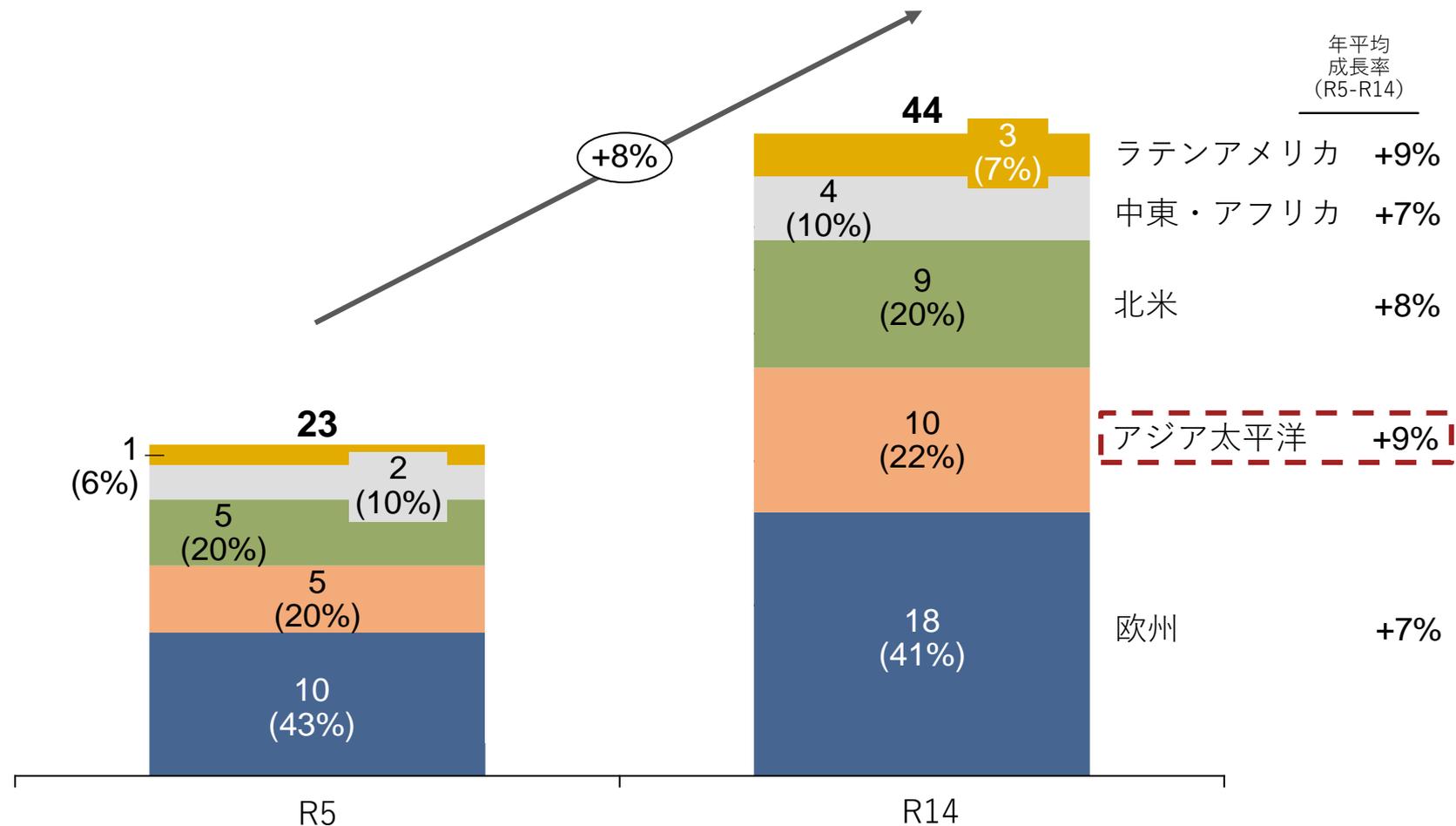
### APACにおけるMICE市場規模の推移予測 (兆円※)



※ 令和4年から令和6年の1月31日時点のTTM (三菱UFJリサーチ&コンサルティング) の平均値 (131.15円) を用いて円換算  
出典) Global MICE Industry Market Report and Forecast 2024-2032 (Research and Markets)

# MICEの動向【世界の国際会議市場規模】

世界の国際会議市場規模推移予測※1 (兆円※2、%)



※1 アイルランドに本社を持つ従業員が1,700名所属し、世界銀行、外務・英連邦・開発省、ケンブリッジ大学等にもサービス提供実績を持つResearch and markets社が発行のレポートを参照  
 ※2 令和4年から令和6年の1月31日時点のTTM (三菱UFJリサーチ&コンサルティング) の平均値 (131.15円) を用いて円換算  
 出典) Global MICE Industry Market Report and Forecast 2024-2032 (Research and Markets)

### 基準

ICCA

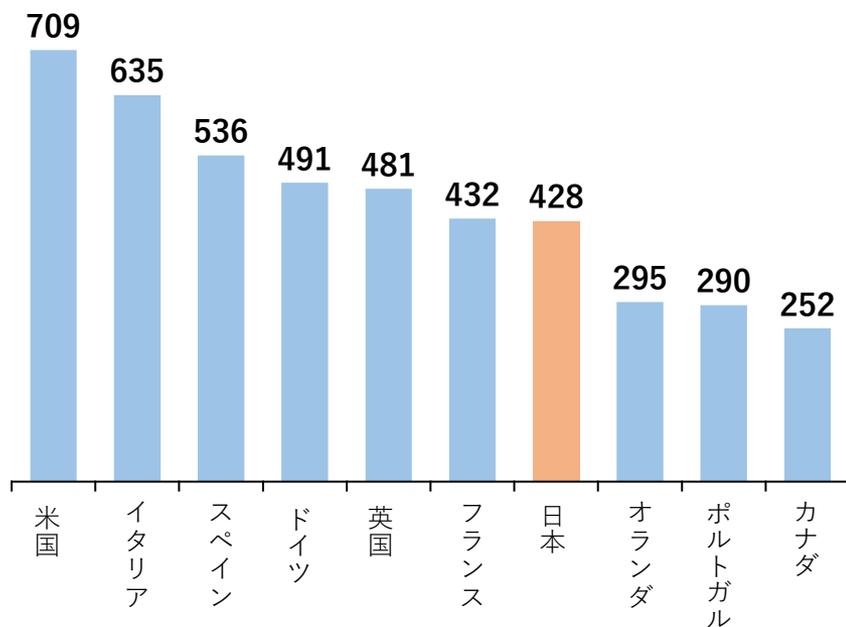
- ① 参加者総数 50名以上
- ② 定期的に開催されていること（1回のみ開催した会議は除外）
- ③ 開催国 3か国以上で会議のローテーションがある（2か国間会議は除外）

### 定義

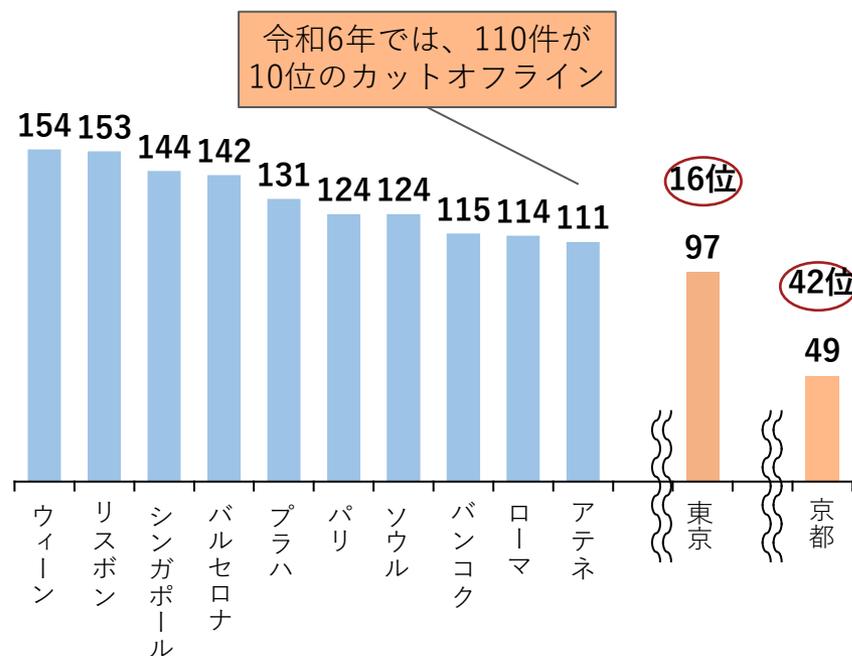
### 留意点

- ◆ 3か国以上でローテーションしなければならぬ
- ◆ 単発不可

### 国別開催件数（上位10か国）



### 都市別開催件数（上位10都市+京都+東京）



# MICEの動向【国際会議開催件数の推移（ICCA）①】

国・都市別（国内）・令和6年上位10位

		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
国別	アメリカ	1,177	1,141	1,125	1,127	1,042	76	126	754	690	709
	イタリア	605	570	609	617	621	39	103	577	553	635
	スペイン	584	613	640	673	648	44	127	580	505	536
	ドイツ	715	804	791	746	802	64	118	539	463	491
	イギリス	678	721	697	662	615	23	69	482	425	481
	フランス	626	607	590	650	646	36	120	515	472	432
	日本※1	444(7位)	497(7位)	471(7位)	531(7位)	548(7位)	36(5位)	78(6位)	243(10位)	363(7位)	428(7位)
	オランダ	352	400	349	415	390	22	45	279	304	295
	ポルトガル	293	324	323	342	363	16	71	314	303	290
	カナダ	349	332	411	355	361	14	22	244	259	252
都市別 (国内)	東京	80	95	101	123	131	公表なし※2		39	91	97
	京都※1	45(2位)	58(2位)	46(2位)	59(2位)	67(2位)	公表なし※2		29(2位)	41(2位)	49(2位)
	大阪	23	25	17	15	21	公表なし※2		5	20	27
	札幌	18	17	24	20	25	公表なし※2		15	17	24
	福岡	30	23	17	26	28	公表なし※2		8	17	21
	横浜	22	21	16	25	21	公表なし※2		15	20	20
	北九州	5	7	8	8	7	公表なし※2		6	— ※3	15
	仙台	9	13	7	22	17	公表なし※2		9	15	15
	名古屋	14	16	25	19	19	公表なし※2		9	11	11
	つくば	— ※3	6	11	9	7	公表なし※2		— ※3	9	9

※1 ( )内は、令和5年の上位10位国・都市内における、それぞれの年の日本・京都市の順位であり、その年の全世界・全都市全体の順位ではないことに留意

※2 新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、令和2年、令和3年の都市ランキングは発表されていない

※3 開催件数が5件未満であり、ICCAのランキング上集計されていない

出典 「2022 京都開催の国際会議」「2023 京都開催の国際会議」(京都文化交流コンベンションビューロー(KCVB)) 「日本政府観光局(JNTO)2023年国際会議統計」より作成(元データは「2022 ICCA Business Analytics -Country & City Rankings」「2022 ICCA Business Analytics -Country & City Rankings」) 各年の「ICCA Business Analytics -Country & City Rankings」

# MICEの動向【国際会議開催件数の推移（ICCA）②】

都市別・上位10位※の変遷

■ : APAC

	H27	H28	H29	H30	R1	R4	R5	R6	
世界順位	1位	ベルリン	パリ	バルセロナ	パリ	パリ	ウィーン	パリ	ウィーン
	2位	パリ	ウィーン	パリ	ウィーン	リスボン	リスボン	シンガポール	リスボン
	3位	バルセロナ	バルセロナ	ウィーン	マドリード	ベルリン	パリ	リスボン	シンガポール
	4位	ウィーン	ベルリン	ベルリン	バルセロナ	バルセロナ	バルセロナ	ウィーン	バルセロナ
	5位	ロンドン	ロンドン	ロンドン	ベルリン	マドリード	プラハ	バルセロナ	プラハ
	6位	マドリード	シンガポール	シンガポール	リスボン	ウィーン	マドリード	プラハ	パリ
	7位	シンガポール	アムステルダム	マドリード	ロンドン	シンガポール	ベルリン	ローマ	ソウル
	8位	イスタンブール	マドリード	プラハ	シンガポール	ロンドン	アテネ	マドリード	バンコク
	9位	リスボン	リスボン	リスボン	プラハ	プラハ	ブリュッセル	ダブリン	ローマ
	10位	コペンハーゲン	ソウル	ソウル	バンコク	東京	ロンドン	ソウル	アテネ
参考	東京	28位	21位	18位	13位	10位	41位	13位	16位
	京都	57位	44位	50位	41位	35位	66位	52位	42位

※ 新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、令和2年、令和3年の都市ランキングは発表されていない  
出典)「日本政府観光局（JNTO）2023年国際会議統計」（JNTO）

# MICEの動向【国際会議開催件数の推移（JNTO）】

## 都市別開催件数・令和6年上位10位

### 基準

### 定義

### 留意点

JNTO

- ① 主催国：国際機関・国際団体（各国支部を含む）又は国家機関・国内団体（各々の定義が明確ではないため、民間企業以外は全て）
- ② 参加者総数：50名以上
- ③ 参加国：日本を含む3か国以上
- ④ 開催期間：1日以上

- ◆ 最も広義
- ◆ 日本だけで開催される会議も対象

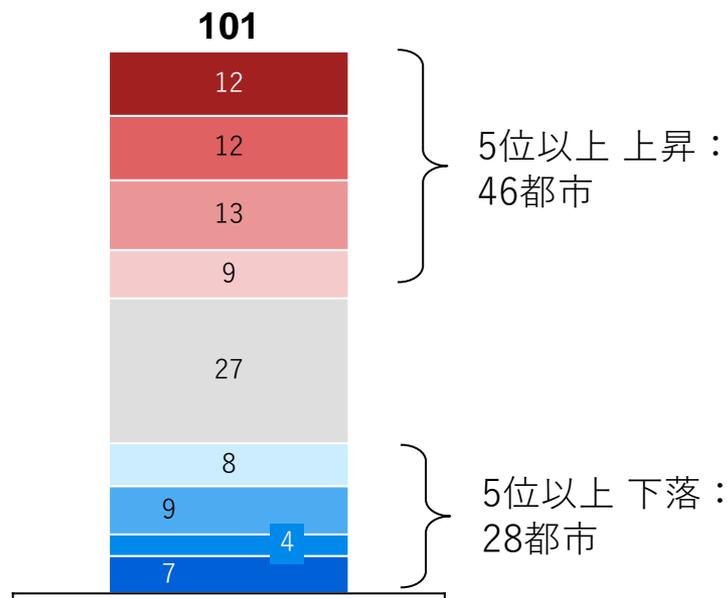
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
東京（23区）	557	574	608	645	561	63	3	134	311	351
京都市※	218(4位)	278(3位)	306(3位)	348(3位)	383(3位)	26(2位)	4(2位)	70(2位)	172(2位)	215(2位)
福岡市	363	383	296	293	313	15	0	33	79	131
横浜市	190	188	176	156	277	9	13	44	98	103
大阪市	139	180	139	152	204	9	0	11	45	89
名古屋市	178	200	183	202	252	9	0	21	62	87
仙台市	221	115	120	116	136	10	1	23	60	76
神戸市	113	260	405	419	438	23	1	19	54	63
北九州市	86	105	134	133	150	6	2	10	45	50
つくば地区 (つくば市、土浦市)	53	50	47	42	54	4	0	11	46	40

※ () 内は、令和6年の上位10位都市内における、それぞれの年の京都市の順位であり、その年の全都市全体の順位ではないことに留意  
出典）「日本政府観光局（JNTO）2023年国際会議統計」（JNTO）

## 都市別開催件数上位100都市のランキング変化※1

### 国際会議開催件数上位100都市※2 (令和4年-令和6年合計) のランキング変化

- 30位以上の上昇
- 20位以上29位以下の上昇
- 10位以上19位以下の上昇
- 5位以上9位以下の上昇
- 4位以下の変動
- 5位以上9位以下の下落
- 10位以上19位以下の下落
- 20位以上29位以下の下落
- 30位以上下落



### ランキング変化の上位都市

	国	都市	R4-R6 合計ランキング	ランキング 変化
ランキング上昇 Top 5※3	スイス	ローザンヌ	81位	+356位
	カタール	ドーハ	100位	+172位
	UAE	アブダビ	56位	+67位
	イタリア	ナポリ	65位	+61位
	イタリア	ボローニャ	43位	+58位
ランキング下落 Top 5	ノルウェー	ベルゲン	94位	+58位
	カナダ	トロント	74位	-37位
	カナダ	バンクーバー	79位	-40位
	米国	シカゴ	99位	-46位
	中国	上海	87位	-58位
参考	中国	北京	85位	-62位
	日本	京都	52位	-8位

※1 令和4年-令和6年、平成29年-令和元年それぞれの合計開催件数で集計し、ランキングを比較。グラフ中の変動は全世界の都市のうち、国際会議開催件数が記録されている都市（1,573都市）内における変化を示す（上位100都市の中での変動ではない）

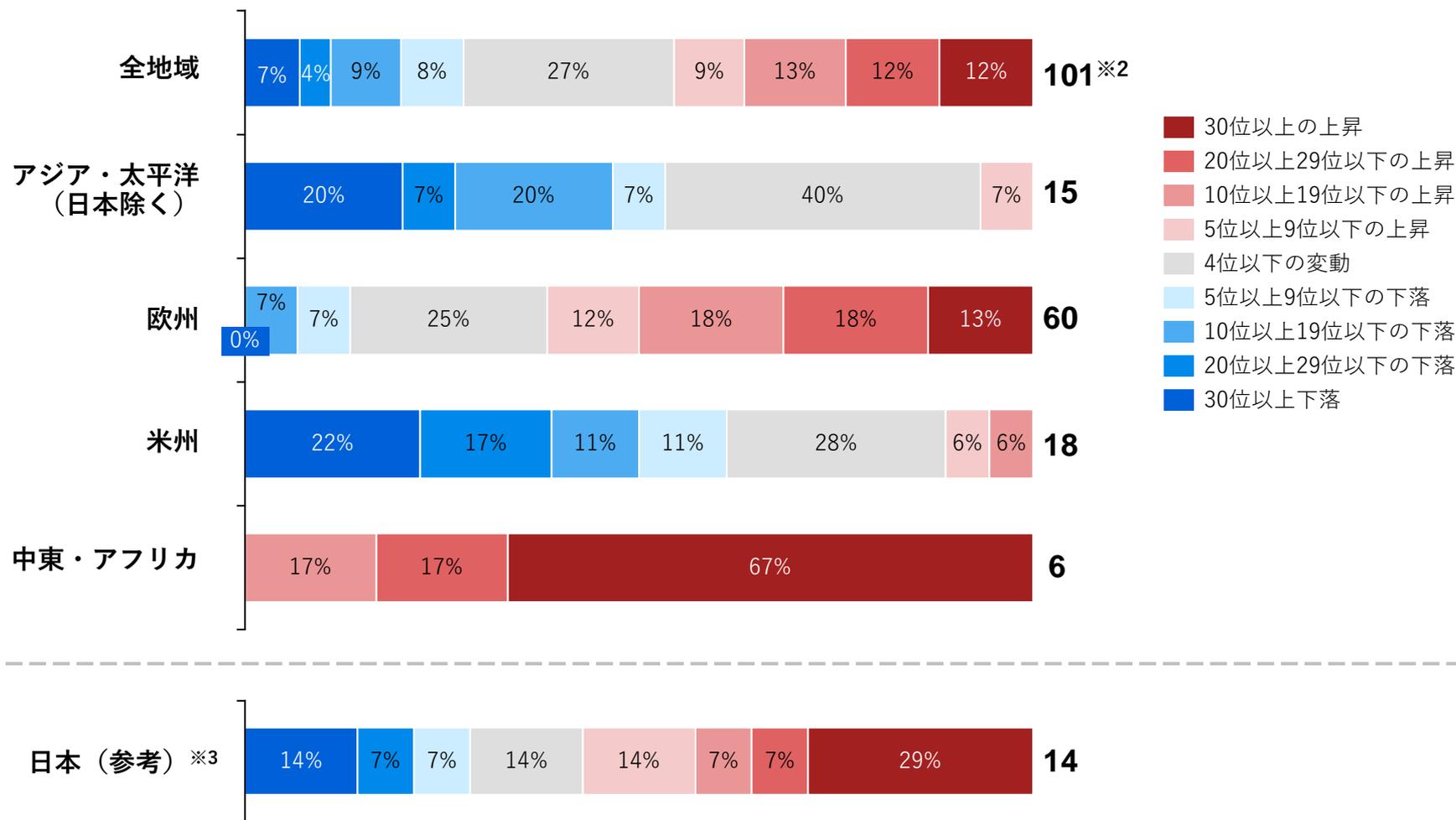
※2 100位の都市が2都市存在するため、合計は101都市となった

※3 5位の都市が2都市存在するため、Top5は6都市となった

出典) 各年の「ICCA Business Analytics -Country & City Rankings」

# MICEの動向【国際会議開催件数の変化（ICCA）②】

## 都市別開催件数上位100都市のランキング変化※1（地域別割合）



※1 令和4年-令和6年、平成29年-令和元年それぞれの合計開催件数で集計し、ランキングを比較。グラフ中の変動は全世界の都市のうち、国際会議開催件数が記録されている都市（1,573都市）内における変化を示す（上位100都市の中での変動ではない）

※2 100位の都市が2都市存在するため、合計都市数は101となった

※3 日本については、令和4年-令和6年の合計で15件以上（年平均5件以上）開催された都市を全て含む  
出典）各年の「ICCA Business Analytics -Country & City Rankings」

# MICEの動向【国際会議開催件数の変化（ICCA）③】

## 都市別開催件数のランキング変化※（上位20都市）

：欧州  
：中東・アフリカ

#	エリア	国	都市	R4-R6 合計開催件数	R4-R6 合計開催件数 ランキング	ランキング変化
1	欧州	スイス	ローザンヌ	84	81位	+356位
2	中東・アフリカ	カタール	ドーハ	65	100位	+172位
3	中東・アフリカ	UAE	アブダビ	115	56位	+67位
4	欧州	イタリア	ナポリ	101	65位	+61位
5	欧州	イタリア	ボローニャ	131	43位	+58位
6	欧州	ノルウェー	ベルゲン	69	94位	+58位
7	中東・アフリカ	トルコ	イスタンブール	216	23位	+47位
8	欧州	ルクセンブルク	ルクセンブルク	69	94位	+42位
9	欧州	ギリシャ	テッサロニキ	118	53位	+40位
10	欧州	スペイン	バレンシア	138	36位	+35位
11	欧州	スペイン	セビリヤ	92	74位	+33位
12	中東・アフリカ	ルワンダ	キガリ	83	83位	+33位
13	欧州	スウェーデン	ウプサラ	88	78位	+29位
14	中東・アフリカ	UAE	ドバイ	140	35位	+28位
15	欧州	アイスランド	レイキャビク	128	46位	+28位
16	欧州	ベルギー	ルーヴェン	107	62位	+26位
17	欧州	イタリア	トリノ	93	73位	+25位
18	欧州	スウェーデン	ヨーテボリ	130	44位	+24位
19	欧州	ベルギー	アントワープ	101	65位	+23位
20	欧州	オランダ	ユトレヒト	69	94位	+23位

※ 令和4年-令和6年、平成29年-令和元年それぞれの合計開催件数で集計し、ランキングを比較。表中の変動は全世界の都市のうち、国際会議開催件数が記録されている都市（1,573都市）内における変化を示す（上位100都市の中での変動ではない）

出典）各年の「ICCA Business Analytics -Country & City Rankings」

# MICEの動向【国外のMICE施設保有状況（建設予定を含む）】

## 国外（APEC上位都市）の主なMICE施設

#	施設名	国	開業年	会議エリアの総収容人数 (人) ※1	会議エリアの延床面積 (㎡)	国際会議 開催件数(R5)
1	China National Convention Center	中国	H20	11,000※2	51,260	3
2	COEX	韓国	S54	6,580※2	46,120	16
3	EXCO	韓国	H13	28,009	40,195	13
4	BEXCO	韓国	H13	7,824※2	73,798	9
5	Ramada Plaza Jeju Hotel	韓国	H15	2,250	1,916	8
6	Inspire Entertainment Resort	韓国	R6	非公開	6,372	不明
7	Melbourne Convention and Exhibition Centre	オーストラリア	H8	23,734	70,000	23
8	ICC Sydney	オーストラリア	H28	42,332	53,162	19
9	Brisbane Convention & Exhibition Centre	オーストラリア	H7	29,274	31,667	16
10	Centara Grand & Bangkok Convention Centre	タイ	H19	11,450	13,223	9
11	Queen Sirikit National Convention Center	タイ	S64	55,826	60,728	8
12	Marina Bay Sands	シンガポール	H22	135,686※3	176,912※3	26
13	Suntec Singapore	シンガポール	H17	6,850	42,000	18
14	Singapore Expo	シンガポール	H11	66,600	123,000	8
15	Kuala Lumpur Convention Centre	マレーシア	H17	8,010※2	12,538	10
16	Borneo Convention Centre Kuching	マレーシア	H21	7,398	14,940	8
17	Galaxy Macau	中国（マカオ）	H23	16,000	40,000	1
18	Galaxy Arena	中国（マカオ）	R5	16,000※4	3,250※4	不明

※1 公式情報として公開されている各会議室等の収容人数の合計値（施設によって収容人数の算出に当たって採用している収容形式（例：スクール形式、シアター形式等）が異なることに留意）

※2 展示ホールの収容人数が公表されていないため、収容人数は会議室と会議場のみの合計

※3 施設を拡張予定で、令和13年1月開業予定

※4 アリーナの面積人数と面積であるため、面積当たりの収容人数が高いことに留意  
出典）各施設HP、ICCA

# MICEの動向【国内のMICE施設保有状況（建設予定を含む）】

## 国内の主なMICE施設

#	施設名	都道府県/都市	開業年	会議エリアの総収容人数 (人) <sup>※1</sup>	会議エリアの延床面積 (㎡)	国際会議 開催件数(R5)
19	東京ビッグサイト	東京都	H8	2,313 <sup>※2</sup>	121,420	1
20	東京国際フォーラム	東京都	H9	11,174	18,027	不明
21	国立京都国際会館	京都市	S41	11,351	51,171	17
22	みやこめッセ	京都市	H8	9,616	10,128	2
23	大阪府立国際会議場	大阪市	H12	4,168 <sup>※2</sup>	4,003	3
24	コンGRESSスクエア グラングリーン大阪	大阪市	R7	1,250	1,175	0
25	インテックス大阪	大阪市	S60	400 <sup>※2</sup>	70,058	不明
26	札幌コンベンションセンター	札幌市	H15	4,673	4,683	4
27	(名称未定)	札幌市	R9 (予定)	非公開	15,000	0
28	福岡国際会議場	福岡市	H15	3,420	1,821	2
29	名古屋国際会議場	名古屋市	H2	7,248	6,700	0
30	愛知県国際展示場	名古屋市	R1	非公開	63,400	0
31	パシフィコ横浜	横浜市	H3	12,314 <sup>※2</sup>	27,650	14
32	神戸国際展示場	神戸市	S56	12,910	13,600	0
33	出島メッセ長崎	長崎市	R3	3,354 <sup>※2</sup>	6,500	不明
34	沖縄コンベンションセンター	沖縄県	S62	7,983	20,928	0
35	マリンタウン国際会議・大型展示場	沖縄県	未定	27,400	20,900	0

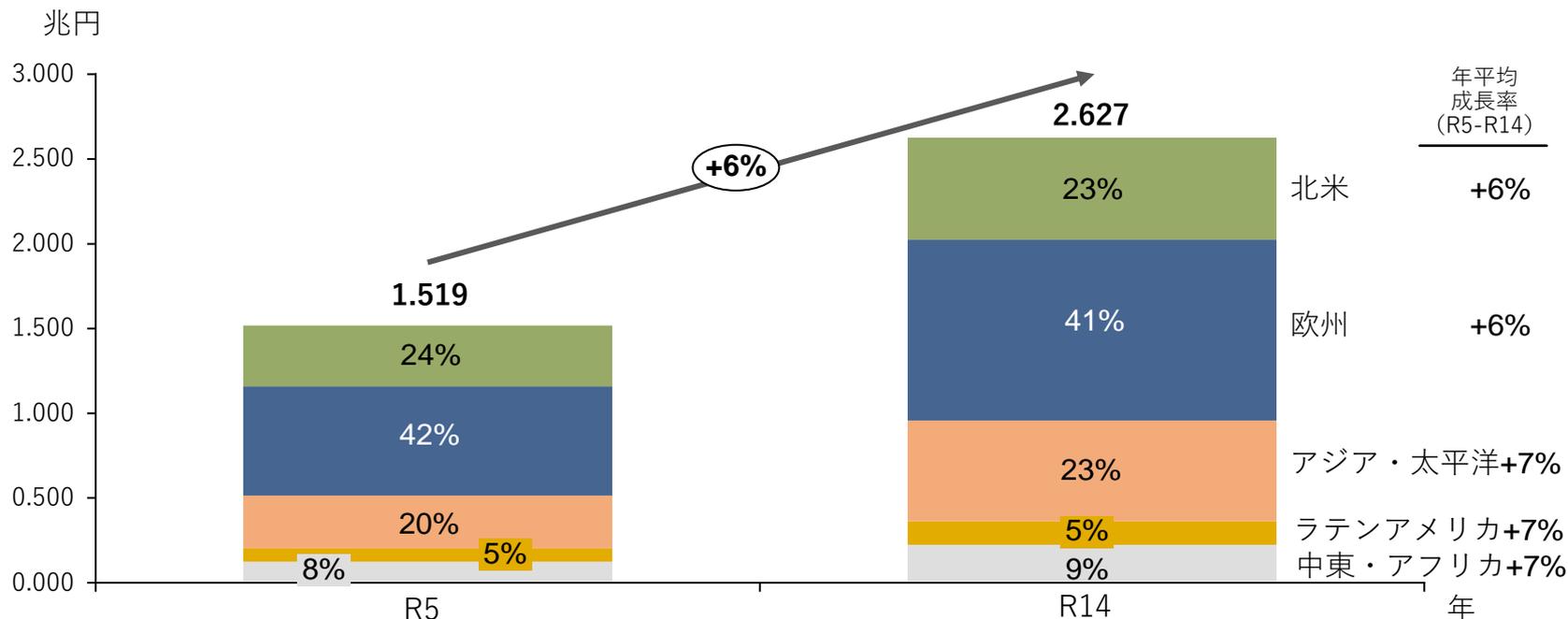
※1 公式情報として公開されている各会議室等の収容人数の合計値（施設によって収容人数の算出に当たって採用している収容形式（例：スクール形式、シアター形式等）が異なることに留意）

※2 一部の会議エリアの収容人数または面積が公表されていないため、公開されている数値のみの合計（実際は記載より多く収容できる）

出典）各施設HP、ICCA

## インセンティブ旅行の地域別市場規模の推移予測

着地別のインセンティブ旅行（Incentives）市場規模推移予測※1（兆円※2、%）



### 市場規模算出方法概要

下記の【1】、【2】の算出方法の結果をもとに、【3】 エキスパートとの確認をもとに最終的な市場規模推移を算出

- 【1】 主要企業の売上分析： 主要企業(Aviareps AG, BCD Group, Beyond Summits Ltd., Capita Plc, IMC International, ITL World Company, and Questex等)のセグメント別売上をもとに算出
- 【2】 旅行客数データ分析： 地域別の旅行客データに、アンケートで獲得したMICE参加率、一人当たり消費額等をかけて算出
- 【3】 業界エキスパートへのインタビュー： 上記【1】、【2】の結果を踏まえた市場結果に違和感がないかインタビューにて確認

※1 アイルランドに本社を持つ従業員が1,700名所属し、世界銀行、外務・英連邦・開発省、ケンブリッジ大学等にもサービス提供実績を持つResearch and markets社が発行のレポートを参照

※2 令和4年～令和6年の1月31日時点のTTM（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）の平均値（131.15円）を用いて円換算

出典）Global MICE Industry Market Report and Forecast 2024-2032（Research and Markets）